

平成28年度
オンリーワンスクール新潟未来プロジェクト
成果報告書

新潟県教育庁高等学校教育課



はじめに

新潟県教育委員会では、地域と連携した特色ある学校づくりをより一層推進するため、平成27年度から「オンリーワンスクール新潟未来プロジェクト」事業を実施しています。今年度は新たに3校を追加指定し、合わせて21校、15案件の事業となりました。

取組の3つの柱として、「地域の産業と結びついた活動」、「地域と学校の連携強化」、「地域活性の拠点化」を掲げており、これらの取組をとおして「地域産業の担い手確保」や、「地域に貢献する人材の育成」、「生徒の地元定着」などにつなげることを目指しています。

2年目の今年度は、各校ともその取組を発展させ、新聞や広報誌などで大きく取り上げられています。地元自治体・企業・中学校と協働したイベントの開催や、地域の専門高校3校によるNPO法人の設立など、全国でも例の少ない先進的な取組が展開されました。

また、魅力的な学校づくりの方向性をまとめた「県立高校の将来構想」では、目指す高校のすがたの1つとして、「地域と連携した特色ある高校」を示しています。本事業の取組はそのモデルケースとなるものと確信しています。

本書は、21校の今年度の取組内容及びその成果等をまとめたものであり、今後の県立高等学校及び県立中等教育学校が、地域と連携・協働した取組を進める上で、重要なヒントを与えるものです。本書を有効に活用し、魅力と活力ある学校づくりが一層推進されることを期待します。

平成29年3月

新潟県教育庁高等学校教育課長 飯田 昭男

目 次

1	新発田南高等学校	1
2	新発田農業高等学校	6
3	新発田商業高等学校	11
4	長岡農業高等学校	16
5	長岡工業高等学校	21
6	長岡商業高等学校	27
7	新潟県央工業高等学校	33
8	三条商業高等学校	39
9	加茂農林高等学校	45
10	栃尾高等学校	51
11	吉田高等学校	58
12	小千谷西高等学校	64
13	塩沢商工高等学校	70
14	十日町総合高等学校	78
15	柏崎工業高等学校	84
16	高田農業高等学校	90
17	上越総合技術高等学校	97
18	海洋高等学校	103
19	阿賀黎明中学校・高等学校	109
20	正徳館高等学校	115
21	佐渡総合高等学校	121

高等学校教育課長 様

学番24 県立新発田南高等学校長

オンラインワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

新発田南高校(新発田農業高校、新発田商業高校)

【テーマ】 芝TAC

～地域活性化プロジェクト～

【目標】

- ① 各校と連携しながら、HPによる商品の宣伝活動や商品開発、インターネット販売等の活動により地域の課題解決を図り、地域の活性化につなげるとともに、地域産業を支える人材の育成を図る。
- ② 地域との連携による収穫祭等の地域イベントの企画・運営などの取組等により、生徒に自主性と責任感を持たせ、起業意識を持った人材の育成を図る。

【取組の概要】

- ① 3校の特性を生かした野菜の製造実験プラント「野菜工場」を立ち上げる。
- ② 3校連携による商品開発やインターネット販売等の活動を実施
 - ・3校連携による模擬株式会社の企画や運営、システムを立ち上げる。
 - ・地域の課題解決に向けた新商品開発や新サービスの提供などの実践に取り組む。
- ③ 収穫祭等の地域イベントの企画・運営
 - ・イベントの立案や企画、運営に参加することにより、起業意識をもつ人材育成につなげる。
 - ・地域と連携したイベントを開催する。
- ④ 6次産業化に対応した実践的な知識と技術の習得
 - ・地域産業の現状及び課題を把握するために、先進的な取組を行っている産官等と連携する。
 - ・「課題研究」で習得した知識・能力を上級学校で、さらに向上させ、地域のリーダーとして地域産業の活性化を図る人材育成につなげる。

【取組の成果】

新発田市内の専門高校(新発田農業高等学校、新発田南高等学校工業科、新発田商業高等学校)が連携して、地域の企業や大学・専門学校の協力を得て新発田地域の活性化を図るとともに地域貢献できる人材を育成することができた。

工業科としてのものづくり特性を生かし「野菜工場」実験プラントの製造ラインづくりに携わることで、農産物の栽培に必要な工業製品を開発し、地域ブランドとして提案できた。

【今年度の取組】

1 芝TAC組織形成

(1) 第1回芝TAC担当者及び生徒打合せ会議

日時 平成28年6月22日(水)

場所 県立新発田南高等学校 電子制御実習室

- 議題 ① リーダー選出、自己紹介
② 芝TACの活動の概要について
③ 南高祭、芝商祭、稲穂祭での連携取組活動について



(2) 第2回芝TAC担当者及び生徒打合せ会議

日時 平成28年7月25日(月)

場所 県立新発田南高等学校 電子制御実習室

- 議題 ① 南高祭、稲穂祭、芝商祭でのパネル展示、各活動
② 農場視察、野菜工場のプラント製作計画

(3) 第3回芝TAC担当者及び生徒打合せ会議

日時 平成28年9月12日(月)

場所 県立新発田南高等学校 電子制御実習室

- 議題 ① 稲穂祭、芝商祭での販売活動、アンケート活動の計画
② 月岡温泉足湯「月姫広場」での芝TACイベント実施について
新発田市地域振興局企画振興部地域振興課と共催

(4) 第4回芝TAC担当者及び生徒打合せ会議

日時 平成28年10月21日(金)

場所 県立新発田南高等学校 電子制御実習室

- 議題 ① 稲穂祭、芝商祭について
② 月岡温泉での芝TACイベントの準備



(5) 第5回芝TAC担当者及び生徒打合せ会議

日時 平成28年12月9日(金)

場所 県立新発田南高等学校 電子制御実習室

- 議題 ① 月岡温泉「あしTAC」の準備
② 新発田市役所新庁舎での合同イベントの打ち合わせ
③ 今後の活動計画について

(6) 第6回芝TAC担当者及び生徒打合せ会議

日時 平成29年1月11日(水)

場所 県立新発田南高等学校 電子制御実習室

- 議題 ① 新発田市役所新庁舎 札の辻広場イベント打ち合わせ
② 次年度の活動計画について

(7) 第7回芝TAC担当者及び生徒打合せ会議

日時 平成29年2月8日(水)

場所 県立新発田南高等学校 電子制御実習室

- 議題 ① 今年度の活動総括、次年度の課題
② 3年生の退任の挨拶

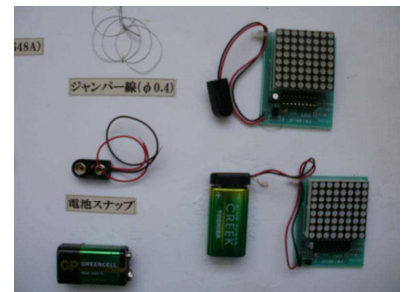
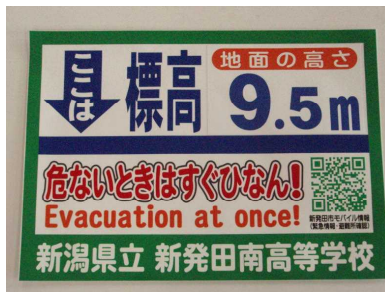
2 3校連携活動並びに地域イベント活動実施の取組

- (1) 南高祭 平成28年 9月17日 (土)
- (2) 稲穂祭 平成28年10月29日 (土)
- (3) 芝商祭 平成28年11月 5日 (土)



(4) 新潟職業能力短期大学校文化祭

10月22日 (土) ~ 23日 (日) 新発田南工業科作品展示



(5) 「あしTAC」 新発田市地域振興局企画振興部地域振興課

日時 平成28年12月17日 (土)

場所 月岡温泉足湯

内容 ストラップ、ペーパーウェイト販売



ポスター

(6) 札の辻広場イベント 新発田市役所

日時 平成29年 1月15日 (日)

場所 新発田市役所 (新庁舎)

内容 ストラップ、ペーパーウェイト販売、アイデアロボット演示、工業科活動紹介



4 野菜の製造実験プラント「野菜工場」の試作機製作

(1) 高儀農園の視察



① 日時 平成28年7月27日 (水)

② 内容

ビニールハウスによる農作物を液肥栽培している農家を訪ね、野菜工場の試作機を製作するヒントやアドバイスを受けた。

新発田農業高校の水耕栽培施設との違いを知り、製作の案につながるものであった。

③ 主な感想

「栽培している作物は夏はトマト、冬はイチゴが中心であった。液肥を与える時間帯と温度管理に注意することが重要である。」「栽培する作物については、付加価値や味の差が出る作物でないと商品として成り立たない。」「ここでは栽培した野菜をレストランで提供することで付加価値を高めている。」

(2) 製作内容 夏休みを利用して、プランターや液肥での栽培設備を製作

(3) 試作機 新潟職業能力短期大学の生産技術科の指導を受けながら、実験製造プラントの試作機を製作。



実験製造プラント

【取組の成果】

1 生徒の感想と次年度の課題

「小さな子供にストラップが良く売れた。売れる商品の製作を検討するという事は授業ではあまり意識していなかったのが芝TACの活動をとおして新しい発見があった。来年はもっと売るということを考えていきたい。」

「製品について質問を受けたとき、的確に答えることができなかった。ものづくりのことばかりでなく製品の説明をするという事を考えたい。」

「昨年より販売活動を多くおこなうことができて良かった。多くのイベントと一緒に活動できたことは良かったが、1つのことをともに行うことは各学校の予定も異なり難しいと思った。来年は野菜工場の取組を全体（3校）でやれるようにしたい。」

「昨年より、多くの打ち合わせと合同イベントを実施することができたが、3校が放課後にいつでも生徒会室のようなところで気軽に集合できるような場所があれば、もっと自然に芝TACが連携した集団になれると思う。」

「芝TACとして月岡足湯温泉で活動をする事ができて良かった。思った以上に商品が売れ、足りなくなってしまった。地域の人たちに芝TACを周知する活動も取り入れた方が良いと思う。」

「イベントで展示しているパネルを改善して、もっとアピールできるようにした方が良い。」

「月岡足湯温泉で行ったような活動を多くして、多くの地域に芝TACのことを広める広報活動に力をいれれば良いと思う。」

「芝TACで活動する時には、もっと子供たちの注目を浴びるようなもの（綿あめ機など）を作ったりすると良いと思う」

「今年は野菜工場のプラントの試作機を新潟職業能力短期大学校と協力して製作したが、来年の課題研究では新発田農業高校や新発田商業高校と連携して、実際に野菜を育てることをできるようにしたい。」

2 期待する成果

昨年以上に多くの活動を共に取り組むことで3校の連携は強化された。さらに新発田市地域振興局や新発田市役所との合同共催による展示、販売、広報活動が実施され、地域との連携は大きく進展した。他にもまだ具体的な活動にはつながっていないが「食の循環によるまちづくり推進委員会」や「新道・掛蔵通り保存推進協議会」といった組織との関わり、地域への連携の深まりがみられた。工業科としては野菜工場製造プラントの試作機製作において、新潟職業能力短期大学校から技術指導を受けることができた。1年間の活動を通じて産・官・学の間が強化でき、「芝TAC」の活動が地元地域から広域かつ全国的に波及する可能性も期待できる。

【総合所見】

2年目の活動として昨年の反省を踏まえて、各校より2学年を中心に芝TACの担当者を選出した。次年度は早い時期から活動を開始することが可能となる。今年度は、3校の文化祭での連携活動や地域イベントへの「芝TAC」での参加が増え、より深い組織が作られてきた。3校が連携して取り組む体制を確立することができたが、一体となって1つの取組ができていないことが課題となっている。

次年度は、新発田南高校の工業科で課題研究の1年間を活用して、「野菜工場の実験プラント試作機」での野菜の栽培とその販売を目指して、3校がそれぞれの強みを生かしながら1つ取組を成し遂げたい。

高等学校教育課長 様

学番 25 県立新発田農業高等学校長

オンラインワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

新発田農業高校(新発田南高校、新発田商業高校)

【テーマ】 芝TAC

～地域活性化プロジェクト～

【目標】

- ① 「課題研究」等で各校と連携しながら、商品開発やインターネット販売等の活動により地域の課題解決を図り、地域の活性化につなげるとともに、地域産業を支える人材の育成を図る。
- ② 地域との連携による収穫祭等の地域イベントの企画・運営などの取組等により、生徒に自主性と責任感を持たせ、起業意識をもった人材の育成を図る。

【取組の概要】

- ① 3校の特性を生かした野菜の製造実験プラント「野菜工場」を立ち上げる。
- ② 3校連携による商品開発やインターネット販売等の活動を実施
 - ・3校連携による事業本部（組織づくり）の企画や運営、システムを学習する。
 - ・地域の課題解決に向けた新商品開発や新サービスの提供などの実践に取り組む。
 - ・芝TACのホームページを立ち上げる。
- ③ 収穫祭等の地域イベントの企画・運営
 - ・イベントの立案や企画、運営に参加することにより、起業意識をもつ人材育成につなげる。
 - ・地域と連携したイベントを開催する。
- ④ 6次産業化に対応した実践的な知識と技術の習得
 - ・「課題研究」の充実を図り、地域産業の課題解決を図る調査研究を実施する。
 - ・「課題研究」で習得した知識・能力を上級学校で、さらに向上させ、地域のリーダーとして地域産業の活性化を図る人材育成につなげる。

【取組の成果】

- ① 新発田南高等学校と連携して野菜製造システムの検討ができたので、次年度は実用化に向けて取組を継続したい。
- ② 芝TACで地域活性化プロジェクト（あしタック～芝TAC月岡足湯冬まつり～）に参加し、地域貢献ができた。
- ③ 「課題研究」を中心とした活動から企業と連携して商品開発を行い、商品化できた。

1 3校連携による活動の実施について

(1) 芝TACの取組について

① 連携会議の開催

毎月1回新発田南高校で開催

② 連携事業

- ・ 9月17日（土）新発田南高校文化祭にて各校紹介パネル展示
- ・ 10月29日（土）本校稲穂祭にて各校紹介パネル展示
- ・ 11月5日（土）新発田商業高校文化祭にて各校紹介パネル展示
農産物販売（米、シクラメン）
- ・ 12月17日（土）月岡温泉「あしタック～芝TAC月岡足湯冬まつり～」に参加
農産物販売（米、シクラメン）
- ・ 1月15日（日）新発田市役所 「デリシャスパーク」にて動物展示

(2) 「野菜工場」について

① 取組について

市内専門高校3校の特徴を生かした野菜工場の確立を模索し、本校では溶液栽培を実施しているため、その点からの情報提供と溶液栽培用苗（コマツナ）の提供を行った。

② 今後の課題

野菜工場の確立と実践を、3校通じて情報を共有しながら取り組むこと。

また、実践については、地域の要望とそれに向けた新商品開発がこれからの課題である。

2 地域イベントの企画・運営等の取組について

(1) 「芝農カフェ」の取組

① 開催日時

- ・ 第1回：平成28年8月6日（土）
- ・ 第2回：平成28年11月19日（土）

② 成果と課題

生徒が、本校で生産した農産物、畜産物を使用し、食材本来のおいしさを引き出して魅力ある献立を考えることから取り組んだ。普段の授業では経験することのない実践的な授業を経験することができ、「芝農カフェ」はたいへん意義深い学習となった。

献立を決定するまでに、何度も試作を重ね、味・見た目・栄養バランス・季節感・コストなど様々な課題を解決し、充実感とともにたいへんさを実感することができた。

また、献立説明のために食材の栄養やカロリーについて調べ、その学習もでき、そして何よりも、本校で仲間が生産した大切な農産物、畜産物を、地域の方々に食べていただいたという喜びを味わうことができた。



メニュー



接客



店内の様子



開店前の様子

(2) 地域交流（赤谷地区活性化事業）について

① 取組について

- ・ 5月6日（金）花壇の除草・交流
- ・ 5月13日（金）花壇のデザイン作成
- ・ 6月24日（金）花壇苗の定植・交流
- ・ 7月28日（木）ソバの播種・交流
- ・ 11月4日（金）ソバの収穫・交流
- ・ 11月18日（金）ソバ打ち・試食



そばの播種



そばの花 1



そばの花 2



そば打ち体験

② 成果について

- ・そばの栽培を行い、地域住民との交流を深めることができた。
- ・赤そば（高嶺ルビー）の圃場が新聞で取り上げられたため、新潟県内からその様子を見るために多くの人々が訪れた。

③ 課題について

赤谷地区の方と交流して5年目となったが、高齢化により活動に参加する方々が減ってきた。また、移動手段の確保が難しく検討が必要である。

3 6次産業化に対応した実践的な知識と技術の習得について

(1) 特別栽培米の栽培について

① 取組内容

- ・10月～ 学校周辺における米の販売、PR
- ・10月13日（木）県庁生協での米の販売、PRの企画・運営
- ・10月29日（土）稲穂祭での米の販売、PRの企画・運営
- ・11月12日（土）～13日（日）全国農業高校収穫祭での米の販売、PR（東京都）
- ・11月19日（土）第2回芝農カフェのメニューとして米を提供、並びに米の販売、PR
- ・12月10日（土）新潟伊勢丹でギフト米の販売、PR（お歳暮商品としてカタログ販売）
- ・12月17日（土）月岡温泉足湯冬まつり（あしタック）での米の販売、PR



県庁生協での販売



稲穂祭での販売



オリジナル米袋



新潟伊勢丹での販売 1



新潟伊勢丹での販売 2



特別栽培米認証表示票

② 主な成果

- ・有機質入りの元肥や穂肥等を購入し、栽培したことにより、特別栽培米としての認証を受けることができた。
- ・特別栽培米認証表示票やオリジナル米袋等を作成したことにより、販売が優位になった。
- ・校外販売を見通した特別栽培米の学習を計画したことで、起業意識が向上する生徒が増加するなど意欲的な活動につながった。
- ・本事業を継続したことにより各種米コンテストの決勝大会に進出でき、新発田農業高校の特別栽培米の認知度が向上した。

4 総合所見

「課題研究」等で各校と連携しながら、商品開発やインターネット販売等の活動により地域の課題解決の図っているが、地域の活性化につなげ、地域産業を支える人材の育成を図るといふ点では、芝TACの取組状況はまだ充分とは言えない。製品の開発については、本校は率先して行っており、これを他校とコラボする活動に発展させていきたい。今後は、本校の農業生産物について、新発田南高校工業科が箱の作成を行い、新発田商業高校がラッピングやPR活動を行うなどの連携を検討したい。

収穫祭等地域イベントの企画・運営など地域と連携した数多くの取組により、生徒の自主性や責任感を育てることや、また起業意識を持った人材の育成について、多くの成果を上げている。携わった生徒は、各々に達成感を味わい自信をつけている。

今後も活動を継続して、地域との連携をより深め、地域創生に貢献できる人材育成の取組を行っていきたい。

(様式1)

芝商第191号

平成29年3月3日

高等学校教育課長 様

学番 26 県立新発田商業高等学校長

オンラインワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

新発田商業高校(新発田農業高校、新発田南高校)

【テーマ】 芝TAC

～地域活性化プロジェクト～

【目標】

- 1 各校と連携をしながら、新発田農業高校や新発田南高校で開発した商品の販売やイベント活動により地域の課題解決を図り、地域活性化につなげるとともに、地域産業を支える人材の育成を図る。
- 2 地域との連携による収穫祭等のイベントの企画・運営などの取組等により、生徒に自主性と責任感を持たせ、起業意識をもった人材の育成を図る。

【取組の概要】

- 1 商品開発や販売活動のPRの実施
 - (1) 新発田農業高校や新発田南高校で開発した商品の販売促進活動に取り組む。
 - (2) 地域の課題解決に向けて、PR活動等に実践的に取り組む。
 - (3) 芝TACの取り組みのPRを行う。
- 2 収穫祭等の地域イベントの企画・運営
 - (1) イベントの立案や企画、運営に参加することにより、起業意識を持つ人材育成につなげる。
 - (2) イベントのPR活動を行う。
- 3 6次産業化に対応した実践的な知識と技術の習得
 - (1) 地域産業の現状及び課題を把握するために、先進的な取組を行っている産官等と連携する。
 - (2) 地域産業の課題解決を図る調査研究を実施する。
 - (3) 専門高校で習得した知識・能力を上級学校で、さらに向上させ、地域のリーダーとして地域産業の活性化を図る人材育成につなげる。

【取組の成果】

- 1 学校独自商品の企画、企業と連携した商品開発やイベントの出店をとおして販売実習を実施した。
- 2 芝TAC主催のイベント「あしTAC」を開催し、生徒の自主性や責任感が生まれた。

1 3校連携による活動の実施について

(1) 芝TAC打ち合わせ会議について

- ① 第1回芝TAC担当者及び生徒打合せ会議
期 日 平成28年6月22日(水)
場 所 県立新発田南高等学校 電子制御実習室
議 題 リーダー選出、芝TACの活動の概要について
- ② 第2回芝TAC担当者及び生徒打合せ会議
期 日 平成28年7月25日(月)
場 所 県立新発田南高等学校 電子制御実習室
議 題 南高祭での連携取組活動について
- ③ 第3回芝TAC担当者及び生徒打合せ会議
期 日 平成28年9月12日(月)
場 所 県立新発田南高等学校 電子制御実習室
議 題 南高祭、農高祭、芝商祭での連携取組活動について
- ④ 第4回芝TAC担当者及び生徒打合せ会議
期 日 平成28年10月21日(金)
場 所 県立新発田南高等学校 電子制御実習室
議 題 芝商祭、稲穂祭での連携取組活動について
- ⑤ 第5回芝TAC担当者及び生徒打合せ会議
期 日 平成28年12月9日(金)
場 所 県立新発田南高等学校 電子制御実習室
議 題 芝商祭、稲穂祭での連携取組活動について
- ⑥ 第6回芝TAC担当者及び生徒打合せ会議
期 日 平成29年1月11日(水)
場 所 県立新発田南高等学校 電子制御実習室
議 題 Delicious Parkでの連携取組活動について
- ⑦ 第7回芝TAC担当者及び生徒打合せ会議
期 日 平成29年2月8日(水)
場 所 県立新発田南高等学校 電子制御実習室
議 題 今年度総括と次年度の活動について



(2) 3校連携活動並びに地域イベント活動実施の取組

- ① 南高祭 平成28年9月17日(土)
- ② 農高祭 平成28年10月29日(土)
- ③ 芝商祭 平成28年11月5日(土)



- ④ あしTAC 平成28年12月17日(土) 月岡温泉 湯足美
 芝TACが初めて主催をしたイベントである。
 ポスターも生徒がデザインし、ホテル・旅館をはじめ多数の場所に掲示した。
 当日は雪が残る中、新発田南高校のストラップや新発田農業高校のコシヒカリ、新発田商業
 高校の企画・開発商品とも準備した商品は完売した。



- ⑤ Delicious Park 平成29年1月15日(日) 新発田市役所 ヨリネスしばた1F 札の辻広場
 新発田市役所が移転に伴い、新たに設置されたイベント広場で、新発田商業高校が主催した
 イベントである。本校が過去に企画・開発した商品や、全国の商業高校生が企画・開発した商
 品の販売、豚丼やラーメン、雑煮といった食品製造販売、市内保育園児の絵画展や地元団体によ
 るステージイベントが行われた。

新発田南高校のロボット操作体験や新発田農業高校のウサギとのふれあい広場、新発田商業高校の企画・開発商品ともに好評であった。



2 地域との連携

(1) 商品開発の取組



- 左端 : 「大峰かおり」を使ったワッフル
 左から2番目 : 紫雲寺の古代米「紫米」を使用したアイス
 中央 : 菊水酒造で作られた乳酸菌発酵酒粕「さかすけ」を使ったチョコレート
 右から2番目 : 新潟県産のコシヒカリを使ったラスク
 右端 : 紫雲寺のサツマイモと菅谷のリンゴを使ったパイ



左：新発田産のサツマイモを使ったバームクーヘン

右：地元洋菓子店「パトラン」協力の豆乳を使ったプリン

(2) 販売活動の取り組み

- 平成28年 6月11日(土) 軽トラ市
- 平成28年 6月18日(土) 100円商店街
- 平成28年 7月 9日(土) 軽トラ市
- 平成28年 7月30日(土) サマーフェスティバル
- 平成28年10月 8日(土)～10日(月) ガス展
- 平成28年11月 6日(日) しばたうまいもん横丁
- 平成29年 1月 8日(日) 雑煮合戦



【6月11日 軽トラ市】



【6月18日 100円商店街】



【7月30日 サマーフェスティバル】



【10月8日 ガス展】

3 生徒の感想

- 昨年度より活発な活動ができた。今後はパネルを見やすく、分かりやすく、興味を引くようなものに改善する必要がある。イベントだけの掲示ではなく、常設掲示できるようにする。
- 昨年度より販売活動を多く行うことができて良かった。しかし芝TACとしての活動が少なかったと思う。地域の生産者や製造業者、商店街と連携でき、教科書で学んだことを実践できたことは良かった。
- 芝TAC主催の「あしTAC」が開催することができて良かった。しかし地域の人たちの中には芝TACが何なのか知らない人も多い。なぜ3校で取り組んでいるのか知ってもらう必要がある。来年度はさらなる知名度向上策が必要である。
- 「高校生が出店してくれると、イベントに活気が出る、街が元気になる」と言っていただきうれしかった。
- お客様から「寒い中お疲れ様」「おいしかったよ」と声をかけていただき励みとなった。商品の企画から売までの苦労が分かった。普段何気なく目にしているパッケージや陳列、POP広告等を考えるのに苦労した。

4 総合所見

- 今後のオンリーワンスクール新潟未来プロジェクトの取り組みを継続、発展させていく上で、新発田南高校工業科と新発田農業高校、新発田商業高校の3校がそれぞれの特色を生かし、連携を進めていき、相互の特色づくりにつながるようにしていきたい。また来年度最終年度を迎えるが、本プロジェクトが終了しても3校連携事業が継続できるように考えていきたい。
- 今年度試作した「野菜工場」を来年度成功させ、商品化・販売へと結びつける。そのためには新発田南高校工業科のプランター作り、新発田農業高校の野菜作り、新発田商業高校の販売促進等、各校の特色・強みを生かし事業を行っていきたい。
- 新発田市ではイベント等も多いため、今後「芝TAC」として新発田市や商店街と連携・情報交換・意思疎通を図りながら出店・PRをしていきたい。

高等学校教育課長 様

学番 3 6 県立長岡農業高等学校長

オンラインワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

長岡農業高校(長岡工業高校、長岡商業高校)

【テーマ】地元理解と地域活性化を通じた海外をも視野に入れた経済的視点の育成
～「緩やかな連携」から「強い絆」へ、長岡CAT第3のステージ!～

【目標】

- 1 長岡市、ながおか未来創造ネットワーク及び地元生産組合等からの協力を得た常設店舗運営を視野に入れた商品選定とオリジナル商品開発及び販路獲得と販売戦略の構築。
- 2 県内交流拠点（アオーレ長岡、長岡駅等）での販売及び常設店舗に関する調査・研究。
- 3 「長岡CAT」合同合宿の実施による役員の意識形成及び共通理解の促進と組織運営の基本の習得。
- 4 地域行事やイベント参加による地域社会に貢献する意識と高校生活満足度の向上。
- 5 高校生が運営する県外の先進的取組の見学等をとおした研修と進路実現への連結。

【取組の概要】

- 1 長岡市や地元商工会議所、生産組合等との連携による商品の開発と改良を行い、地域行事やイベントを実施。
- 2 セミナーハウス（長陵会館）を利用した「長岡CAT」合同研修の実施。
- 3 高校生が運営する県外の先進的な組織の見学・体験研修の実施。
- 4 常設店舗運営に関する調査研究を行い、店舗設計や販売戦略の構築を実施。
- 5 感想文、アンケートによる「事後ふりかえり」の実施。

【取組の成果】

- 1 生産組合等との連携による商品の開発や既存販売品の改良を実施し、イベント等に参加、販売する中で、地域の理解度が向上した。
- 2 セミナーハウス（長陵会館）を利用した合同研修を実施し、学校の枠を超えた共同意識が形成され、組織運営の基本を習得した。
- 3 三重県立相可高等学校の生徒が運営する「まごの店」を見学し、店舗設置、運営に関する研修を実施することで、店舗運営に関する経営手法や商品選定などを理解した。
- 4 地域行政との連携や県外での研修を踏まえ、常設店舗に向けた基礎固めができた。
- 5 「長岡CAT」の活動を通じた調査・研究に取り組み、社会貢献の意識形成ができた。

1 商品の開発や改良の実施と、イベントへの参加や販売に関する取り組みについて

(1) 生産組合との連携による商品開発

長岡市千谷沢のちやざわ生産組合と連携し商品の開発を行った。米粉やバナナカボチャなどを提供していただき、定番のロールケーキやクッキーへの使用だけでなく、ジャムやパンなどに使用し、地元食材の利用、普及に努めた。



(2) 既存販売品の改良

定番のロールケーキについて改良を行い、味だけでなく長岡CATのロゴを生かしたデザインに変更し、知名度向上に努めた。

(3) 長岡まつり民謡流しへの参加

平成28年6月18日（土）に長岡CAT合同研修会を開催した。こめっころーる製造グループワークに取り組み3校間の親睦を深めるだけでなく、長岡まつりの「民謡流し」講習を実施した。

また、平成28年8月1日（月）に長岡まつり民謡流しに参加し、地域理解と長岡CATの知名度の向上につとめた。



アオーレ長岡講習会



長岡まつり民謡流し

(4) おっここ撰田屋市への参加

長岡市撰田屋で毎年開催されるおっここ撰田屋市に参加し、地域住民に長岡CATと長岡農業高校の取り組みをPRした。また、醸造の町として味噌や醤油、清酒等の企業が多くあり、地域との協力と連携に繋がった。

(5) 長岡CATクリスマスイベントへの参加

長岡CATの独自イベントを実施し、長岡農業高校で生産している米や花、農産加工品の販売等を行った。また、体験ブースとしてテラリウムだけでなく、スノードームの製作体験も加わり、より親近感のあるイベントとなった。



販売ブース（農産物・加工品の販売）



体験ブース（テラリウムの作成）

(6) こどもフェニックスフェスティバルへの参加

幼稚園児・小学生対象のイベントとして体験ブースを設置し、テラリウムとスノードームの作成をとおして、交流を行った。また、カフェブースも設け、来年度の常設店舗運営に向けてのシュミレーションを行った。



イベント前の打ち合わせ



カフェブース

2 合同研修実施による共同意識の形成と組織運営方法の習得

(1) 合同研修会の実施

平成28年6月18日（土）に長岡CAT合同研修会を開催した。

グループワークに取り組み、組織運営についての意見交換を行った。また、長岡市の起業支援センターの高橋様より、「起業・常設店舗運営のための基本の『き』」と題してご講演いただき、共同意識の形成と常設店舗運営に向けた共通理解と体制作りを行った。

(2) 株主総会

平成29年2月28日（火）に模擬株式会社長岡CAT株主総会を実施した。今年度の各校事業報告や収支報告、利益処分等が検討され、起業家意識の形成となった。また、来賓の方々より講評をいただき、生徒たちの総会運営もスムーズになり、来年度に向け、よい総括になった。



株主総会の様子



株主総会での説明

3 先進的な組織での見学研修の実施

平成28年8月5日（金）、6日（土）、長岡市の協力を得て、三重県立相可高等学校の生徒が運営する「まごの店」の見学と店舗設置、運営に関する研修を実施した。また、「まごの店」立ち上げに携わった三重県元多気町職員岸川様よりご講演をいただき、店舗運営に関する経

営手法や商品選定などを学んだ。



研修「まごの店」



三重県立相可高等学校の生徒の様子



店舗運営の説明



岸川様の店舗運営講演会の様子

4 地域行政との連携と常設店舗に向けた基礎固め

イベント参加や取締役会、合同研修会等の実施により、生徒間の「強い絆」の構築ができただけでなく、長岡市等との連携も強化された。また、連携会議や取締役会も頻繁に開催され、平成29年度「アオーレ長岡」のホワイエで設置予定の常設店舗に向けた調査・研究も進み、社会貢献の意識形成ができた。



常設店舗の調査会場



アオーレ長岡での販売の様子

5 事後ふりかえりの実施

平成29年2月28日（火）の株主総会において、参加された来賓や株主の方々に感想をお聞きし、温かいご指導と来年度の期待を実感した。また、常設店舗に向けた意識の形成にもなっており、来年度に向けた総括を行い、常設店舗に向けた活動に生かしていきたい。

6 総合所見

(1) 地域行政や生産組合等との連携、商品の開発、イベント参加に関する取り組み

長岡市やながおか未来創造ネットワークとの連携やイベントへの参加を通じ、長岡CATの知名度向上と常設店舗運営に向けた基礎固めとなった。

また、定番商品の改良や、地域連携として米粉や長岡野菜等、地域の素材を生かした商品の開発により、地域に貢献するという意識の形成に繋がった。今後も、地域と連携し、地域が持っている力や資源、財産を生かせるような連携活動を長岡CATを通じて行っていきたい。

(2) 合同研修実施による共同意識の形成と組織運営方法の習得

株主総会や合同研修会を実施したことにより、連携強化に繋がったが、来年度の店舗運営に向けた共同意識の形成、協力体制の構築など、さらなる体制強化が必要と考える。

(3) 先進的な組織での見学研修の実施

三重県立相可高等学校での研修では、生徒が自ら店舗運営に携わり、店を切り盛りする様子を見学し、衝撃を受けたようである。製造も担当する長岡農業高校として、来年度の商品開発と製造に少なからず刺激になった。また、常設店舗を運営する自覚も生まれ、今までのノウハウと見学で習得した知識を生かしていきたい。

(4) 来年度に向けて

模擬株式会社「長岡CAT」の連携も、来年10年目の節目を迎える。その節目の年に常設店舗を運営するにあたり、まだ具体的なコンセプトや経営方針などは決まっていない。これまで蓄積してきたデータを基に、常設店舗のイメージやコンセプトなど、具体的な店舗の形を役員会で検討し、長岡市を起点にした長岡CATの活動として、地元の理解と地域活性化を行っていきたい。

(様式1)

長工第314号

平成29年3月2日

高等学校教育課長 様

学番37 県立長岡工業高等学校長

オンリーワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

長岡工業高校(長岡農業高校、長岡商業高校)

【テーマ】地元理解と地域活性化を通じた海外をも視野に入れた経済的視点の育成
～「緩やかな連携」から「強い絆」へ、長岡CAT第3のステージ!～

【目標】

- 1 長岡市、ながおか未来創造ネットワーク及び地元商工会議所等からの協力を得た常設店舗運営を視野に入れた商品の選定、また、オリジナル商品の開発とそれをふまえた販路獲得、販売戦略の構築。
- 2 上記商品の県内外での交流拠点(アオーレ長岡、長岡駅、新潟空港、新潟県アンテナショップ「ネスパス」等)での販売及び常設店舗経営に関する調査・研究。
- 3 「長岡CAT」合同合宿の実施による取締役会、商品管理部、営業部、経理部及び広報部の部署ごとの意識形成、共通理解の促進と組織運営の基本の習得。
- 4 地域行事やイベントへの積極的参加による地域社会に貢献する意識及び高校生活満足度の向上。

【取組の概要】

- 1 長岡市、ながおか未来創造ネットワーク及び地元商工会議所等との連携による店舗設計や販売戦略を基にした地域行事、イベントへの参加・出店。
- 2 長岡市、ながおか未来創造ネットワーク及び地元商工会議所等の指導、協力を得た常設店舗運営に関する調査研究、店舗設計。
- 3 セミナーハウス(長陵会館)を利用した「長岡CAT」合同研修の実施。
- 4 長岡まつり「民謡流し」の参加。
- 5 オリジナルイベント「長岡CATのクリスマス」(於:リバーサイド千秋)の企画、開催。
- 6 アンケートによる「事後ふりかえり」の実施。

【取組の成果】

- 1 合同研修会を実施し学校間交流を行う中で、「つながり」の意識を形成するとともに、起業支援センターの講義を受け、店舗経営の基本的な知識を学ぶことができた。
- 2 長岡まつり「民謡流し」への参加等知名度向上のための取組やオリジナルイベント、地域イベントでの出店を通じて、地域の一員として貢献することの意義を再確認することができた。
- 3 長岡市、ながおか未来創造ネットワークの協力を得て、次年度以降アオーレ長岡「ホワイエ」内に常設店舗を設営する計画を進めることができた。
- 4 「長岡CAT」の活動をとおして地域の方々とはふれあうことの喜びや、他者と協力して物事を遂行することの大切さを学ぶことができた。

【平成28年度における取組の詳細】

平成28年

4月6日(水)～8日(金) 各クラスで校友会(生徒会)「長岡CAT委員」2名の選出
クラブ紹介で「長岡CAT同好会」の説明と勧誘活動

4月12日(火) 第1回担当者(指導教員)会議

- (1) 平成28年度の運営について
- (2) 第1回取締役・監査役会について
- (3) 合同研修会について

4月13日(水) 長岡CAT委員会集会 取締役4名 監査役7名の選出

4月25日(月) 第1回長岡市との連携協議

長岡市側の出席者 地域振興戦略部 上村課長 アオーレ交流課 桜井係長
ながおか未来創造ネットワーク 川井リーダー

- (1) 平成28年度「長岡CAT」の活動計画について
- (2) 平成28年度の長岡市からの支援について
- (3) 合同研修会について

5月6日(金) 第1回取締役会議

- (1) 平成28年度「長岡CAT」の活動計画について
- (2) 平成28年度の長岡市からの支援について
- (3) 合同研修会について

5月31日(火) 第1回取締役・監査役会

(長岡地区専門高校活性化会議)

- (1) 各校役員の自己紹介
- (2) 代表取締役社長選出選挙
- (3) 今年度の活動及び参加・
出店(予定)イベントについて
- (4) オンリーワンスクール
新潟未来プロジェクトについて



第1回取締役・監査役会

6月14日(火) 第2回取締役会議

- (1) 合同研修会の内容と役割分担について
- (2) 長岡まつり「民謡流し」の参加について

6月18日(土) 合同研修会(於：長陵会館(長岡工業高校セミナーハウス)時間：8時30分～17時00分)

内容 研修Ⅰ 長岡甚句と大花火音頭の踊りの習得
(昼食づくり＝協力体制の構築)

研修Ⅱ 仲間づくりのためのグループワークトレーニング

研修Ⅲ 講義 「起業・常設店舗運営のための基本の『き』」

講師：起業支援センターNAGAOKA 副センター長 高橋秀明 様

7月26日(火) 第2回担当者会議

- (1) 長岡まつり「民謡流し」参加についての最終確認

8月1日(月) 長岡まつり「民謡流し」参加(長商12人 長農13人 長工11人 計36人参加)



長岡甚句の踊り練習



長岡まつり民謡流し

9月20日(火) 長岡CAT校内委員会
(1) 今秋のイベント出店予定について (2) 常設店舗設営に向けて
第3回取締役会議

(1) 今秋のイベント参加・出店について

①おっここ撰田屋市 ②運営各校文化祭 ③長商全国食King

(2) 平成29年度常設店舗設営に向けた準備について

10月8日(土) おっここ撰田屋市 出店(於:吉乃川酒造株式会社敷地内) 9:00~16:00

販売商品:メタルプレート ストラップ 手織コースター オリジナル軍手 など

11月1日(火) 第2回長岡市との連携協議

長岡市側出席者:アオーレ交流課 五十嵐課長補佐 桜井係長

ながおか未来創造ネットワーク 川合リーダー

(1) 平成29年度常設店舗設営の基本方針について

11月12日(土) 長商全国食King(於:Eプラザ)

13日(日) 販売商品:ストラップ 手織コースター オリジナル軍手 など



おっここ撰田屋市



長商全国食King

11月18日(金) 第4回取締役会議 兼 第3回長岡市との連携協議

長岡市側出席者:アオーレ交流課 五十嵐課長補佐

ながおか未来創造ネットワーク 川合リーダー

(1) 平成29年度常設店舗設営に向けた準備について

生徒による協議

①店舗のコンセプトについて

②商品構想及び商品選択について

長岡市との協議

店舗の場所の選定及び

それに伴う事務手続きについて

(2) オリジナルイベント

「CATのクリスマス」について

(3) その他



連携協議会

12月8日(木) 「長岡CAT」運営に係る校長、教頭、担当者会議 兼 第4回長岡市との連携協議

長岡市側出席者:アオーレ交流課 山田課長 五十嵐課長補佐

ながおか未来創造ネットワーク 川合リーダー

(1) 平成29年度常設店舗に向けた今後の方向性について

①これまでの協議経過のまとめ

②長岡保健所との折衝結果について

③基本方針の確認

- ア 常設店舗の開設場所は、アオーレ長岡内「ホワイエ」とする。
- イ 常設店舗においては当面「カフェ」の運営を行わず、物品販売を基本とした営業スタイルとする(イベント出店では「カフェ」を運営する)。
- ウ 営業日は各校の年間行事計画等を念頭に置きながら検討することとし、土曜日・日曜日・祝日に各月おおむね2～4日の営業日を設ける。
- エ 営業時間は季節や販売商品により変動させるが、10時～15時を基本とする。
- オ 販売する商品は、従前の各校持ち寄りの商品に加え、オリジナルの定番・目玉商品の企画に努め、また、「地場産品」等の発掘・紹介も行うこととする。

(生徒の発案や協議の結果をできるだけ尊重する)

④課題

- ア 税法上及び税制上(所得税・消費税等)の課題
- イ 申請手数料等発生 of 課題

(2) オリジナルイベント「長岡CATのクリスマス」について

(3) アオーレ長岡イベント「こどもフェニックスフェスティバル」について

12月12日(月) 第5回取締役会議 兼 第5回長岡市との連携協議

長岡市側出席者：ながおか未来創造ネットワーク 川合リーダー

(1) オリジナルイベント「長岡CATのクリスマス」の最終確認について

(2) アオーレ長岡イベント「こどもフェニックスフェスティバル」について

(3) 平成29年度常設店舗設営に向けた基本方針について

12月16日(金) オリジナルイベント「長岡CATのクリスマス」前日準備・会場設営(16:45集合
17:00準備開始 於：リバーサイド千秋アピタ1F イベントホール)

12月17日(土) オリジナルイベント「CATのクリスマス～ニャンダフォー2016～」開催 (於：リバーサイド千秋アピタ1F イベントホール)

〔日程概要〕

- (1) 集合・点呼 8:00
- (2) 朝礼 8:10 ～ 8:20
- (3) 店舗設営 8:20 ～ 9:40
- (4) 出陣式 9:40 ～ 9:55
- (5) 販売等 10:00 ～15:30(売上げ集計)
- (6) 片付け・清掃 15:30 ～16:30
- (7) 解散・移動 16:30 ～

〔本校販売品〕

- (1) 糸から染めた手づくり軍手
- (2) ティッシュボックスカバー
- (3) オリジナルストラップ 等

〔本校ワークショップ〕

- (1) クリスマス三角帽づくり
- (2) さかな釣り
- (3) シャトル投げロボット



長岡CATのクリスマス

12月18日(日) アオーレ長岡イベント「こどもフェニックスフェスティバル」出店(於：アオーレ長岡 アリーナ)

〔日程概要〕

- (1) 集合・点呼 8:00
- (2) 朝礼 8:10 ～ 8:20
- (3) 店舗設営 8:20 ～ 9:40
- (4) 出陣式 9:40 ～ 9:55
- (5) 販売等 10:00 ～15:00(売上げ集計)
- (6) 片付け・清掃 15:00 ～16:00
- (7) 解散・移動 16:00 ～

〔本校販売品〕

- (1) 糸から染めた手づくり軍手
- (2) ティッシュボックスカバー
- (3) オリジナルストラップ 等

〔本校ワークショップ〕

- (1) クリスマス三角帽づくり
- (2) さかな釣り



こどもフェニックスフェスティバル

平成29年

1月27日(金) 第3回担当者会議 兼 第6回長岡市との連携協議(於：オフィスラボ(樋熊ビル5F))
長岡市側出席者：ながおか未来創造ネットワーク 川合リーダー

- (1) 平成29年度常設店舗設営について
- (2) 平成29年度新潟未来プロジェクト計画書の作成について
- (3) 平成28年度新潟未来プロジェクト報告書の作成について

2月8日(水) 第4回担当者会議 兼 第7回長岡市との連携協議(於：長岡工業高等学校 小会議室)
長岡市側出席者：ながおか未来創造ネットワーク 川合リーダー

- (1) 平成29年度常設店舗設営について
- (2) 平成29年度新潟未来プロジェクト計画書の作成について
- (3) その他

2月28日(金) 模擬株式会社「長岡CAT」平成28年度株主総会(於：長岡工業高等学校 会議室)

- (1) 報告事項 事業報告及び各校活動報告
- (2) 議案審議 第1号～第4号議案
- (3) 指導講評 新潟経営大学経営情報学部 吉田一郎教授 学校評議員 ほか
- (4) その他

【取組に対する生徒の意見、感想等】

1 年度当初の取組に対する気持ち

- ・自分から選んだ訳ではなかったけどやるからにはしっかりやろうと思った。
- ・聞いた内容にやりがいを感じた。
- ・説明を聞いたとき、楽しそうだなと思って自分から進んでこの委員会に臨んだ。
- ・地域のため頑張ろうと思った。

2 事前の活動に対する理解と当日の活動への積極性について

- ・商品作りや動作の確認などしっかりはやくすることができた。
- ・人前での活動なので、明るくふるまったりした。
- ・全体的に明るい雰囲気に参加しやすい感じだった。
- ・イベントとしては他の学校より弱かったけど工業なりにできていたと思う。
- ・どういう風に動けば良いのかなど説明が少し足りなかった。
- ・声出しや客寄せがあまりできなかった。
- ・先生に行動を指摘されることもあったけどやりとげた。

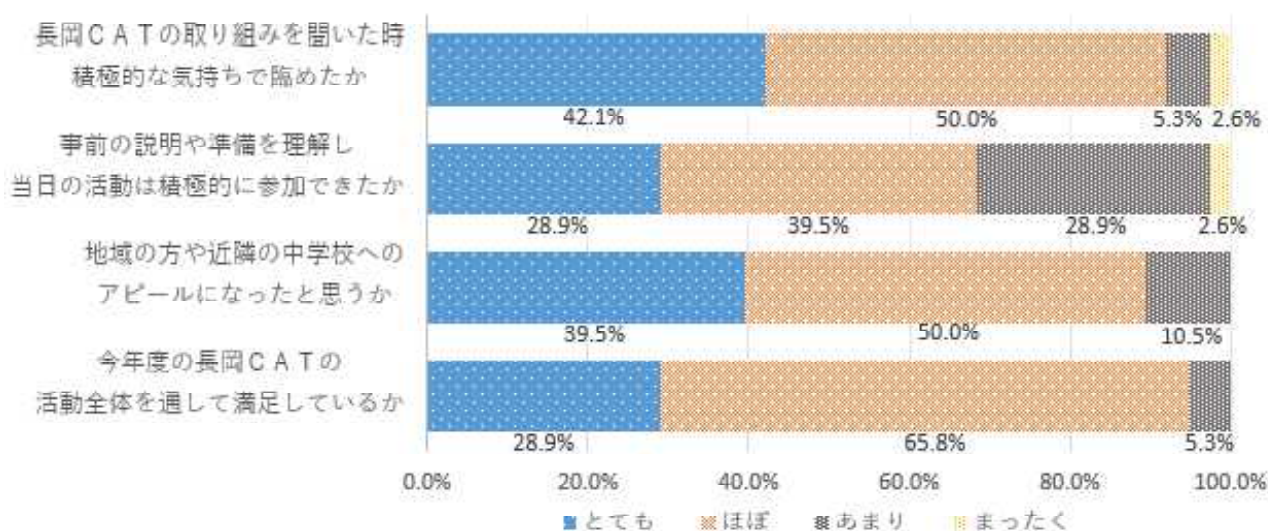
3 活動の地域に対するPR度や地域の認知度について

- ・地域の方にCATの意味を聞かれることがあったので、興味を持っていただけたと思う。
- ・積極的に活動して近くの住民の方に覚えてもらったので、少しずつアピールはできていると思う。
- ・来る人が毎度限られている気がする。
- ・地域の人に工業高校の名前を知ってもらえたと思う。
- ・人通りが多い場所でやっていたので、なったと思う

4 今年度の活動の満足度

- ・お客様がもっとほしいと思うものを商品にするべきだと思う。
- ・もう少しお客さんがほしがりそうなものを出した方がいいと思う。
- ・良かった点はイベントを通して積極的な行動力を身につけることができたこと。
- ・イベントで地域の人に喜んでもらうことができて良かった。
- ・もう少し多くイベントができたらいいと思った。
- ・お客さん相手に接客をすることができた。緊張してしまった。慣れて緊張しないようにしたい。

H28年度「長岡CAT」に関する生徒アンケート（長岡工業：対象生徒38名）



【総合所見】

長岡市やNPO法人「ながおか未来創造ネットワーク」との協議を重ねた結果、平成29年度よりオーレ長岡ホワイエ内での常設店舗設営を実現できたことが、今年度の最大の成果といえる。しかし、常設店舗のコンセプト(何を誰をターゲットとしてどう売るか)についての共通認識に不十分な面があり、平成29年度早々に取締役生徒を中心とした新体制作りを行い、常設店舗の基本的な運営姿勢を確立する必要がある。また、そうすることが生徒の地域を見つめ直し、地域の活性化に貢献する意識を育成するとともに、高校生活満足度を向上させることに大きく寄与するものと考えている。

(様式1)

長 商 第 2 1 2 号

平成29年3月2日

高等学校教育課長 様

学番 3 8 県立長岡商業高等学校長

オンリーワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

長岡商業高校(長岡農業高校、長岡工業高校)

【テーマ】地元理解と地域活性化を通じた海外をも視野に入れた経済的視点の育成
～「緩やかな連携」から「強い絆」へ、長岡CAT第3のステージ!～

【目 標】

- 1 長岡市、ながおか未来創造ネットワーク及び地元商工会議所等からの協力を得た常設店舗運営を視野に入れた商品の選定、また、オリジナル商品の開発とそれをふまえた販路獲得、販売戦略の構築。
- 2 上記商品の県内外での交流拠点（アオーレ長岡、長岡駅、新潟空港、新潟県アンテナショップ「ネスパス」等）での販売及び常設店舗経営に関する調査・研究。
- 3 「長岡CAT」合同合宿の実施による取締役会、商品管理部、営業部、経理部及び広報部の部署ごとの意識形成、共通理解の促進と組織運営の基本の習得。
- 4 地域行事やイベントへの積極的参加による地域社会に貢献する意識及び高校生活満足度の向上。

【取組の概要】

- 1 長岡市、ながおか未来創造ネットワーク及び地元商工会議所等との連携による店舗設計や販売戦略を基にした地域行事やイベントへの参加・出店。
- 2 長岡市、ながおか未来創造ネットワーク及び地元商工会議所等の指導、協力を得た常設店舗運営に関する調査研究、店舗設計。
- 3 セミナーハウス（長陵会館）を利用した「長岡CAT」合同研修の実施。
- 4 長岡まつり「民謡流し」の参加。
- 5 オリジナルイベント「長岡CATのクリスマス」(於：リバーサイド千秋)の企画、開催。
- 6 アンケートによる「事後ふりかえり」の実施。

【取組の成果】

- 1 合同研修会を実施し学校間交流を行う中で「つながり」、「強い絆」の意識を形成するとともに、起業支援センターの講義を受け、過去を振り返り、店舗経営の改善を行うことができた。
- 2 長岡まつり「民謡流し」、「歩行者手国」への参加や知名度向上のためのオリジナルイベント「長商フェス」、「全国産業教育フェア石川大会」等、学校で学んだことを生かし、地域イベントへの出店をとおして地域の一員として、地方創生に貢献する活動ができた。
- 3 長岡市、ながおか未来創造ネットワークの協力を得て、次年度以降アオーレ長岡「ホワイエ」内に常設店舗を設営する計画を進めることができた。
- 4 「長岡CAT」の活動をとおして地域の方々とおふれあうことの喜びや、他者と協力して物事を遂行することの難しさや大切さを学ぶことができた。

【取組の概要】

1 「長岡CAT」の3校合同研修会（6月18日）

平成28年6月18日（土）、長岡工業高等学校のセミナーハウス（長陵会館）にて、3校の生徒役員各10名（計30名）が参加して合同研修会が実施された。起業支援センターから「起業するための心構え等」の講義、昼食作り、研修会と盛りだくさんの内容を3校の生徒が協力して取り組んだ。長岡CATの3年間のテーマでもある「ゆるやかな連携」から「強い絆」へを強固にする合宿となった。

学校の垣根を取り払い、3校が連携すると大きな成果が上がることを生徒の活動をとおして感じることができた。次年度には3校の「強い絆」を育むだけではなく、ネクストステージをさらに模索し、発展する1年にしたい。

2 「長岡CAT」の知名度向上活動・地域貢献活動

(1) 歩行者天国（5月2日）出店

長岡大手通で毎月実施されている「歩行者天国」に初めて出店した。長岡市大手通商店街振興組合の方々の長岡市中心部の活性化に向けた熱意や考えを肌で感じることができ、有意義な1日となった。

生徒は今年度初めての出店ということもあり、店舗設営・接客において多くのことを学んだ。お客様や関係者の方々と接することで予想以上に生徒は成長することができた。



(2) 滋賀県立八幡商業高等学校「近江商人再生プロジェクト」との交流・行商（7月22日）

4回目となる「近江商人再生プロジェクト」の交流校というお話をいただき、滋賀県立八幡商業高等学校の生徒と本校の生徒が交流することとなった。

八幡商業高等学校の生徒の「近江商人」を再生しようという使命感と前向きさをひしひしと感じ、今後の長岡CATを考える1つのきっかけとなった。

歴史の中に出てくる「近江商人」の末裔の方々との交流をとおして、「行商」による販売を見直すとともに、販売の原点は豊富な商品知識だけではなく、親しみやすさと熱意であることを八幡商業高等学校の生徒から教えていただいた。本校の生徒も圧倒されながらも、彼らから多くを学び、成長できた1日となった。

次年度もこの縁を大事にして、交流したいと考えている。



(3) 長岡ラーメン選手権（7月24日）出店

6回目のラーメン選手権出店ということで、今まで長岡市商工会議所青年部の方々や地域の方々から学んだ知識やノウハウ（前年は準優勝）を生かして準備から当日まで一貫した活動ができた。

生徒たちが企画をしたラーメンが形となり、お客様に食べていただき、お客様に喜んでいただけたところに生徒たちも喜びを感じ、最後の一杯まで気を抜かずに頑張ってくれた。店舗経営をする上で、他校の店舗と競いながら、店舗経営を財務諸表から接客マナー、商品開発までの全てを学び、そして会社経営の難しさや楽しさ、商品に対する責任をイベントをとおして、学ぶことができた。

結果として今年も準優勝だったので、今年の総括をしっかり行い、改善し、地域に親しまれるような店舗経営を次年度こそ目指したい。



(4) 長岡まつり民謡流し（8月1日）参加

長岡まつり民謡流しに参加して2年目となる。地域の理解と郷土愛の醸成、長岡CATの知名度の向上のため、3校の役員が中心となって「長岡甚句」、「大花火音頭」を精一杯踊った。2年目ということもあり、沿道の観客の方からエールをいただき、活動の成果を感じることができた。

多くの企業の方や市民の方々と次年度以降も参加し続けることで交流し、生徒たちが地域を愛し、地域の理解を深めるきっかけとしたい。

そして、長岡CATを地域から愛される組織に育てていきたい。



(5) おっここ撰田屋市（10月8日）出店

醸造の町「撰田屋地区」で毎年行われる地域興しイベントに今年も出店した。個性豊かで創造的な活力のある地域社会づくりを目的としているところに共感し、8年前から参加させていただいている。

地域理解をする絶好の機会ととらえ、生徒は販売をとおして地域の方々と毎年ふれあい、撰田屋地域の歴史を学んでいる。あいにくの天気（雨）となったが、長岡CATの出店を楽しみにしていたお客様の笑顔に救われた1日となった。つらく厳しい販売実

習となったが、生徒の得たものはとても多かったようだ。



(6) 長商フェスティバル（10月22日）出店

リバーサイド千秋様のご厚意で1階イベントホールにて「長商FES2016～来て！見て！知って！長岡商業高校～」を初めて実施した。リバーサイド千秋様のストアコンセプトに「お店は地域のコミュニティーステーション」という言葉があり、長岡CATとして共感し、我々の目指す「地域理解」、「地域の活性化」の1歩につながると考え出店した。

地域を理解するためにも、地域の方に理解していただくことが大事であると考え、販売だけではなく授業で生徒が制作した作品、さらに部活動の活動実績の展示、長岡CATのCM発表、学校新聞の作成等を行った。予想以上の集客に驚いたが、生徒の努力もあり、本校と長岡CATの理解を地域の方々に対し深めることができた。



(7) 全国産業教育フェア石川大会（11月4日～6日）出店

全国産業教育フェアに新潟県代表として初めて参加した。展示販売部門の「全国高校デパート」に出店し、全国の14校と店舗運営を行った。

参加している全ての学校が伝統校ばかりで、店舗運営の仕方や接客の仕方、商品開発、効果的なプロモーションの仕方など、学ぶことが非常に多かった。

生徒も3日間、初めて県外で出店し、分からないことが多かったが、逆境にめげず、3日間新潟県代表として来たことを忘れずに新潟県長岡市のPRもしっかり行い、最後まで頑張ってくれた。長岡CATの中心役員8名が今年度1番成長したイベントとなった。



(8) 長岡CATのクリスマス（12月17日）出店

4年目となる地域密着型イベントの長岡CATオリジナルイベント「リバ千で商農工がコラボ 長岡CATのクリスマス～ニャンダフォー2016～」と題しリバーサイド千秋1階イベント広場に出店した。

地域の方々の認知度も上がり、開店から多くのお客様にご来店いただいた。毎年、生徒は趣向を凝らし、準備段階から丁寧に過去を振り返り、また今年度のお客様ニーズを再検討し、さらに今年度行った全てのイベントを見直し、地域の方々に喜んでいただくための品揃えなど、例年になく趣向を凝らしたものとなった。

1年間で生徒たちは多くの経験をとおして大きく成長し、より良い店舗経営を自ら考え、行動することができるようになった。



(9) 株主総会（2月28日）開催

今年度の総決算として「株主総会」が開催された。

3校の役員30人、未来創造ネットワークより河合様、山田様、新潟経営大学吉田教授、3校のPTA会長様、3校の株主様など70人以上の方にご出席いただいた。

例年になく多くの方々にご出席いただき、担当職員と生徒役員ともに緊張感が高まるものとなった。

株主総会においては、

- ①報告事項 1年間の事業報告および各校の事業報告
- ②議案審議 第1号～第4号議案
- ③指導・講評

以上の報告・審議がされた。

その中で、長岡CAT社長からは

- ①3校の「強い絆」を築くことができた。
- ②長岡CATのPR効果が現れ、地域に根ざした活動になってきた。
- ③常設店舗の経営の礎を築くことができた。

以上の成果が話された。

来賓の方々からは、「とてもよい活動である。学生のうちにビジネスに携わることは将来の礎になる。」や「長岡CATの活動は年々、進歩している。新しいことにチャレンジし続けて欲しい。」など、温かいご指導をいただき、次年度の活動の糧となった。今年度の長岡CATとしての総括と、3校それぞれの総括を行い、次年度の活動に反映させたい。



3 長岡市、ながおか未来創造ネットワークとの協力、常設店舗の模索

(1) 県外研修（8月5日～6日 三重県立相可高等学校、まごの店）

常設店舗の運営・定着に向けて三重県立相可高等学校の生徒が運営している「まごの店」にて研修を行った。伊勢志摩サミットにおいて料理を振る舞うほどの生徒たちなので、長岡CATの役員たちは身構えたが、相可高等学校の生徒たちのソフトで丁寧な接客で少しずつ緊張もほぐれ、研修を受けることができた。

常設店舗を出す際にお世話になる「アオーレ長岡」や「ながおか未来創造ネットワーク」の方々も同行し、一緒に研修も行き、常設店舗の運営の難しさや継続することの難しさ、そして継続することの面白さ、やりがいを教えていただいた。生徒たちと「常設店舗」を設営するために有意義な研修となった。



(2) 長岡子どもフェニックスフェスティバル（12月18日）出店

今年度最後の長岡CATのイベントとなった。2年目の出店ということもあり、「アオーレ長岡」、「みらい創造ネットワーク」様から多くの協力をいただき、最後のイベントを無事に終えることができた。生徒たちは、趣向を凝らし、集客するためのアイデアを出し、1年間の経験の全てを出し切ることができた。

4 他者とふれあうことの喜びや、他者と協力して物事を遂行することの難しさや大切さ

(1) 講演会 元サークルKサンクス 澤口裕樹様（5月13日）

長岡市大手通商店街振興組合 安藤栄治様（9月21日）

2人の講師の方から「店舗運営の仕方」、「接客マナー」、「イベントの企画の仕方」、「商品開発」について講演をいただいた。熱い思いを持った2人の講師の方々に生徒は圧倒されながらも知識を深めることができた。

お客様とふれあいながら学ぶことが多いこと、また、一人では店舗を運営できず、皆で協力し支え合いながら店舗は運営するもの、ということも教えていただいた。今後の長岡CATの運営に生かしていきたい教訓となった。



(2) バルーンアート講習会（9月23日）

本校卒業生の方にバルーンアート講習会をお願いした。過去5年間、イベントにおいて交流はあったが、本格的に講習をしていただくのは初めだった。各イベントの販売促進物としてバルーンは必須で、バルーンのブースを設けることでお客様が足を止めてくれることが多かった。今回の本格的な講習で生徒のバルーンを制作するレベルは飛躍的に上がり、販売促進の一助となった。

【総合所見】

- 1 3校合同研修会、三重県への県外研修、長岡まつり民謡流しへの参加、3校合同でイベントへの出店（おっここ撰田屋市、長商全国食King～、長岡CATのクリスマス、長岡こどもフェニックスフェスティバル）をとおして、3校の生徒の交流が深まり、「強い絆」を育むことができた。今後もこれらの活動を継続していきたい。
- 2 「アオーレ長岡」、「未来創造ネットワーク」様の全面的なご支援により、常設店舗設置に向けた調査・研究・準備が進んだ。生徒のアイデアと今まで培った知識・経験を融合し、長岡市民から愛される店舗経営を行いたい。
- 3 多くの体験的な活動をとおして「長岡」の魅力を発見し、地域理解が深まった。次年度は、長岡の魅力をさらに発見し、市外へ発信することを「アオーレ長岡」、「未来創造ネットワーク」様と検討し、実践してみたい。また、地域理解もさらに深め、地域に根ざした特産物の発掘と商品開発を実践したい。
- 4 しっかりと話し合い、基礎固めを行った「常設店舗」の経営を実現したい。「深い絆」を築いた3校で協力し、長岡市民のニーズに合った店舗経営を行いたい。
- 5 オンラインワンスクール新潟未来プロジェクトの締めくくりとして、3校の専門性を生かした活動をさらに実施し、将来の長岡地域を支える人材の育成とつながりを育み、地方創生の一助となるように指導を継続していきたい。

高等学校教育課長 様

学番 44 県立新潟県央工業高等学校長

オンラインスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

新潟県央工業高校(三条商業高校、加茂農林高校)

【テーマ】 県央地域に最新未来都市を創造する地域活性化プロジェクト
～レトロフューチャーからリアルフューチャーへ～

【目 標】

災害に強く、豊かな生活環境を保ち、地域の歴史や文化を守りながらも若者が集い、活気あふれる街を創造し、最新の未来都市、「リアルフューチャー」な都市のイメージを県央地域に創造することを目指し、専門高校生が観光・防災・環境の3つの視点から新たな未来都市作りに資する取り組みを行う。

【取組の概要】

- 3校によるNPO法人を設立
3校が学校の垣根を取り払って、NPO法人を設立し、事業別の企画課により3校それぞれが持つ特色を取り入れた企画を立案し、各種事業を実施する。
- 地域イベントへの積極的な参加及び開催
三条マルシェ、三条市のイベント等の地域イベントへ3校で連携して参加し、イベントを盛り上げて地域活性化に貢献する。
ロボット競技大会や防災フォーラムを開催し、地域に参加をアピールできるよう、3校が連携して、企画価値を高めていく。
- 教育・学習・体験ツアーの企画・実施
県内外の小中高生徒などを対象に、観光・防災・環境の3つの視点を取り入れた「教育・学習・体験ツアー」を企画・立案し、県内外に案内して参加者を募り、高校生ガイドが案内する。
- 地域活性化のための諸活動
観光・防災・環境をテーマにして、地域活性化のための新商品の開発、防災標識の設置、自然ふれあい体験等を展開する。あわせて高校生が発案した企画を、地域企業と連携して、商品開発・販売活動をすることにより企業家教育に結びつける。具体的には各校が連携して、地域住民の方から調査を行い、高校生の視点を取り入れた地域に適した防災グッズなどの商品開発・販売活動、危険箇所の標識表示や防災リーフレットの作成を行う。

【取組の成果】

専門高校が連携して事業に取り組むことにより、各校それぞれの特色を融合させた各事業を行うことができた。各校の生徒が同じ事業に参加し、各校のそれぞれの得意分野に接する中で、新しいアイデアや高校間のコラボレーションの企画案ができあがった。

今年度は当初の目標としていたNPO法人を設立した。NPO法人として高校の枠を超えた取組をとおして、社会に貢献していく自覚と責任感を身につけさせていく舞台が整った。

1. オンラインスクール新潟未来プロジェクト

新潟県央工業高等学校、三条商業高等学校、加茂農林高等学校の取組

(1) レスリングワシントン州高校選抜選手団一日観光事業 平成28年6月24日(金)

新潟県央工業高等学校で行われた第55回日米親善高校学校レスリング大会新潟・三条大会に参加したアメリカ選手団を三条商業高校、加茂農林高校、新潟県央工業高校の生徒が英語でスピーチしながら観光案内する取り組みを実施した。

三校での取組として観光・防災・環境の3つの視点を取り入れた「教育・学習・体験ツアー」の企画・立案があり、将来的には外国の方々に県央地域を訪問していただき、ガイド役を務める事を目標としているため、今回の取組を実施する事となった。



弥彦神社



加茂市桐筆筒工場

(2) 防災キャンプへの参加 平成28年8月4日(木)～5日(金)

平成28年度セイフティアドベンチャー 防災キャンプIN三条

実施日：8月4日(木)

参加者：職員2名、生徒2年建設工学科都市防災コース7名

会場：三条市立大浦小学校体育館を中心とした各施設

内容：水害についての学び、非常食体験、避難所体験活動、講演会等

日程： 9：15 開会式・オリエンテーション

9：30 ①水害の実際を学ぼう～水防学習館見学

12：30 ②非常食体験

13：30 ③プロジェクトアドベンチャー

14：15 ④選択プログラム～避難所づくり体験～

16：20 高校生ボランティア解散式

①水害の実際を学ぼう～水防学習館見学



②非常食体験

配給品

- ・ドライカレー
- ・チキンライス
- ・ミネラルウォーターなど



③プロジェクトアドベンチャー



④選択プログラム～避難所づくり体験～



◆三校で参加

今年度は、本校、三条商業高校、加茂農林高校の三校で参加しました。三校の生徒が参加したリーダー会議では、各班の進行状況を確認し、進行の遅れ等について確認し、適切な指示を出しました。会議中は実行委員会の皆さんに交じり、積極的な意見交換も行えました。

【参加生徒の声】

貴重な体験をさせていただいた防災キャンプの関係者の皆様をはじめ、先生方に感謝するとともにこれから防災について一層知識を深めていき、地域の防災リーダーとなれるようにしていきたいと思っています。

(3) ロボット大会三条大会（会場：新潟県央工業） 平成28年9月3日(土)

新潟県央工業高校体育館で実施のロボット大会三条大会に、三条商業がいかばん、加茂農林が野菜と果物、新潟県央工業がネームプレート販売で参加。三校が協力して地域イベントとして盛り上げた。

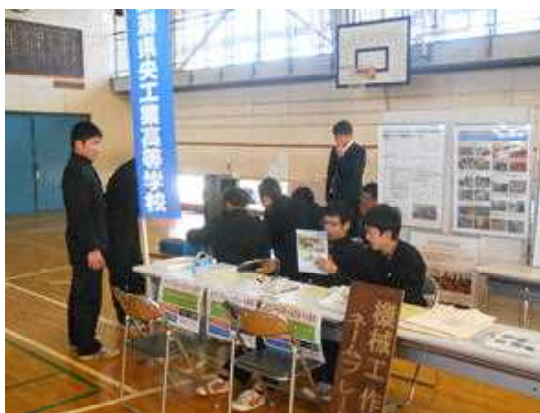


(4) 青少年による座談会

期日 平成28年11月13日(日) 会場 三条ものづくり学校多目的ホール
テーマ「地域の活性化を考える」主催 三条市青少年育成市民会議
青少年の社会参加、ふるさとへの愛着と誇りの醸成を目的とした座談会に参加
新潟県央工業・三条商業・加茂農林参加



集合写真



新潟県央工業高校のパネルと機械工作部

(5) 視察研修旅行

◆【10月12日(水) 1日目】 神戸市立科学技術高校

- ・2004年4月、神戸市立神戸工業高等学校・神戸市立御影工業高等学校が統合して開校
- ・甲南大学、立命館大学と高大連携が進んでおり、インターンシップも盛んである。また、部活動が非常にさかんで、多くの運動部が県の高い水準にあり、近畿・全国大会などでも活躍している。



校舎



空飛ぶ車椅子研究会

車椅子をなおして海外に送るボランティア
リペアした車椅子2,000台

◆【10月13日(木) 2日目】 兵庫県立舞子高等学校

開校から約40年と比較的新しい学校である。平成14年に全国で初めて環境防災科を設置した事で知られ、阪神・淡路大震災の時に避難場所となった教訓を生かして、災害時における非常用電源として太陽光発電システムを取り入れている。

視察のねらいとして震災教訓をふまえて防災学科を開設したことや、太陽光発電システムの導入など、防災教育を積極的に展開している動向の取組について学んだ。また、昨年訪問した多賀城高校とあわせて、本校も含めて今後の防災学科(コース)設置校としての交流について意見交換を行った。



校舎



発電システムの説明とソーラーパネル



交流会



校庭の竈(ベンチの板を外すと竈になる)

彦根工業発案
宮古工業設計
姫路工業作成
3校共同制作

【生徒感想1】

今回の舞子高校の視察から、高校生でも災害ボランティアとして、現地に行き、多くのことができるということを知りました。そして、今すぐにも現地に行き、ボランティア活動をしたいと強く思いました。普段の生活が快適に過ごせることは、あたり前のことではないということをお忘れず、感謝の気持ちも大切にしていきたいと思いました。

【生徒感想2】

今回の県外視察から、多くのことを学び、感じました。私たちが取り巻く社会環境は、高齢化社会、環境や「防災・減災」など、さまざまな問題を抱えています。この地域の問題として、「安全で安心な強い街づくり」と「街の活性化」があります。この問題解決のため、地域での連携を大切にし、わたしたち若者が未来の防災リーダーとして活躍していかなければなりません。

(6) 平成28年度 オンリーワンスクール新潟未来プロジェクト報告会 平成29年2月7日(火)

会場 県立新潟県央工業高等学校講堂

参加者 アドバイザー

NPO法人 にいがた防災ボランティアネットワーク 理事・事務局長 李仁鉄氏

新潟県央工業高校 1・2学年全生徒・全教職員

三条商業高校 生徒11人・教職員5人 加茂農林高校 生徒12人・教職員4人



(7) 三条マルシェへ出店

県央工業：機械工作部、建設部建築班を中心にネームプレートや槌起銅器の制作の体験工作を行っている。

三条商業：学校設定科目「プランニング」の中で企業と連携・開発した商品販売及び商業クラブのいかぱん販売（次年度以降は、加茂農林も参加してNPOとして出店を計画）

(8) その他

文化祭相互参加 10月15日三条商業

10月29日新潟県央工業、加茂農林の各文化祭
に相互出店



2. 3校NPO法人（トライ・フューチャー）の認証・発足

平成28年9月9日に新潟県央工業高等学校でのNPO法人「トライフューチャー」の設立総会后、11月9日に三条市に登記申請し、約2ヶ月間の縦覧期間後、平成29年1月17日にNPO法人トライフューチャーが認証された。1月25日に「特定非営利活動法人 トライ・フューチャー」として、NPO法人登記が完了し、2月6日に三条市役所にNPO法人設立完了届を提出し受理され正式に発足した。



NPO トライ・フューチャー ロゴについて

流れ星：「未来に向かっていく」というイメージで、真ん中に突き抜けていく（未来）星を表現。

青（新潟県央工業高校）：工業のものづくりや防災、街の夢（活性化）をさわやかな青で表現。

赤（三条商業高校）：夕日や紅葉をイメージし、観光で街の活性化を表現。

みどり（加茂農林高校）：自然（森林）や環境のイメージから、地球にやさしい街づくりを表現。

3. 総合所見

2年目は3校が県央地域を活性化するための第一段階といえる取組を行い、目標としていたNPO法人を設立した。全国的に見ても合同でのNPO法人設立は初の試みであるが、NPO法人として高校の垣根を超えた取組により、生徒がそれぞれの活動の幅を拡大させていきたい。

次年度はトライフューチャーの活動として、全国防災フォーラムの開催や観光・防災・環境ツアー、三条マルシェ等の地域イベントへの参加を計画している。

課題としては、NPO法人の維持のための予算確保や税金負担などの経済面と、連携していく上で、特に加茂農林高校と三条市内2校間の距離的な制約による学校間・生徒間の意思疎通の面があげられるが、ICT環境等の活用により密接な協議の場を数多く設けていきたい。

全国に先駆けた枠組みによる地域密接型の様々な取組により、将来この地域を支えていく人材育成と、何より人的なつながりを育むことにより形成された組織力により、オンリーワンスクール新潟未来プロジェクトの事業終了後も長期間に渡って地域をリードしていく生徒の輩出に努めていく。

高等学校教育課長 様

学番 45 県立三条商業高等学校長

オンリーワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

三条商業高校(新潟県央工業高校、加茂農林高校)

【テーマ】 県央地域に最新未来都市を創造する地域活性化プロジェクト
～レトロフューチャーからリアルフューチャーへ～

【目標】

災害に強く、豊かな生活環境を保ち、地域の歴史や文化を守りながらも若者が集い、活気あふれる街を創造し、最新の未来都市、「リアルフューチャー」な都市のイメージを県央地域に創造することを目指し、専門高校生が観光・防災・環境の3つの視点から新たな未来都市作りに資する取り組みを行う。

【取組の概要】

- 3校によるNPO法人を設立
3校が学校の垣根を取り払って、NPO法人を設立し、事業別の企画課により3校それぞれが持つ特色を取り入れた企画を立案し、各種事業を実施する。
- 地域イベントへの積極的な参加及び開催
三条マルシェ、三条市のイベント等の地域イベントへ3校で連携して参加し、イベントを盛り上げて地域活性化に貢献する。
ロボット競技大会や防災フォーラムを開催し、地域に参加をアピールできるよう、3校が連携して、企画価値を高めていく。
- 教育・学習・体験ツアーの実施(準備)
県内外の小中学生・高校生などを対象に、観光・防災・環境の3つの視点を取り入れた「教育・学習・体験ツアー」を企画し・立案し、県内外に案内して参加者を募り、高校生ガイドが案内する。
- 地域活性化のための諸活動
観光・防災・環境をテーマにして、地域活性化のための新商品の開発、防災標識の設置、自然ふれあい体験等を展開する。あわせて高校生が発案した企画を、地域企業と連携して、商品開発・販売活動をすることにより、起業家教育に結びつける。具体的には各校が連携して、地域住民の方から調査を行い、高校生の視点を取り入れて、地域に適した防災グッズなどの商品開発・販売活動、危険箇所の標識表示や防災リーフレットの作成を行う。

【取組の成果】

専門高校生が連携して事業に取り組むことにより、各校が独自に育んできたノウハウを共有し、複合的で高度化された事業を行うことができた。各校の生徒が共同作業を進めていく中で、将来社会に出て働いていくための資質を身に付け、斬新で新しいアイデアを創造することができた。
今年度からさらに一層の地域に根ざした活動を積極的に行うためにNPO法人組織を設立した。NPO法人組織を設立することにより、社会的な自覚と責任を生徒に身につけさせることができた。

三条商業高校の取組について（平成28年度）

1 取組状況

- 5月12日 第1回3校合同オンリーワン新潟未来プロジェクト委員会の開催(新潟県央工業高校)
- 6月2日 NPO法人設立準備・司法書士の先生との打合せ(三条商業高校)
- 6月10日 NPO法人設立準備打合せ・ロゴマークの決定(新潟県央工業高校)
- 6月18日 三条マルシェ出店(三条市)
- 6月24日 アメリカ合衆国ワシントン州レスリング高校生選抜チームの観光ガイド(弥彦村・三条市、加茂市)
- 7月4日 第1回 NPO法人設立のための三条市市民部地域経営課地域振興係との協議(三条市役所)
- 7月20日 第2回 NPO法人設立のための三条市市民部地域経営課地域振興係との協議(三条市役所)
- 8月4日 セイフティーアドベンチャー(防災キャンプIN三条)参加
新潟県央工業高校、加茂農林高校、三条商業高校参加(三条市立大浦小学校)
○避難所開設 ○避難所生活体験 ○非常食・炊き出し体験
○水防学習体験 ○救急救命講習 ○ミニ講話など
- 9月3日 ロボット競技大会参加(いかパン販売) (新潟県央工業高校)
- 9月8日 NPO法人設立準備・司法書士の先生との打合せ(三条商業高校)
- 9月9日 **NPO法人設立総会**(新潟県央工業高校)
- 9月12日 高校生と先輩たちのユーストーク打合せ(三条市青少年育成センター)
- 9月14日 NPO法人申請書仮提出(三条市役所)
- 9月28日 高校生と先輩たちのユーストーク打合せ(三条市青少年育成センター)
- 10月2日 三条マルシェ出店(新潟県央工業高校、加茂農林高校、三条商業高校参加)(三条市)
- 10月15日 三条商業高校学園祭(新潟県央工業高校、加茂農林高校参加)
- 10月26日～28日 観光に関する先進校訪問(宮城県松島高等学校、福島県立猪苗代高等学校)
- 10月29日 新潟県央工業高校、加茂農林高校文化祭(三条商業高校参加)
- 11月7日 高校生と先輩たちのユーストーク打合せ(三条市青少年育成センター)
- 11月9日 NPO法人申請書提出(三条市役所)
- 11月13日 第2回高校生と先輩たちのユーストーク(三条市青少年育成センター)
- 12月12日 「オンリーワン新潟未来プロジェクト」講演会
○演題 「県央地区の観光を考える」
○講師 新潟経営大学観光経営学部教授 藪下 保弘 先生

- 1月17日 NPO法人設立認証決定
- 1月25日 NPO法人登記完了 法人名 特定非営利活動法人 「トライ・フューチャー」
- 2月6日 NPO法人設立完了届提出、受理（三条市役所）
- 2月7日 平成28年度オンリーワン新潟未来プロジェクト報告会（新潟県央工業高校）
 ○今年度活動報告 ○防災キャンプ参加報告 ○各校の報告
 ○県外視察報告 ○次年度の予定について
- NPO法人新旧役員打合せ

2 主な取組の成果

○ セイフティアドベンチャー（防災キャンプIN三条）

三条市教育委員会主催、協力団体として群馬大学大学院、国土交通省北陸地方整備局、三条市福祉協議会、三条市消防本部等の協力で、三条市下田地区の小学校5・6年生、中学1年生を対象に、三条市大浦小学校をメイン会場にして2日間開催された。本校の生徒と新潟県央工業高校、加茂農林高校の生徒が、初日の1日間運営ボランティアとして参加した。

主な活動目的は、児童生徒が学校教育外の環境において被災した場合に、自らの危険を回避できるように、必要な技術や知識を学習させ、「生き抜く力と姿勢」を育むことである。具体的には避難所開設、避難所生活体験、非常食・炊き出し体験、水防学習体験、救急救命講習、講演会などが行われた。

我が国は自然災害が多く発生し、最近では東日本大震災、各地の火山の噴火、大雨による洪水、台風、そして昨年は熊本地震など甚大な被害が発生した。また、三条市は近年2回、洪水で五十嵐川の堤防が決壊した。時間が経過し、日頃忘れがちな防災についての重要性を再認識することができた。また、実際に災害が発生したとき、自らの危険を回避できるか、具体的な実践例を体験・学習し、互いに学ぶことができた。

○ 三条マルシェ（10月開催）

三条マルシェは年7回程度開催されるが、10月は三条市のメインストリート全体で行われる最大規模の催しである。

今年は天候に恵まれ、出店数、来場者もたいへん多く盛大に行われた。本校は創造ビジネスコースの3年生と商業クラブの生徒が参加した。創造ビジネスコースの生徒は、学校設定科目「プランニング」の授業の一環として、それぞれのグループがオリジナル商品を販売し、商業クラブの生徒はオリジナルパンの販売を行った。このイベントは地域活性化を目的としたイベントで、生徒にとっては有意義で貴重な体験となった。

○ 新潟県央工業高校、加茂農林高校の文化祭への相互参加

本校の学園祭には上記の2校が参加、新潟県央工業高校と加茂農林高校の文化祭は同日に開催のため、本校の生徒が2校に別れ文化祭に参加した。本校の学園祭には新潟県央工業高校がネームプレート実演販売、加茂農林高校は学校で栽培した野菜、果物、米、ジャムなどの食品加工品などを販売した。それぞれの学校の生徒が学校の特徴を生かし、お互いに情報交換が行われ、実践的な販売実習が行われた。

○ 「観光」に関する先進校訪問 （宮城県松島高等学校）

平成26年宮城県で初めての観光学科を設置した。将来において観光産業やそれに関連する産業・業種に携わる人事の育成を教育目標に掲げ、地域の観光資源を学習素材として取り入れ、観光・サービスに関する授業や実践的な学習を行っている。

年間150時間を超える実習を行っており、特色ある取組として、1ヶ月間のホテル実習や修学旅行生を対象とした観光ガイド実習、観光会社と連携しバスツアーや企画商品の開発なども行っている。

(福島県立猪苗代高等学校)

平成6年度に開設した国際観光科を、平成28年度より観光ビジネス科に変更した。地域の基盤産業である「観光」を専門的に学ぶことをとおして、地域の課題を主体的に捉え、創造的に解決できる生徒の育成を目標としている。

2年次からコースに分かれ、より専門的な商業の知識や技術を取得するとともに、デュアルシステムでビジネスの実践力を育成したり、地元企業と連携し地域活性化を目指した企画の考案などを行っている。

○ 高校生と先輩たちのユーストーク

三条市青少年育成市民会議主催、三条市教育委員会、オンリーワン新潟未来プロジェクト共催で昨年に引き続いて第2回目が開催された。司会進行は(有)ナマラエンターテイメント代表の江口さんによる軽妙な進行で、新潟県央工業高校、加茂農林高校、本校と3校が参加し、オンリーワン新潟未来プロジェクトのそれぞれの学校の活動などが発表された。

また、トーク出演として地元の佐久間食品(株)の佐久間様、土田農園代表の土田様、(株)MGNET勤務の中川様とのトークがあった。その中で、佐久間食品(株)の佐久間様が今年度に設立されるNPO法人「トライ・フューチャー」の活動に興味を持っていただき、NPO法人「トライ・フューチャー」と佐久間食品(株)が連携して「オフィシャルデザートコンテスト」を計画し、3校の生徒を対象に、オリジナルジェラートのレシピや名前を募集し、入賞したものはJA南蒲農産物直売所や三条マルシェ、各高校の文化祭で販売される予定である。

○ オンリーワン新潟未来プロジェクト「観光」に関する講演会

総合ビジネス課科1年生を対象に、学校設定科目「地域ビジネス」の授業の一環として実施した。昨年度に引き続き、新潟経営大学観光経営学部教授 藪下保弘先生から「県央地区の観光を考える」をテーマに講演していただいた。新潟県・三条、燕地区の観光の魅力について、地元の私たちが気づかないことを再発見することができた。

○ オンリーワン新潟未来プロジェクト報告会

新潟県央工業高校を会場に平成28年度の各校からの活動報告を行った。来賓としてオリジナルデザートコンテストでジェラート作りを連携して行う佐久間食品(株)の佐久間様から出席していただき、貴重なアドバイスを受けた。またNPO法人新潟防災ボランティアネットワークの理事・事務局長の李仁鉄様からの指導、講評があった。さらにNPO法人「トライフューチャー」が1月に正式に設立された説明と報告があった。

最後に来年度開催予定の3校合同で行う防災フォーラムについての説明を行った。

3 NPO法人の役員である生徒会長の感想

(オンリーワン新潟未来プロジェクト報告会のNPO法人設立に関する感想)

私は最初、NPO法人と聞いてあまり実感がありませんでした。しかし、3つの専門高校が連携して地域のために活動していくことには、ぜひ、やってみたいと思っていたのでたいへんうれしく思いました。その上、単独での専門高校だけではできないことも、いろいろな分野の専門高校が集まれば、活動の範囲が広がるし、多方面からの意見が聞けて、より質を上げることができると思います。だから3つの専門高校が一つのNPO法人という組織として、地域に貢献することは本当に素晴らしいことだと思いました。

今年度は設立の年だったので、実質的な活動はできませんでしたが、報告会でそれぞれの高校の発表を聞いたときに、どの高校も素晴らしいと思いました。私は卒業してしまうので、もう活動ができないのが名残惜しいですが、これからの後輩達の活動に旧生徒会長として期待しています。全国でも数少ない高校生主体のNPO法人の活動を行うことで、充実した高校生活を送ってほしいと思います。

4 総合所見

今年度のオンリーワンスクール新潟未来プロジェクトでは、昨年度の活動の結果と反省をふまえ、精力的に活動した。昨年度から継続して行った活動については、さらなる発展と内容の充実を目指して活動した。今年度から行った活動については試行錯誤をしながらも、来年度につながることを意識して活動した。今年の活動の中で、佐久間食品(株)様とのジェラートのオフィシャルデザー

トコンテストについては次年度に継続させ、トライ・フューチャー初のオフィシャル商品へ発展できると考える。

また、本校が中心となって担当していたNPO法人設立申請が、予定していたよりも遅くなったが、今年の1月によりやく3校合同の特定非営利活動法人（NPO法人）「トライ・フューチャー」を設立・登記をすることができた。

来年度は3年計画の最後の集大成の年度となるので、3つの専門高校がNPO法人を核に連携して活動を行い、過去2年間の活動をより充実させて、県央地域のさらなる発展を目指したい。

5 主な活動風景

6月 アメリカ合衆国ワシントン州
高校生レスリング選抜チーム観光ガイド



8月 防災キャンプ



NPO法人トライ・フューチャー 設立総会



10月 新潟県立工業高等学校文化祭



10月 加茂農林高等学校文化祭



10月 福島県立猪苗代高等学校訪問



11月 高校生と先輩たちのユーストーク



1月 オンリーワン新潟未来プロジェクト報告会



1月 NPO法人トライ・フューチャー 打ち合わせ会



創造ビジネスコース3年生考案のぼり旗デザイン



1月 オンリーワン新潟未来プロジェクト報告会 (資料) 抜粋

第1章	第2章	第3章	第4章	第5章
現状把握	商品企画	活動実施	検証・課題	おわりに

活動目標

県央地域で生産されている

「イタリア野菜」の認知度を上げる

第1章	第2章	第3章	第4章	第5章
現状把握	商品企画	活動実施	検証・課題	おわりに

商品コンセプトの立案

ベネフィット

- ・知らなかった野菜を知ることができる
- ・料理のレパートリーが増える

県央地域の「イタリア野菜」をPR

ターゲット

- ・主婦層(20代・40代)
- ・小中学生

シーン

- ・なにか一品ほしいとき
- ・学校給食

第1章	第2章	第3章	第4章	第5章
現状把握	商品企画	活動実施	検証・課題	おわりに

野菜「BOX」とは

BOXの中身

- ・イタリア野菜を含めた野菜の詰め合わせ
- ・野菜を使ったレシピ (えぶろんの協力)
- ・野菜のリーフレット
- ・購入して下さった方への感謝状

【お送り先】
・お申し込みいただいたお名前を記載した封筒(お名前を記載のもの)
・レシピは別封で封入させていただきます(印刷済みの紙、取付からハロゲンライトで照らすと、誰でも再現することが可能なレシピが楽しめます)

【お送り方】
・メールなどお返事欄に書いてもらうようお願いいたします。
・お申し込み、お振替で済ませる場合はお振込先、お振替料の明細を必ずお送りください。

【お支払い】
・お振替口座に振り込まれた後、お振替の通知が来たら、お振替の通知を必ずお送りください。
・お振替の通知が来たら、お振替の通知を必ずお送りください。

第1章	第2章	第3章	第4章	第5章
現状把握	商品企画	活動実施	検証・課題	おわりに

県央地域の活性化

高等学校教育課長 様

学番 49 県立加茂農林高等学校長

オンラインスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

加茂農林高校(新潟県中央工業高校、三条商業高校)

【テーマ】 県央地域に最新未来都市を創造する地域活性化プロジェクト
～レトロフューチャーからリアルフューチャーへ～

【目 標】

災害に強く、豊かな生活環境を保ち、地域の歴史や文化を守りながらも若者が集い、活気あふれる街を創造し、最新の未来都市、「リアルフューチャー」な都市のイメージを県央地域に創造することを目指し、専門高校生が観光・防災・環境の3つの視点から新たな未来都市作りに資する取り組みを行う。

【取組の概要】

○ 3校によるNPO法人を設立

3校が学校の垣根を取り払って、NPO法人を設立し、事業別の企画課により3校それぞれが持つ特色を取り入れた企画を立案し、各種事業を実施する。

○ 地域イベントへの積極的な参加及び開催

三条マルシェ、三条市のイベント等の地域イベントへ3校で連携して参加し、イベントを盛り上げて地域活性化に貢献する。

ロボット競技大会や防災フォーラムを開催し、地域に参加をアピールできるよう、3校が連携して、企画価値を高めていく。

○ 教育・学習・体験ツアーの企画・実施

県内外の小中高生徒などを対象に、観光・防災・環境の3つの視点を取り入れた「教育・学習・体験ツアー」を企画・立案し、県内外に案内して参加者を募り、高校生ガイドが案内する。

○ 地域活性化のための諸活動

観光・防災・環境をテーマにして、地域活性化のための新商品の開発、防災標識の設置、自然ふれあい体験等を展開する。あわせて高校生が発案した企画を、地域企業と連携して、商品開発・販売活動を行うことにより起業家教育に結びつける。具体的には各校が連携して、地域住民の方から調査を行い、高校生の視点を取り入れた地域に適した防災グッズなどの商品開発・販売活動、危険箇所の標識表示や防災リーフレットの作成を行う。

【取組の成果】

専門高校が連携して事業に取り組むことにより、各校それぞれの特色を融合させた各事業を行うことができた。各校の生徒が同じ事業に参加し、各校のそれぞれの得意分野に接する中で、新しいアイデアや高校間のコラボレーションの企画案ができあがった。

今年度は当初の目標としていたNPO法人を設立した。NPO法人として高校の枠を超えた取組をとおして、社会に貢献していく自覚と責任感を身につけさせていく舞台が整った。

1 オンラインスクール新潟未来プロジェクト 加茂農林高等学校における事業報告

- (1) 1日観光事業 … 平成28年6月24日(金) 交流会会場：加茂農林高等学校
工場見学先：茂野タンス店

アメリカワシントン州のレスリング高校選抜選手17名が新潟県央工業高校を訪れた機会を利用して、3校で分担して、選手らに地域の名所や産業を案内した。本校にはちょうど昼食の時間帯に来校したため、選手らと本校生徒と一緒に弁当を食べながら簡単な交流会を開催した。生徒たちのアイデアを取り入れ、学校紹介用パネルを使つてのウェルカム・スピーチや弁当を食べる前にみんなで「いただきます」の合唱をしたりと、とても楽しい時間を過ごした。

その後、場所を移動して、加茂市の伝統産業である桐箆筒工場を見学した。アメリカの高校生にとっては初めて見る「日本のものづくり」であり、興味深く説明を聞いている姿が印象的だった。また、付き添った本校生徒の多くにおいても初めての桐箆筒工場見学であり、「地域の伝統産業」を理解するととても良い機会となった。そして、本校に割り当てられた2時間のメニューの最後に、参加者全員で記念撮影を行い、お互いに交流できたことの喜びと感謝の言葉を贈りあった。

はじめは自分の話す英語が通じるのか不安でいっぱいだった生徒たちであったが、身振り手振りを使いながら話し、意思の疎通が図れることを楽しんでいる姿を見て、伝えようとする気持ちの大切さを改めて実感された。

今回の企画はとても楽しく、有意義な時間ではあったものの、お互いの国や学校のことを知り、親睦を深めるには、少し時間が少なかったように思える。今回の反省を活かし、今後の「教育・学習・体験ツアー」がより充実したものとなるように、企画の改善を図っていきたい。



ウェルカム・スピーチ



桐箆筒工場見学



参加者全員での集合写真

- (2) 防災キャンプ高校生ボランティア … 平成28年8月4日(土) 会場：三条市立大浦小学校
見学先：水防学習館

三条市では、被災時に自らの危険を回避するのに必要な技術や知識を児童生徒が体験的に学習し、「生き抜く力と姿勢」を育むことを目的とした防災キャンプを毎年開催している。

今年は下田中学校区の小・中学生50人が参加し、3校の高校生が防災キャンプ・体験プログラムのサポート役を務めた。本校からはボランティアで希望を希望した4人が参加した。

- | | |
|---------|------------------------------|
| 体験プログラム | ① 水防学習館見学：水害の実際を学ぶ |
| | ② 非常食体験：非常食の調理と食事を体験 |
| | ③ プロジェクトアドベンチャー：ゲームをとおした絆づくり |
| | ④ 避難所開設体験：施設班／福祉班／調理班 |

開会式とその後のオリエンテーションまでは、小・中学生は少し緊張していたものの、高校生が

うまくリードしながら準備された様々な課題に挑戦させていく中で、子ども達の緊張感もほぐれ、防災に関する知識や技術を楽しく学ばせることができた。

ボランティアを務めた高校生は、子どもたちの扱いに慣れていないこともあり、思うように進まないことも多くあったと思う。しかし、担当した班をうまくまとめるために、子どもたちの目線で物事を考え、注意して声をかけるなど、絶えずコミュニケーションを図っており、イベントを成功させ達成感を得たことは、今後の取組を進める上で貴重な経験であった。



水防学習館見学



非常食体験



避難所づくり

(3) 第2回高校生と先輩たちのユーストーク発表・農産物等販売

…平成28年11月13日(日) 会場：三条ものづくり学校

三条市青少年育成市民会議主催のユーストークに共催で取り組んだ。このイベントの目的は、次世代を担う青少年が社会の一員として積極的に意見表明できる機会を設けることで、青少年の社会参加の意識を高め、青少年のふるさとへの愛着と誇りを醸成し、未来を切り拓く人材の育成を図ることにある。本校からは9人が参加し、発表や農産物販売等を行った。

総合司会	江口 渉 氏	(有)ナマラエンターテイメント代表取締役
トーク出演者	佐久間 康之 氏	佐久間食品(株)勤務
	土田 広樹 氏	土田農園代表
	中川 裕稀 氏	(株)MGNET勤務
高校生発表者	新潟県央工業高等学校／三条商業高等学校／加茂農林高等学校	

高校生の発表で、本校からは農業クラブによる地域交流活動や日頃の学習内容について説明した。また、発表者自身の体験談として、農業高校で学んだことが自分の自信となり、それが卒業後の進路につながっていることを語り、トーク出演者からは高い評価を得た。

会場には農産物・加工品販売ブースを設け、学校紹介用パネルを設置し、来場された方々に生徒が積極的に販売や説明を行い、短い時間ではあるが本校の魅力を広めることができたと思う。



農業クラブ活動発表



農産物・加工品販売



農産物PR

(4) 各種イベントへの農産物等の販売

新潟県ロボット大会三条大会 … 平成28年9月3日(土) 会場：新潟県央工業高等学校

三条商業高等学校文化祭 … 平成28年10月15日(土) 会場：三条商業高等学校

加茂農林高等学校青海祭 … 平成28年10月29日(土) 三条商業高等学校オリジナルパン販売

3校が協力しロボット競技会や他校の文化祭等を盛り上げた。本校の農産物販売を通して、本校のPRにもつながったものと思う。また、生徒は他校生徒との交流を通して、普段あまり見ることのできない他校の様子を知ることができ、参加した生徒たちの視野を広げる活動ともなった。



ロボット大会三条大会



三条商業高等学校文化祭



青海祭でのオリジナルパン販売

(5) オンリーワンスクール新潟未来プロジェクト報告会 … 平成29年2月7日(火)

会場：新潟県央工業高等学校

平成28年度新潟未来プロジェクト報告会に本校からは、生徒会役員や農業クラブ役員など12人が参加した。

各校の活動発表において、本校は農業クラブふれあい農園による地域交流を中心に、1年間の取組を報告した。

その他、NPO法人オフィシャルジェラートコンテストの開催や、来年度に向けた活動提案があり、3校連携の事業が動きだしたことを実感することができた。

今回参加した生徒は、来年度のNPO法人活動の中心的役割を担う1・2年生であるため、この活動の目的を認識し、他校生と連携して活動することの大切さを感じていた。



(6) 体験型観光農場に関する講演会 … 平成28年10月6日(木)

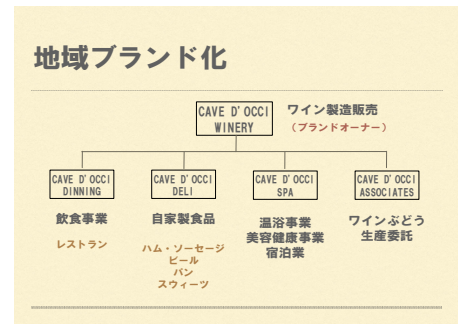
講師：株式会社欧州ぶどう栽培研究所

代表取締役社長 今井 卓 氏

対象：生徒・教職員700人

本校で体験型観光農園を生徒が企画・運営していくヒントを得ることを目的に、講演会を実施した。講師からは、自社の特徴を活かした経営戦略と6次産業の取り組みを語っていただいた。

講演を聴いた生徒から、「何かを始めるには、強い意志を持って努力することが大事だ」、「そこにはしかないものだから、人が引きつけられる」などの感想があり、学ぶものが多い講演会だった。



(7) 体験型観光農場に関する農業体験プログラム：農業クラブふれあい農園

- 第1回：5月29日(日) → サトイモの定植体験／モヤシ栽培キッド作り 30名参加
- 第2回：10月15日(土) → サトイモの収穫体験／サトイモカレー作り 30名参加

高校生と地域の方々をつなぎ、地域の子もたちに農業の楽しさや命の大切さを感じてもらうことを目的に、農業クラブ役員が中心になって農業体験プログラムを考案し、年2回実施した。

参加した地域の方からは、「子どもたちの楽しそうな姿が見られた」、「農業に興味を持つきっかけとなった」、「普段、農業に触れる機会が少なく、貴重な体験ができた」など、うれしい感想が寄せられた。指導役の生徒からは、「積極的に人と接することで自信がついた」、「人に教えることの楽しさ、難しさを知った」、「農業クラブ役員として、もっと活動してみたい」などの意見が出て、指導した生徒たちにも意識の変化があった。

来年度は3校連携事業として他校生も参加し、幅広い活動となるように準備を進めている。



農業クラブふれあい農園 ～ サトイモの収穫体験 ～

2 3校NPO法人「トライ・フューチャー」の認証・発足

(1) NPO法人認証・発足までの動き

- 平成28年9月9日(金) NPO法人「トライ・フューチャー」設立総会 新潟県央工業高等学校
- 平成28年11月9日(水) 三条市に登記申請
- 平成29年1月17日(火) NPO法人「トライ・フューチャー」認証
- 平成29年1月25日(水) 「特定非営利活動法人トライ・フューチャー」として、NPO法人登記が完了
- 平成29年2月6日(月) 三条市役所にNPO法人設立完了届を提出、受理され、正式に発足

(2) NPO法人「トライ・フューチャー」ロゴ



流れ星 …「未来に向かっていく」というイメージで、真ん中に突き抜けていく（未来）星を表現。

青（新潟県央工業高等学校）

… 工業のものづくりや防災、街の夢（活性化）をさわやかな青で表現。

赤（三条商業高等学校）

… 夕日や紅葉をイメージし、観光で街の活性化を表現。

緑（加茂農林高等学校）

… 自然（森林）や環境のイメージから、地球にやさしい街づくりを表現。

3 総合所見

本年度は、3校で県央地域を活性化することを目的としたNPO法人を設立することができた。全国的に見ても複数校で一つのNPO法人を設立するのは初であり、期待は大きい。

次年度は各校の長所を活かして連携し、活動の質を高め、成果に結びつけ、飛躍の年としたい。特に、全国防災フォーラムの開催や観光・防災・環境ツアー、三条マルシェ等の地域イベントにNPO法人として活動する予定である。

そのときの課題の1つ目は、NPO法人の維持のための予算確保や運営費、また税金負担などの経済面である。3校合同での取り組みで、はじめての事でもあるので、運営しながらより良い解決を図ってきたい。課題の2つ目は、3校で連携していく具体的方法である。生徒同士が直接会って打合せを行い、学校間・生徒間の意思疎通を図ることは重要である。その際に、加茂農林高校と三条市内2校間の距離的な課題があるためICT環境等の活用により密接な協議の場を数多く設け、対応するなど工夫を図っていききたい。

全国に先駆けた枠組みによる地域密接型の様々な取組を生徒が主体的に取り組むことで、将来この地域を支えていく人材となっていくことが期待される。また、何より人的なつながりを育むことにより形成された組織力により、オンリーワンスクール新潟未来プロジェクトの事業終了後も長期間に渡って地域をリードしていく人材の輩出に努めくように、3校で連携を図りながら取り組んでいきたい。

高等学校教育課長 様

学番 40 新潟県立栃尾高等学校長

オンラインワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

栃尾高校																												
【テーマ】		地域とともに進める学校づくり ～ 将来の自己実現を目指して ～																										
【目 標】		1 組織的・計画的なキャリア教育の実践をとおして、総合学科の特性を發揮した教育に取り組む。 2 地域の企業や福祉施設、幼保、小・中学校、行政、住民等との連携・交流を推進する。 3 新たな問題の解決や探求活動に主体的、創造的に、協働して取り組む態度や能力を養う。																										
【取組の概要】		これまでの本校教育活動に、地域の「住民」「産業」「行政」を巻き込む事業を展開するとともに、地域の自然や歴史、文化等の再確認をとおした郷土愛の醸成を図る。 1 地域の人材を活用した取組や体験活動等を実施する。 2 世代間交流をとおした学校づくりのため、生徒と住民が集う地域コミュニティの場をつくる。																										
【取組の成果】		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">評価項目</th> <th style="width: 30%;">実際の取組例</th> <th style="width: 25%;">評価方法</th> <th style="width: 20%;">評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">1 地域に対する愛着と誇りの醸成</td> <td>(1) 地域探訪の実施</td> <td>・生徒アンケート、感想</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>(2) 地域探訪展の実施</td> <td>・職員、地域の方からの感想</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2 学校と地域の活性化</td> <td>(3) 地域連携の体育祭の実施</td> <td>・職員、保護者等の感想</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>(4) 地域連携の椽峰祭の実施</td> <td>・職員、保護者等の感想</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">3 地域に求められる学校へ</td> <td>(5) 来て！見て！作って！体験フェスティバルの実施</td> <td>・来場者および生徒感想、学校職員による評価</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>(6) 栃尾の環境保護活動参加と歴史的建造物見学</td> <td>・職員感想</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>		評価項目	実際の取組例	評価方法	評価	1 地域に対する愛着と誇りの醸成	(1) 地域探訪の実施	・生徒アンケート、感想	3	(2) 地域探訪展の実施	・職員、地域の方からの感想	3	2 学校と地域の活性化	(3) 地域連携の体育祭の実施	・職員、保護者等の感想	3	(4) 地域連携の椽峰祭の実施	・職員、保護者等の感想	3	3 地域に求められる学校へ	(5) 来て！見て！作って！体験フェスティバルの実施	・来場者および生徒感想、学校職員による評価	3	(6) 栃尾の環境保護活動参加と歴史的建造物見学	・職員感想	3
評価項目	実際の取組例	評価方法	評価																									
1 地域に対する愛着と誇りの醸成	(1) 地域探訪の実施	・生徒アンケート、感想	3																									
	(2) 地域探訪展の実施	・職員、地域の方からの感想	3																									
2 学校と地域の活性化	(3) 地域連携の体育祭の実施	・職員、保護者等の感想	3																									
	(4) 地域連携の椽峰祭の実施	・職員、保護者等の感想	3																									
3 地域に求められる学校へ	(5) 来て！見て！作って！体験フェスティバルの実施	・来場者および生徒感想、学校職員による評価	3																									
	(6) 栃尾の環境保護活動参加と歴史的建造物見学	・職員感想	3																									
「評価」 3：達成できた 2：概ね達成できた 1：達成できなかった (評価の詳細については、別紙参照)																												

1 実際の取組例

(1) 地域探訪（地域と連携した地元の町並み、歴史、産業等の理解）

① 目的

日頃の学校生活から離れ、学校のある地域の自然や名所・歴史に触れ、地域理解を深めるとともに、地域の産業を体験することにより職業の理解を深め、地域への愛着を醸成する。

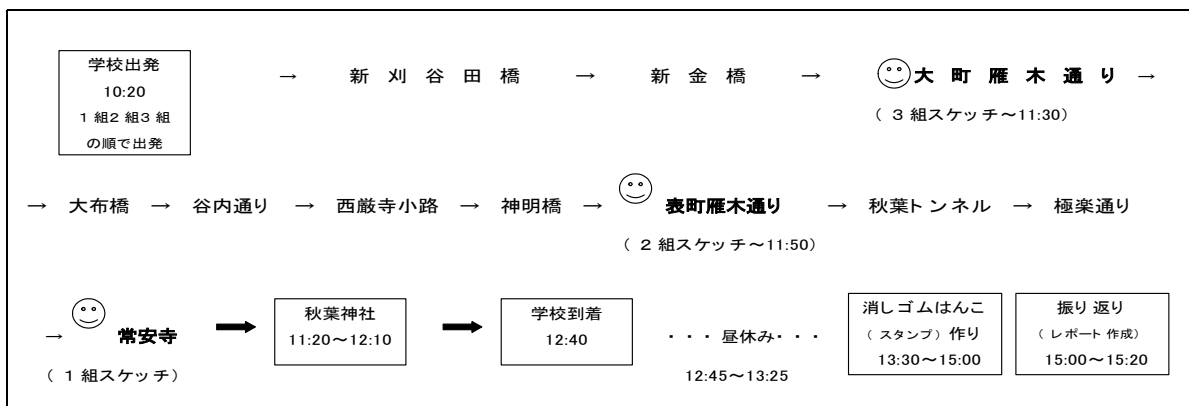
② 取組の概要

(ア) 実施日時

平成28年10月7日（金） 10:00～16:00

(イ) 内容

● 1年



● 2年

コース	体験内容	人数(上限)
コース1	油あげ製造体験(松兵衛様) 学校発9:50・・・学校着14:30・・・到着後洋裁室にて作業	18名
コース2	油あげ製造体験(歩歩様) 学校発9:50・・・学校着14:30・・・到着後洋裁室にて作業	6名
コース3	午前:味噌造り工場見学(三崎屋醸造様) 午後:栃尾の織物で作るおひな様作り(栃尾地域図書館様)	10名
コース4	農作業体験+イベント事前準備(すがばたけ様)	27名
コース5	染色体験と工場見学(港屋様) 学校発9:50・・・学校到着11:30頃/図書室にて午後作業	16名
コース6	栃尾高校にて郷土料理講習会 (講師 星野紀子さん)・・・調理室/和裁室 [油揚げのツナマヨ焼き・油揚げの煮物]	20名

● 3年

- ・本校所縁の矢沢宰に関する講演(郷土史研究家で本校OBの深滝純一様)。
- ・刈谷田川ダムと防災公園の見学。



③ 取組の成果（生徒感想：抜粋）

- ・ 栃尾の文化について歩きながら学べて良かった。いつも深く考えてこなかった道に栃尾独自の文化があっぴびっくりした。
- ・ 来年もただ見たり聞いたりするだけでなく、何か描いたり作ったりしたい。
- ・ 普段見ている栃尾の良さを再発見することが出来たしハンコ作りも楽しかった。
- ・ 昨年と違い別の栃尾を感じる事ができた。なかなかできない体験をすることができた。
- ・ 私は栃尾に住んでいますが、油揚げの調理方法など知らないことがあったので知ることができてよかったです。班で協力して作ることができたので良かったです。
- ・ 染色体験をして人それぞれいろんな模様になっていて人の作品を見るのもおもしろくてよかったです。
- ・ ダムのことを詳しく知ることができて良かった。初めて通ったところも景色もよくとても興奮しました。来年は歩きたい。

(2) 地域探訪展

① 目的

地域に関する学習活動を長期間展示することにより、多くの方に栃尾高校を知ってもらう。また、地域の施設で実施することにより施設利用者の増加や栃尾地域の魅力を広く伝えることができる。

② 取組の概要

(ア) 実施日時

平成29年1月7日（土）～平成29年1月22日（日）9:00～17:00

(イ) 内 容

開催初日となる1月7日（土）のオープニングセレモニーでは、来賓として長岡市長磯田達伸様、栃尾文化協会会長 桐生久美子様にお越しいただき、栃尾高校キャラクター「あげお・あげみ」や地元小学生のみなさんと一緒に、華やかにテープカットとくす玉割りをおこなった。

展示は地域探訪での学習内容をはじめとし、各系列・部活動等で地域に関する取組を展示し、大勢の来場者の方に栃尾の魅力を発信することができた。

③ 取組の成果

オープニングセレモニー後は、磯田長岡市長と栃尾高校生が、栃尾地域の魅力の発信方法や地域活性化について懇談をおこなうことができた。これまで栃尾地域活性化について考えてきたことを伝えることができる良い機会となった。

また、日頃栃尾高校を身近に感じる機会が少ない一般の方にも足を止めていただき、高校生の取組を知ってもらうことができた。



(3) 地域連携の体育祭

① 目的

地域の学校に本校の活動を伝え交流し、活動の活発化をはかるため。

② 取組の概要

(ア) 実施日時

平成28年6月7日（火） 9:00～15:20

(イ) 内 容

体育祭に地元栃尾地域の小学校である中野俣小学校を招いての開催にあたり、事前に小学校を訪問した。小学生にわかりやすく説明するために、競技説明書は高校生用のものをひらがなに変換し、全体で確認するために拡大した説明書を準備した。

当日は、小学生が高校の体育祭を見学しただけでなく、競技種目の中に小学生と高校生が大玉送りと障害物借り物レースを合同で実施した。また、小学生から地元の伝統芸能を披露していただく中で、急遽、中野俣小学校出身の本校生徒も一緒に伝統芸能に参加することになり、会場が温かい雰囲気となった。

③ 取組の成果

昨年度までは近隣の保育園児が参加したが、小学生と連携しての体育祭は初めての試みとなった。生徒会総務が内容検討の中で、体格差のある小学生と高校生が、一緒に盛り上がる内容という課題に頭を悩ませる場面もあったが、難しい課題に話し合いを例年以上に重ねることができ、しっかりとした準備につながったと感じた。また、事前に小学校へ訪問説明に伺ったことが、両校の不安を和らげ、距離を縮める機会となった。

当日は、小学生の純粋で一生懸命な取り組みと、高校生の思いやりを持ったサポートにより2種目共に大変盛り上がりを見せた。また、サプライズで高校生が参加した伝統芸能では、会場がその日一番の心温まる雰囲気となった。

今回の連携で地元小学校や地域へ本校の取組を新しい形で伝えられただけでなく、本校の生徒会にとっても貴重な経験と活性化につながる活動となったと感じる。



(4) 地域連携の椽峰祭

① 目的

地域の学校に本校の活動を伝え交流したり、栃尾地域の産業について理解し生徒や来場者に紹介するため。

② 取組の概要

(ア) 実施日時

平成28年10月29日（土） 10:00～14:00

(イ) 内 容

●図書委員会企画「絵本読み聞かせ」

事前に長岡市栃尾地域図書館の蕨澤千洋様をお迎えして講習会をおこなった。

椽峰祭では、図書委員会のブースを設置し、訪れた子どもたちを対象に絵本読み聞かせを行った。

● 燃糸工場の見学と展示紹介

事前に布施燃糸様にて見学を実施し、学んだ燃糸について、模造紙にまとめ展示発表した。専門性が高く難しい内容だったので、全校生徒や来場者に少しでも足をとめていただくために、燃糸の種類を独自のキャラクターにして絵で表現したり、見学の様子を写真で掲示するなど工夫した。ご来校いただいた皆様にも栃尾の産業について紹介できた良い機会となった。

③ 取組の成果（生徒感想：抜粋）

- 一言で燃糸と言っても、様々な使用用途があり、栃尾で造られた燃糸が、トヨタ、ダイハツのエアバッグに用いられていると知り、燃糸の汎用性に驚かされました。今回の栃尾燃糸工場を調べて、また新しい使用用途が見つかり、栃尾の活性化に貢献したいと思います。
- 今まで栃尾に住んでいても、知らなかったことを知ることができて良かったです。栃尾にはたくさんの伝統あるものがあるということがわかりました。



(5) 来て！見て！作って！体験フェスティバルの実施

① 目的

高校での活動で得た知識や技術を活かし、地域の子どもたちに夏休みの自由研究のヒントを楽しみながら提案する。さらにイベントをとおして栃尾や栃尾高校の魅力を伝える。

② 取組の概要

(ア) 実施日時

平成28年 8月10日(水) 13:00～15:30

(イ) 内 容

企画	企画名	会場	内容
企画① 13時～	書道パフォーマンス	文化センター前駐車場	熊本大震災復興祈願書道席上揮毫パフォーマンス (20分)
企画② 13時30分から15時30分まで	工作教室	第1 研修室	・「とちおしおりに作って」 家庭系列の生徒が準備した押し花を使いラミネートでしおり製作。参加フリー。 ・「変身！！おりがみ」 折り紙を変形させて色々な物を作る。 参加フリー。
	体力診断	大会議室	・「あなたの体力は何歳？」 何種類かの器具を用いて体力測定診断をおこなう。参加フリー。
	おもしろ理科教室	学習室	・「栃高メダカを育てて！！」 メダカについての解説と希望者にはメダカのプレゼント (13:30、15:00の10人×2回のみ)
			・「空気砲で景品Get！」 科学部製作の空気砲でピンを倒し、倒した本数により景品をプレゼント。参加フリー。 ・「きらきらドームをつくらう！」 水に糊を混ぜてキラキラ光るスノードームを作る。 (13:30、14:30の15人×2回のみ実施)
おもしろ家庭科	第2 研修室	・「野菜の重さ??！」 カードを配付し、用意した野菜を水槽に浮かべて記入してもらおう。参加フリー。 ・「とちおクルマボタンをつくらう」 栃尾の布地を選んでもらいくるみボタンを作り、ヘアゴムにしよう。 (13:30、15:00の15人×2回のみ実施)	
		企画③ クイズラリー	文化センター一玄閣



③ 取組の成果（感想：抜粋）

(ア) 来場者より

- ・子どもの夏休みの自由研究の材料になればと思い、旧長岡市より「なじらび」を見て来ました。すごく良い体験をさせてもらったので、来年も絶対やって下さい。
- ・栃尾高校の生徒がとても一生懸命教えてくれて感動しました。
- ・中学生だけど、参加できて良かったです。
- ・栃尾高校が頑張っている様子が見られて嬉しいです。もっともっと応援します。

(イ) 職員より

- ・生徒が一生懸命動いていて驚いた。
- ・来場者の方には本当に満足していただけたようです。参加した子ども達のあふれる笑顔、保護者の方からは「来年も絶対やってね。」とたくさん声をかけていただきました。

(6) 栃尾の環境保護活動参加と歴史的建造物見学

① 取組の目的

地域の文化や伝統を知り、校内では経験できない体験活動をとおして、地域を理解し、そこに愛着と誇りを持ち、将来、地域を支える人材となる意欲を育む。

② 取組の概要

(ア) 実施日時

平成28年6月3日(金)

(イ) 内 容

工業技術系列3年18人が長岡市立中野俣小学校を訪問し、環境保護活動に参加するとともに木造校舎の見学を行なった。当日は、中野俣小学校の取組であるカワセミの池の環境保護活動にも参加し、児童と一緒に清掃活動を実施した。

③ 取組の成果

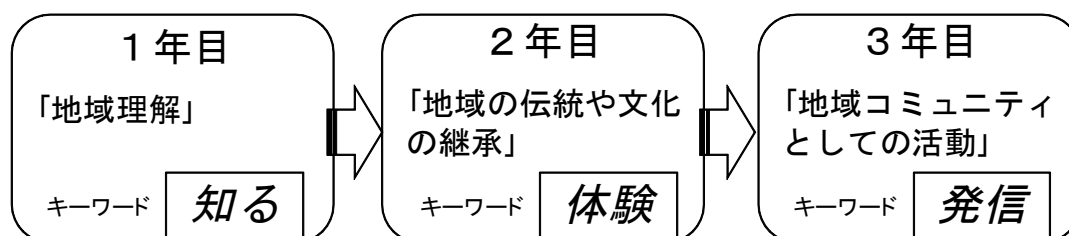
小学生との交流事業だったが、皆すぐに打ち解けてお互いに協力しながら作業を進めることができた。清掃後、後日カワセミが飛来したとのことで、大変有意義な活動であった。



2 総合所見

(1) 最終年度を見通した取組の実施

栃尾高校では本事業の取組に対して次のとおりテーマとキーワードを設定している。



2年目のテーマは「地域の伝統や文化の継承」でキーワードは「体験」である。そのため『地域探訪』では1年目に実施した栃尾地域を歩いて巡る活動に加え、栃尾の産業等を体験できるような活動へと発展させた。

また、今年度新たな取組である『来て！見て！作って！体験フェスティバル』の実施では、日頃各系列で学んだ知識や技術を、地域の子どもたちに教えるといった体験をおこなった。さらにイベント内容に1年目で学んだ地域の伝統や文化を加えた内容を取り入れたことにより、生徒がさらに次の世代の子どもたちに地域の伝統や文化を継承して役割も果たすことができたのではないかと考えている。

そして、3年目となる来年度に向けて、1月には『地域探訪展』を実施した。今年度は初めての取組であったが、1年目、2年目で得た知識・技術を発信していく最初のステップとなった。今年度の経験を活かし来年度はさらに展示内容を充実させて実施できるように準備を始めている。そして、栃尾高校はもちろんのこと、周辺施設も含めて栃尾の魅力発信の場となれることを目指している。

(2) 3つの目標に対して

ア 組織的・計画的なキャリア教育の実践をとおして、総合学科の特性を発揮した教育に取り組む

昨年度同様、学年ごとの進路ガイダンスをはじめ各系列で地元の企業見学や伝統工芸品の製作などをとおして、今後の進路について考える機会を設けている。また、今年度取り組んだ『地域探訪』での職業体験は、これまでのインターンシップとは企業が異なり、さらに系列での学習では経験できなかった体験ができ、新たな職業理解となったようである。興味がなくこれまで経験してこなかった分野を体験することにより自分自身の能力や適性を発見することができた生徒も多かった。

イ 地域の企業、小・中学校、行政、住民等との相互交流を推進する

今年度は『地域連携の体育祭』や『来て！見て！作って！体験フェスティバル』など、特定の系列等に限らず全校生徒が相互交流する機会を設けることができた。また、これまでの保育園の園児との交流や福祉施設の訪問、隣接する小学校の遠足時における生徒作品のプレゼントの他にも生徒会総務が中心となり地域のイベント『とちお夜のランプ祭り』への参加など高校生として協力できることには積極的に取り組んだ。その結果、地域の方と地域活性化のための方策について意見交換をする機会なども増えた。地域の方の本校生徒に対する期待が年々高まっており、今後も相互交流を推進する中で期待に応えていきたい。

ウ 新たな問題の解決や探求活動に主体的、創造的に、協働して取り組む態度や能力を養う

各系列の授業での取組はもちろんであるが、来年度のテーマに向けた取組として教科どうしが協力しながら『商品開発』や『テーマソング制作』に取り組み始めている。これらの取組は、昨年度生徒会で考案した栃尾高校キャラクター『あげお・あげみ』を用いた地域活性化の活動の中から生まれた取組であり、昨年度以上に生徒が主体的に活動し、探究心や創造性が向上されていることの証でもあると考えられる。

(3) 次年度の取組に向けて

今年度後半から動き始めた取組は、3年目のキーワード「発信」につながっており、今年度の取組を継続しながらも、3年目のための新たな取組である ①栃尾地域PR映像作り ②栃尾高校キャラクター『あげお・あげみ』テーマソングの制作 ③「あげお・あげみ」キャラクター弁当の製作等、生徒、職員ともにアイデアを出し合い、楽しみながら「発信」に向けて取り組んでいる。そして8月の「来て！見て！作って！体験フェスティバル」、10月の橡峰祭、12月の『栃尾高校展』等で本校が地域活性化の発信源となるように活動に取り組む。

高等学校教育課長 様

学番 46 県立吉田高等学校長

オンラインスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

吉田高校	
【テーマ】	燕市の明るい未来を担う人材の育成
【目標】	<ol style="list-style-type: none">1 体験や学びを通して自尊感情を高め、生涯にわたって能動的に学び続ける力を育成する。2 チームの中で自分の役割を見つけ、考えたり行動することができる力を育成する。3 吉田高校の教育活動を活性化させ、その内容を地域に情報発信する。
【取組の概要】	<p>○ 燕市教育委員会、燕商工会議所、吉田商工会、燕市観光協会、社会福祉協議会等との連携により事業を行った。以下に主なものを記す。</p> <ul style="list-style-type: none">・ モンゴル国リオパラリンピックアーチェリー選手団との交流会・ 酒呑童子行列や桜フェスティバルなど観光協会主催行事におけるボランティア活動・ 地域進路探求講演会（全校生徒対象）・ 地域啓発講演会（1年生対象）、インターンシップ（2年生対象）・ 上級学校およびJICAの講師による特別講義・ 同窓会との連携による地場産業学習会、ビジネスマナー講習会・ 地域特色スポーツ体験と地元アスリートによる進路講話・ 赤ちゃん交流会、高齢者疑似体験、地域の食と文化を学ぶ講座
【総合所見】	<ol style="list-style-type: none">1 燕市教育委員会、燕商工会議所、吉田商工会との連携が深まったことで、今年度は新たな取組としてモンゴル国からのパラアーチェリー選手団との交流とインターンシップを行うことができた。それにより、前年度までの成果に加え、生徒は地元のグローバル化の進展度合いと地場産業について理解を深めることができた。2 本事業最終年となる次年度は、事業終了後もその趣旨に基づいた教育活動を継続していけるような体制の構築が求められる。そのために外部については関係機関との連携強化を、校内では適切なカリキュラムマネジメントを進めていくことが課題となる。

【取組の成果】

アンケート結果の評価はすべて、「4：とても 3：まあまあ 2：あまり 1：全く」である。
全事業の評価の平均値は「3.4」であった。

1 燕市教育委員会との連携事業

モンゴル国リオパラリンピックアーチェリー選手団との交流会

【アーチェリー部員、生徒会役員、茶道部員参加】

○目的 グローバルな体験を通して異国文化と地域文化や地場産業に触れ、能動的かつ継続的に学ぼうとする力を育成する。

○内容 アーチェリー部員との合同練習（滞在期間中随時）

アーチェリー部員との地場産業見学・体験交流（7月29日）

生徒会役員・茶道部員との地域の国指定文化財（今井家住宅）見学と和菓子作成体験および交流お茶会（8月1日）

アンケート結果	評価4	評価3	評価2	評価1
この交流事業について先生から初めて聞いたとき興味を持ちましたか	50%	45%	5%	0%
自分から積極的に交流事業に参加できましたか	5%	50%	41%	4%
国際交流は楽しかったですか	73%	9%	18%	0%
地場産業や地域の文化について興味・関心は高まりましたか	34%	39%	22%	6%
進路や将来を考える上で役に立つものでしたか	28%	18%	45%	9%



○生徒の感想から

「言葉が通じない人との交流は初めてでしたが、思ったよりも楽しくできました」「モンゴルの文化を少しでも知ることができてよかったです。」「モンゴルのコーチから教えてもらい自分の良い所と悪い所がわかりました。」「もっと積極的に交流をしたいと思いました。」「アーチェリー用具がこんな近くの地元で作られているとは思っていなかったから、興味がわきました。」「身近な歴史的建物を見学できてうれしかったです。モンゴルの方たちも興味を持ったようです。」「和菓子職人の技術におどろきました。」

2 インターンシップ 【2年生希望者対象：48名参加】

○目的 地元企業等からの協力を受け、勤労観、職業観を養うとともに、生徒自身が自己の進路について地域に根ざす企業から自分自身で選択することができるようになることを目指す。

○内容 夏休み期間を利用し、製造・販売・接客・保育園・介護・美容・自動車整備のうち、自ら希望する業種について3日間のインターンシップを経験する。

アンケート結果	評価4	評価3	評価2	評価1
インターンシップについて先生から初めて聞いたとき興味を持ちましたか	23%	63%	14%	0%
自分から積極的にインターンシップに参加できましたか	67%	21%	12%	4%
インターンシップは楽しかったですか	58%	33%	9%	0%
地元企業について興味・関心は高まりましたか	42%	44%	14%	0%
進路や将来を考える上で役に立つものでしたか	51%	44%	5%	0%

○生徒の感想から

「将来目指している職業の職場に行くことができ、とてもよい経験になりました。楽しい部分だけではなく、たいへんなところや様々な工夫などを実際に見たり経験したりするのはやはり良いと思いました。」「仕事の経験をしてみて、お金を稼ぐのはとてもたいへんなんだなと思いました。」「対面販売で呼びかけをしました。多くの人が素通りして行きこんなにもたいへんなんだなと思いました。ですが、試食してもらったとき、買ってもらったときとてもうれしくなりました。」「初日からあいさつの声が小さかった。普段の生活でもあいさつをするように心がける。」

3 燕市観光協会、吉田商工会、吉田地区まりづくり協議会等との連携事業 地域イベントでのボランティア活動【生徒会役員、茶道部員、有志生徒】

○目的 地域について理解を深めることで郷土愛を育み、異世代と交流することで望ましいコミュニケーションのあり方を考える。さらに、奉仕活動等を通じ自己有用感を抱く。

○内容 桜フェスティバル(4月9日) 分水おいらん道中(4月17日)
普段着でお茶を楽しむ会(5月14日) 酒呑童子行列(9月25日)

アンケート結果	評価4	評価3	評価2	評価1
この取組について先生から初めて聞いたとき興味を持ちましたか	65%	35%	0%	0%
自分に与えられた仕事への取組は満足できるものでしたか	70%	30%	0%	0%
活動は楽しかったですか	80%	20%	0%	0%
地域の行事について興味・関心は高まりましたか	80%	20%	0%	0%
進路や将来を考える上で役に立つものでしたか	55%	45%	0%	0%



○生徒の感想から

「もっと自分から積極的に仕事をもらいにいけば良かった。」「行事を盛り上げることができ、全体的にうまくいった。」「お客様に笑顔で対応できた。」「多くの方々にこのイベントを知ってもらうことができた。」

4 地域進路探究講演会 【全校生徒】

○目的 地域で郷土愛を抱きながら活動している方のお話を伺うことで、地域についての理解と誇りを抱くようになる。さらに、自分自身も地域と関連した進路目標を設定できるようになる。

○内容 吉田地域のローカルヒーロー「メテオレンジャー」による活動報告と、地域の文化・歴史紹介。(11月17日)

アンケート結果	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1
この講演会について先生から初めて聞いたとき興味を持ちましたか	26%	40%	26%	8%
自分から積極的に講演に参加できましたか	17%	38%	28%	17%
講演会は楽しかったですか	40%	38%	15%	7%
地域について興味・関心は高まりましたか	38%	46%	5%	11%
地域と関わる進路や将来を考える上で役に立つものでしたか	26%	46%	17%	11%



○生徒の感想から

「今までの講演会と違っていて楽しかった。」「地域の方と関わっていく方法がたくさんあることを知った。」「普段あまり聞くことのない方言を聞くことができた。」「ローカルヒーローに初めて会えた。楽しみながら聞くことができたので内容が頭に残りやすかった。」

5 ビジネスマナー講習会 【情報ビジネスコース 3年生】

○目的 進学・就職で社会人として求められるマナーについて学び、他者からの信頼により自己肯定感を高められるようにする。

○内容 地元企業から講師を招き、挨拶、言葉遣い、立ち居振る舞いなど実践的なトレーニング形式の講座を実施する。(5月24日)

アンケート結果	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1
この講習会について先生から初めて聞いたとき興味を持ちましたか	13%	57%	30%	0%
自分から積極的に講習会に参加できましたか	17%	65%	17%	0%
講習会は楽しかったですか	26%	48%	26%	0%
ビジネスマナーについて興味・関心は高まりましたか	26%	52%	22%	0%
進路や将来を考える上で役に立つものでしたか	70%	26%	4%	2%

○生徒の感想から

「これから社会に出て役立つことだったので有意義な時間だった。」「気をつけをしたときの手の位置が普段あまり意識しないことなので面接の時に注意しようと思いました。」「友人と上司のパーソナルスペースの差が一気に広がったことに一番おどろきました。」「おじぎの角度を適当にしがちなので、30°、45°など意識しようと思います。」



6 地域特色スポーツ体験 【健康体育コース 2・3年生】

○目的 地域特有でありながら普段接することの少ないスポーツを体験することで地域理解につなげる。また、地元在住のアスリートから将来にわたって地域に根ざしたスポーツに親しむ気持ちと、困難にくじけない精神を学ぶ。

○内容 弥彦競輪場で競技用自転車を経験し、本校OBである競輪の川村昭弘選手に高校時代から現在に至るまでを通じた経験談を伺った。(11月14日)

アンケート結果	評価4	評価3	評価2	評価1
この取組について先生から初めて聞いたとき興味を持ちましたか	56%	40%	2%	2%
実技への取組は満足できるものでしたか	77%	23%	0%	0%
活動は楽しかったですか	86%	14%	0%	0%
スポーツについて興味・関心は高まりましたか	71%	27%	2%	0%
進路や将来を考える上で役に立つものでしたか	56%	40%	2%	2%

○生徒の感想から

「自分も将来の夢に向けて頑張りたいと思います。」「実技はめったに経験できないので貴重な体験になりました。」

「バンクを走るのは難しかったです。」「スポーツをする上で、ためになる言葉をいただきました。」「これからの人生のことも教えていただき良い体験でした。」



7 赤ちゃん交流会 【文化教養コース 2年生】

○目的 乳幼児とのふれあいにより、子どもの発達について理解するとともに将来自分自身が育児を行うことについて肯定的に受け入れられる土台作りをしていく。また地域の保育施設の機能や特性を理解する。

○内容 それぞれの実施日に15組ほどの乳幼児と母親及び地域の保育施設職員から来校していただき、乳幼児と遊んだり、母親から育児の体験談を伺ったりする。それまでの準備として手遊び歌の練習や手作りプレゼントの作成等を行う。

(9月7日・14日)

アンケート結果	評価4	評価3	評価2	評価1
この取組について先生から初めて聞いたとき興味を持ちましたか	97%	3%	0%	0%
自分に与えられた仕事への取組は満足できるものでしたか	87%	13%	0%	0%
活動は楽しかったですか	100%	0%	0%	0%
保育について興味・関心は高まりましたか	93%	7%	2%	0%
進路や将来を考える上で役に立つものでしたか	93%	7%	2%	2%

○生徒の感想から

「お母さんに赤ちゃんの名前の由来などを聞いてみて、ちゃんと意味があるんだと思いました。」「かわいいだけでなく、赤ちゃんのたいへんな部分も知ることができてよかったです。」「赤ちゃんが泣いたときのあやし方が、お母さんにしか分からない方法ですごいなと思いました。」



8 キャリアプラン講演会 【2年生】

○目的 正しい勤労観や職業観を身につけることで、自身が社会で必要とされるために学ぶべき事柄を理解する。また、主体的に学ぼうとする力を身につけさせる。

○内容 キャリアとはどういったものかイメージを持たせるために、早期離職の問題点や適正と適職の関係性について講演をいただいた。(11月2日)

アンケート結果	評価4	評価3	評価2	評価1
この講演会について先生から初めて聞いたとき興味を持ちましたか	20%	56%	18%	6%
講演会のテーマは満足できるものでしたか	42%	42%	12%	4%
講演会は参考になりましたか	84%	38%	12%	4%
さまざまな職業について興味・関心は高まりましたか	38%	46%	12%	4%
進路や将来を考える上で役に立つものでしたか	44%	46%	6%	4%

○生徒の感想から

「勉強することは、学生だけがすることではなく日々、学習をして人間的に成長するのだと思いました。」「働くことは社会の役に立つことだとわかったので、将来の職業選択は真剣に決めたいと思いました。」

9 グローバル教育体験講座 【文系コース 3年生】

○目的 グローバル時代を見据え、地元地域での国際化に対応できるきっかけとなるように英語以外の語学経験により、世界への関心の向上を図る。

○内容 中国語、ハンガール語、台湾語、ドイツ語、スペイン語の計5言語の講座を開講。生徒の希望に基づいてクラス分けし各講師から簡単な挨拶や文化などについて学ぶ。(12月13日)

アンケート結果	評価4	評価3	評価2	評価1
この講座について先生から初めて聞いたとき興味を持ちましたか	54%	36%	8%	2%
自分から積極的にこの講座に参加できましたか	69%	23%	8%	0%
この講座は楽しかったですか	88%	10%	2%	0%
異なる国の生活や文化について興味・関心は高まりましたか	78%	20%	2%	0%
外国と関わる進路や将来を考える上で役に立つものでしたか	57%	35%	8%	0%



○生徒の感想から

「とても興味がわきました。もっと台湾の文化や言葉を知りたいと思いました。毎週講座を受けたい気分です。」「難しかったです、スペイン語で色や数字とかをどのように言うのかわかって楽しかったです。」

高等学校教育課長 様

学番 5 1 新潟県立小千谷西高等学校長

オンラインスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

小千谷西高校

**【テーマ】 地域の未来を切り拓く人材育成
～地元とのコラボレーションによる「おぢやモデル」の構築～**

【目標】

- 小千谷の地において、小千谷西高校を核として、地元自治体、関係団体、企業等、地域の主要な各プレイヤーと連携した教育活動を行い、当該地域の未来を切り拓く人材育成プログラムを構築するとともに、その円滑な実施に努める。
- こうした活動の成果を発表する機会を通じて、地域の各小・中学校において行っている職場見学・職場体験等のもとよりキャリア教育全般について理解を深め、地域内での小・中・高一貫したキャリア教育を展開する。

【取組の概要】

- 地元企業での職場実習を授業に取り入れた人材育成プログラムの確立
 - ・ 学校設定科目「キャリア実習」の定着と、これまでの業種に加えた新たな分野を開拓した。
 - ・ メカトロニクス系列や機械部におけるこれまでの地域連携取組の一層の充実を図った。
 - ・ 工業科以外の教科における地元とのコラボレーションの可能性を追求し、実践した。
- 総合学科の特色をPRするためのイベントを市と連携して開催
 - ・ 12月に、市内5中学校の2年生約280人を対象とした、総合学科である小千谷西高校や普通科である小千谷高校の生徒によるパネルディスカッションを開催した。
 - ・ 具体的には、地元企業の方々と各高校の生徒が登壇し、自社の魅力や求める人材像、各高校の特色や自身の取組を紹介し、中学生の将来を見据えた進路選択に刺激を与える内容とした。

【取組の成果】

- 様々な科目を有する小千谷西高校において、授業をはじめとした教育活動全体の一層の特色化を進めた。また、地域の中学校におけるキャリア教育の一端を理解することで、産業社会と人間や総合的な学習の時間等、ガイダンスの要素を持つ教育活動の工夫・改善につなげる必要性について職員の機運醸成を図った（総合学科における「おぢやモデル」）。
- 中学校2年生が、12月に将来を見据える活動を行うことにより、一層主体的な進路選択が可能となることから、小千谷市・小千谷市教育委員会・小千谷高校とともに「おぢやしごと未来塾」を開催した（小・中・高一貫した早期からのキャリア教育における「おぢやモデル」）。
- 地域企業等においては、高校生受け入れ等の活動が、当該生徒（高等学校）に対する取組にとどまらず、地域の未来を担う中学生や高校生に広くアピールする機会となることを「おぢやしごと未来塾」や「キャリア実習取組成果発表会(校内)」の開催により具体化した（地域の未来を切り拓く人材育成における「おぢやモデル」）。

【取組の成果（詳細）】

1 「地元企業での職場実習を授業に取り入れた人材育成プログラムの確立」について

(1) 科目「キャリア実習」（教科：産業社会）の取組

ア 科目の概要

- ・ 地域の企業等と連携し、授業時間において、長期間にわたり企業等での現場実習を行うことにより、生徒の勤労観や職業観を養い職業意識を高めるとともに、地域産業の発展に貢献することのできるより実践的な技術や能力を身に付けさせることを目的とする科目である。
- ・ 授業時間は火曜日の5・6限、年間のスケジュールは次のとおり。
4月～5月 校内指導、意識付け、実習先決定、企業への事前訪問
6月～11月 企業での実習（毎週火曜日13:30～17:00 約15回）
12月～3月 校内指導、報告書作成、取組成果発表会
- ・ 学校から事業所への生徒の移動手段は、原則として、登下校時の交通手段（徒歩、自転車、バス、電車など）。 ※ 遠距離の場合は職員による引率等により「出勤」する。



イ これまでの経緯

- ・ 平成24年度に、地域密着型長期デュアルシステムの導入をめざし、企業等における現場実習の在り方について調査研究を行うとともに、小千谷市、小千谷商工会議所、小千谷鉄工電子協同組合等、関係する皆様とご相談させていただきながら、実施に向けて準備を進めた。
- ・ 平成25年度に、教科「工業」の科目「工業技術基礎」を選択した7人を対象に3事業所において試行として実習を行った。
- ・ 平成26年度より、教科「産業社会」の科目「キャリア実習」として教育課程に位置づけ、この科目を選択した8人が、6事業所において実習を行った。
- ・ 平成27年度は18人が選択し、11事業所において実習を行った。
- ・ 平成28年度は23人が選択し、20事業所において実習を行った。

ウ 平成28年度の工夫・改善

- ・ 受け入れ事業所数がこれまで最大の20事業所となった。
- ・ 平成29年度受け入れ意向調査を平成28年内に完結し、次年度選択者に向けた事前指導を年度内に行うべく態勢を整えた。



エ おぢやしごと未来塾の開催(H28. 12. 20)

- ・ 小千谷市内中学校2年生を対象に、パネルディスカッションを実施した。当校からは2人の生徒が参加し、市内製造業2社の方とともに、中学校2年生の進路選択の参考とするため、当校における「キャリア実習」や学校の様子についてお話しさせていただいた。

オ キャリア実習取組成果発表会・地域の声を聞く会(兼学校評議員会)の開催 (H29. 2. 14)

- ・ キャリア実習の成果発表会は、当初、次年度選択生徒を対象に実施してきたが、昨年度より1年次生全員を対象として成果を共有するとともに、地域の声を聞く会(兼学校評議員会)を同時開催することにより、受入企業のみならず地元関係者等より幅広く参加していただくこととし、取組成果や地元企業の紹介をより多くの方に理解していく機会とした。
- ・ 今年度の発表数は20となったことにより、多目的実習室と視聴覚教室の2カ所で同時に開催することとした。また、司会を2年次生が行うこととしたほか、発表を聞く1年次生が発表者の評価を行うことに改め、それぞれの生徒が発表に係るスキルを磨くよう改善した。

(2) 科目「地域と福祉」（教科：家庭）の取組

ア 科目の概要

- ・ 地域福祉の理念や現状、今後の課題を理解するとともに、社会福祉の理念や制度、高齢者や障害者について学び、さらにコミュニケーションの方法を身に付けるため、地域生活で実践的・体験的に学ぶことを目的とする科目である。

- ・ 6月以降、小千谷市内の福祉施設等4カ所において実習を行い、高齢者や障害者の生活やその支援の在り方、また、地域社会で共に生きることについて考察を深めた。

イ 平成28年度の工夫・改善

- ・ 学習した成果を発表する機会を新設した。具体的には、グループごとの福祉啓発ポスターの作成、プレゼンテーション、各発表者への評価を実施し、発表に係るスキルを向上させた。



(3) 科目「ファッション造形」(教科：家庭)の取組

ア 科目の概要

- ・ 被服の構成を理解するとともに、デザインや着用目的に適した被服材料を選択し、実践的な被服製作ができるようにする。また、小千谷縮などの伝統工芸に触れ、織物の製造工程についての知識も深めることとしている。
- ・ 11月、小千谷市織物同業協同組合の体験工房において、機を用いてあらかじめ染められたよこ糸の柄をあわせながら織っていくかすり織を体験した。また、小千谷縮の歴史を学んだ。
- ・ 1月、自ら制作した浴衣の着付け体験を行った。会場は小千谷市総合産業会館サンプラザの和室。小千谷市織物同業協同組合の職員様より浴衣の着付け指導をしていただいた。

イ 平成28年度の工夫・改善

- ・ 織体験と小千谷縮に係る学習をより効果的に行うように再編成した。
- ・ 1月に実施する着付け体験を念頭に置き、4月からの指導計画の作成に反映させた。



(4) 科目「美術Ⅰ」(教科：芸術)の取組

ア 科目の概要

- ・ 感性を高め、創造的な表現能力を伸ばすことなどを目的とする科目である。
- ・ 「西脇順三郎プロジェクト」と題して切り絵の制作を行った。当校の校歌の詩は、小千谷で生まれた偉大な詩人であり、ノーベル文学賞の候補ともなった西脇順三郎先生によるものがある。この校歌のフレーズから生徒が感じ取ったイメージを、切り絵によって表現した。

イ 小千谷市総合産業会館サンプラザでの展示 (H29. 1. 24~2. 28)

- ・ 本事業の成果として、下記(5)(6)とともに作品を展示し、市民の方にご覧いただいた。



(5) 科目「コマーシャルカリグラフィー」(教科：芸術)の取組

ア 科目の概要

- ・ 伝統的な書作品や現代の様々な芸術作品の表現方法を学び、「商業書道」の表現方法を工夫する。郷土の文化や産業をテーマとするため地域との連携を図ることとしている。
- ・ 今年度は、毎年2月に小千谷市で開催されている「風船一揆」をテーマに、生徒がフレーズを書き込み、ポスターとして制作した。
- ・ ポスターの画像素材は小千谷観光協会様よりご提供いただいた。また、外部講師として地域のデザイナーの方より10月と1月の2回、指導・助言をいただいた。

イ 平成28年度の工夫・改善

- ・ 上記(4)イに記した展示をピークとした年間の指導計画を作成し、技能の向上に努めた。



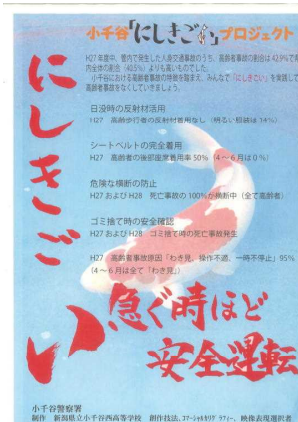
(6) 科目「映像表現(美術)」、「創作技法(書道)」、「コマーシャルカリグラフィー(書道)」(教科：芸術)の取組(H28年度新規)~小千谷警察署「にしきごいプロジェクト」のポスター制作~

ア 科目の概要

- 映像表現…映像機器を使って視覚的に伝達するための表現方法や技能を体得し、機器による表現と鑑賞の能力を高める。
- 創作技法…伝統的な書の作品や現代の様々な芸術作品の鑑賞と表現方法を幅広く学び、各種の書の技法を身に付け、自己の表現に生かす資質や能力を育成する。
- コマーシャルカリグラフィー…上記(5)のとおり。

イ 小千谷警察署「にしきごいプロジェクト」の取組

- 平成28年5月、小千谷警察署より、「にしきごい」の文字から始まる高齢者の交通事故を防止するためのメッセージを用いたポスター制作を依頼された。
- 依頼を受け、上記3科目において、ロゴを「コマーシャルカリグラフィー」で、文字を「創作技法」で制作し、画像とのマッチングと最終デザインを「映像表現」にて行うこととした。
- 平成28年9月、小千谷警察署において作品の閲覧及び審査が行われ、小千谷警察署長様より感謝状が渡された。また、優秀作品が、市内各所に掲示されることとなった。本校の授業の成果をまとめることで、地域に貢献できた良い機会となった。



(7) 科目「英語会話」(教科：英語科)の取組(H28年度新規)

ア 科目の概要

- 基本的な文法を活用して自己表現をさせ、身近な話題について会話することができる能力を身に付けさせることを目標とする科目である。
- 小千谷の伝統や文化を紹介する文章を作成し、スピーチすることとした。地域の教育資源を活用して地元の理解を深めつつ、生徒のより主体的な学びにつなげようと試みた。



イ 授業での「小千谷の紹介」

- 紹介するテーマは、「SWIMMING JEWEL(錦鯉)」、「SOBA(そば)」、「BULL FIGHTING(闘牛)」、「BALLON FESTIVAL(風船一揆)」、「OJIYA SUMMER FESTIVAL(おぢや祭り)」の5つである。
- 生徒は、3～4人のグループごとに、テーマやスクリーンに投射する画像を決め、それぞれの視点で紹介する文章を作成して発表した。
- なお、スピーチに用いた画像の素材は、小千谷観光協会様より快くご提供いただいた。

2 「総合学科の特色をPRするためのイベントを市と連携して開催」について

～おぢやしごと未来塾～の開催

(1) 平成27年度の振り返り

初開催であった平成27年度は、企画が精一杯であり、イベント参加者である中学生やその指導者である中学校教職員の意見を取り入れることは不十分であった。そこで、事後アンケートで寄せられた様々な意見を実施者である小千谷市、小千谷市教育委員会、小千谷高等学校並びに当校職員が分析し、改善策を立案して平成28年度の企画を行うこととした。

(2) 平成28年度の改善点

- 企業ブースと発表会場の分離
- 企業ブースの分野ごとの配置
- 中学生への事前学習資料の配付
- 中学校担当者との意見交換(2回)
- 企業の方と高校生が壇上に上がってのパネルディスカッションの開催 など



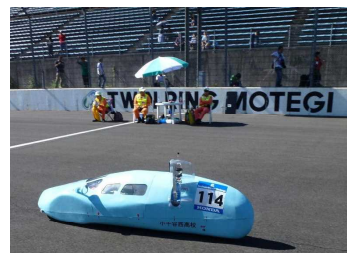
(3) 平成29年度の方向性

- ・ 今年度の改善については、参加した中学校の生徒及び教職員、事業所ブース出展者、さらには地元新聞等において、一定の評価を得たものと認識している。
- ・ 平成29年度については、今年度の取組をベースにしつつ、反省点や改善意見をもとにブラッシュアップして、中学生が地元の高等学校の取組や地域の産業の魅力を理解できて、より主体的な進路選択につなげることができるイベントへと発展させていく。
- ・ また、再来年度以降、どのような形で継続させていくか、検討を進めることとしている。

3 その他

(1) 部活動「機械部」の取組

- ・ 平成28年10月2日、機械部が、「Honda エコ マイレージチャレンジ2016 第36回全国大会」に、4年連続で出場した。
- ・ マシンは、昨年のマシンの課題を克服するため生徒達がエンジンパーツや外装などを改良して仕上げた。エンジンパーツであるクランクシャフトについては、小千谷の鉄工と電子の両産業を担う人材育成の場として設けられた「テクノ小千谷名匠塾」にてキー溝加工を施した。
- ・ チームは1年次生の4人で、チーム過去最高成績となる燃費799.523km/ℓを記録した。順位は27位(エントリー136台、完走77台)で、出場した県内高等学校の中でトップであった。



(2) 部活動「書道部」の取組 (H28年度新規)

- ・ 今年70周年を迎えた小千谷市公民館の記念事業の一環として、同館のロビーに、書道部の巨大な作品が展示された。
- ・ この作品は、ふるさと小千谷を愛した世界的な詩人であり本校校歌の作詞者でもある西脇順三郎先生の詩の中から、展示期間にあわせて「秋」を選び、書道部員が制作したものである。



(3) インターンシップの実施

- ・ 夏季休業中に、小千谷市商工観光課の協力を得て、全学年の生徒の希望者を対象に、市内の企業等において2～4日のインターンシップを実施している。
- ・ 平成28年度は17事業所において、32人が参加した。
- ・ 今年度はこれまでになかった、幼児教育関係についても新規に実施することができた。

(4) 日本国際工作機械見本市視察

- ・ 1～3年次生7人、保護者2人、本校職員5人、小千谷市商工観光課職員2人の計16人が、東京ビックサイトで開催された日本国際工作機械見本市を視察した。
- ・ 小千谷市の基幹産業である鉄工・機械関係の企業が多数出展している見本市を視察することで、地域の産業による世界トップレベルの「ものづくり」を実感できた。



(5) 先進校等視察（富山県立小杉高等学校）

- ・ 本事業での様々な取組の成果を日常の授業に落とし込みながら、生徒のより主体的な学びに結びつけるため、総合学科である富山県立小杉高等学校において、普段の授業にアクティブラーニングをどのように取り入れることができるかという観点で授業参観等を行った。
- ・ 学校の体制として普段から授業改善をしようという姿勢が見て取れた。各自お互いの授業を参観し合ったりし、生徒のために教員自身が努力していく姿勢が大事であると改めて感じた。

【総合所見】

1 「地元企業での職場実習を授業に取り入れた人材育成プログラムの確立」について

(1) 科目「キャリア実習」

- ・ 平成28年度においては、これまで最多の選択者(23人)と受け入れ事業所(20事業所)となった。この科目は、地元新聞等において複数回取り上げられたことで、認知度も向上している。
- ・ こうした中、この科目をより充実・発展させるため、授業を通じて何を身に付けさせたいのか、今一度狙いを明確にして指導を行う必要がある。
- ・ 試行も含めて実施から5年目となる平成29年度については選択者数が15人となる見込みであり、初めて前年度を下回ることとなる。授業を立ち上げた頃の「上昇期」から「水平飛行」に移る時期であり、持続可能な実施形態に調整していく必要がある。

(2) 上記(1)以外の科目等

- ・ 平成27年度以降、芸術科や家庭科の科目において、これまでの取組を踏まえつつ、地域の施設や外部講師、その他地域の教育資源をこれまで以上に活用した取組を進めてきた。
- ・ 今年度は「英語会話」において地域の教育資源を活用する取組を始めた。来年度以降も引き続き地域の教育資源を活用しながら生徒の主体的な学びに結びつけ、「力」を身に付けさせることが課題であり、他の科目においてもこうした取組を進めることとしている。

2 「総合学科の特色をPRするためのイベントを市と連携して開催」について

(1) おぢやしごと未来塾

- ・ 中学校・高等学校・行政・企業や団体が関わった「おぢやしごと未来塾」を2年連続で開催することができた。小千谷市には、市内にタイプの異なる高校が2校、市立の5中学校の生徒数が300人前後、熱意や確かな技術を持つ魅力的な企業等、いくつかの要素が備わっている。
- ・ 今後も、すべての関係者の意向を尊重して、係わる人すべてが「win, win, win…」の関係となるべく継続的に開催することが課題である。引き続き、様々な団体がより参加しやすく、かつ継続して実施するのに最もふさわしい規模・内容・形態・実施主体を検討する必要がある。

3 その他

(1) 部活動等の取組

- ・ これまでの機械部に加え、書道部等の部活動による地域との関わりが深まりを見せた。こうした取組は、生徒にとっては発表機会の増加、地域理解の深化等のメリットがあり、地域の方々にとっても活性化や高校生の活動への理解の深化等のメリットがある。今後も、地域の教育資源を活用した取組を一層充実させるべく、可能性を探る必要がある。

(2) キャリア教育の全体計画の構築

- ・ 当校におけるキャリア教育の様々な取組を系統的に示す全体計画の再構築に向け、キャリア教育委員会が中心となって作業を進めている。これまでの取組の成果を踏まえつつ、これからの生徒を育てるために必要な活動を計画的に実施したい。その際、地域の小・中学校の取組や企業・団体の取組について情報収集を行い、小千谷の地における一貫したキャリア教育の構築を心がける必要がある。

(3) キャリア教育優良学校等文部科学大臣表彰受賞

- ・ 平成29年1月17日、本校の取組が、キャリア教育の充実発展に尽力し顕著な功績を挙げたとして、文部科学大臣より表彰された。
- ・ 今回の受賞は、地域の皆様からのご支援やご協力があってこそのものであり、当校だけでなく小千谷地域の取組が評価をいただいたものと受け止めているところであり、地域への恩返しをすべく、今後も様々な取組をとおして生徒の進路実現に向けて取り組むたいと考えている。

高等学校教育課長 様

学番 57 県立塩沢商工高等学校長

オンリーワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

塩沢商工高校
【テーマ】 塩沢商工が創造する「南魚沼活性化プロジェクト」
【目標】 本校は魚沼地域の唯一の専門高校であり、商業科、機械システム科、更には機械システム科では建設土木の科目履修が可能などの特性がある。このプロジェクトをとおして、Employability（雇用されうる能力）を養い、専門高校としてキャリア教育の観点から、将来、この地域を支え活躍する人材を育成する。
【取組の概要】
○ 建設業をはじめとする地元企業でのインターンシップの拡充を図る。 <ul style="list-style-type: none">・ 地元商工会や地域企業と連携を取り、職場実習・インターンシップを拡充し、人材を育成する。・ 地元建設企業と連携し、企業等から講師を招き、授業では学習することのできない内容を学習し、地域の問題に寄り添った技術者・技能者になるキッカケとし、地域を支え活躍する人材を育成する。
○ 地域行事への参加や地元の産業・特産品のPR活動を行う。 <ul style="list-style-type: none">・ 地域の商業施設等で販売実習・イベント開催・ 地元企業と連携し、企業等から講師を招き、地元の産業・特産物等を取りあげ、特産物の良さを再発見し、企画立案からPR・販売実習と一連の活動を行い、地域の情報発信・PRを行う。・ 学校みどり創出モデル事業等の地域の小学校と連携し、地域活性化につなげる。・ 地域文化財の研究・PR、地元の産業や生活の活性化、克雪への試みを行う。
【取組の成果】
<ul style="list-style-type: none">・ 建設土木業を含めた地元企業によるインターンシップの拡充を図った。就業体験を実施することで勤労観や職業観を育成するとともに、地域企業の魅力を体験し、各企業における本校への期待を感じることができた。・ 建設土木の現場見学や地元建設企業並びに地元生産者の講演をとおして、建設土木企業の作業内容やその重要性、冬季時における降雪への対応、そして雪の有効利用について理解を深めることができた。・ 地域の小学校と連携した「学校みどり創出モデル事業」や地域のイベントである「土木フェア」に参加することで、地域貢献の一端を担うことができたとともに、地域が抱える課題を再認識することができた。・ 講義等を通じて、南魚沼地域の観光資源や地元の商業活動の特徴について学習し、再発見するとともに、地元酒造や道の駅で行われている作業を見学することで、具体的な販売活動の様子を確認することができた。

1 土木作業現場及び企業見学

昨年度に引き続き、機械システム科1年生による現場見学を平成28年7月に実施した。本校では2年生で、建設土木系の科目の選択ができるため、今年度は機械系の作業と土木系の作業が対比できるように「(株)三條機械製作所」と「国道289号八十里越」の見学を計画し、科目履修について考えるきっかけとなるよう実施した。

(株)三條機械製作所は、印刷機等の機械やコネクティングロッドの製造を行っており、これらの製造過程を見学することにより、ものづくりの重要性や機械に関する理解を一層深めることができた。

国道289号八十里越は、新潟・福島県境の通行不能区間の解消を目的とした土木作業現場で、三条市から只見町間の通行不能区間が解消されることにより、地域間の交流・連携が増大するとともに、高度医療機関への救急搬送時間が短縮される効果があるとされている現場である。トンネルを掘削する作業や作業に使用する建設機械を実際に見学することにより、その作業の実際を体感し、把握することができるとともに、建設土木といった職業の重要性について、理解を深めることができた。1クラスは予定通り見学ができたが、もう1クラスは、前日の大雨の影響で「大河津資料館」の見学となった。以下に生徒の主な感想を示す。

【生徒の主な感想】

- ・ 今回の見学で熟練の技が必要であることがわかり、一層機械や電気への関心が深まった。
- ・ 実際に作業する場面を見ることができたので、土木現場での作業方法や重要性がわかった。



2 地元の物産品の加工及び販売の学習

地元の特産物を取り扱った企業における商品開発の様子や販売方法を学習するために、南魚沼市浦佐の「(株)アグリコア越後ワイナリー」へ行き、地域の減反政策から生まれたブドウの栽培やワインの製造、雪を利用した貯蔵方法（雪室）についてお話をいただいた。

現場で実際に製造に関わっている職員からのお話は、この南魚沼の特産品の魅力を感じられることができたとともに、地域の特徴でもある雪を利用してワインを熟成させることで、より良いワインができることを知り、地域の魅力を再発見することができた見学であった。

【生徒の主な感想】

- ・ 初めて越後ワイナリーへ見学に行きました。ワインの作りにくい雪国で雪を有効利用したり、工夫して苗を植えたりし、この雪深い土地でもワインの製造ができることを知った。アイディアは重要であることがわかった。



2 インターンシップの実施

昨年度と同様に本事業と「進路希望達成・学力向上対策事業」と連携させ、平成28年10月12～16日に地元企業でのインターンシップを行った。

インターンシップに参加する生徒は年々増加し、今年度は2年生全員131人（内2名は体調不良で学校残留）を対象に64事業所の協力を得て実施した。

参加した生徒の多くは、「挨拶・言葉使いの大切さ」や「働くことの厳しさ」を学ぶことができたという感想を持つとともに、地域企業の魅力を実際に体験することができた。以下に生徒の主な感想を示す。

【生徒の主な感想】

- ・ 職場の人とのコミュニケーションの大切さを知ることができた。
- ・ 技能も大切だが、マナーなどの基本的なことが大切であることがわかった。

【体験先企業様 敬称略】

NASPAニューオータニ、上越観光開発、ホテル坂戸状、SEP INTERNATIONAL、越路荘、ホテル木の芽坂、越後のお宿いなもと、わかば保育園、上町保育園、金城幼稚園保育園、むいかまちこども園、野の百合保育園、Aコープしおざわ、しまむら塩沢店、しまむらアベイル塩沢店、のぐちハーツ店、キューピット大和、原信小出東店、原信塩沢店、原信六日町店、イオン六日町店、越後うまいもの市場、田口ボーリング、トピアホーム、伊米ケ崎建設、文明屋、森下組、島田組、桐生工業、井口建設工業、墓橋建設、羽吹組、種村建設、カネカ建設、元店建設、いさはい組、ニューロング精密工業、hakkai、万栄産業、新潟プレシジョン、ミツバ新潟工場、シンコー、ニコ精密機器、笠原成形所、日東工業、日本電産コパル、白瀧酒造、ホリカフーズ、雪国まいたけ、高木屋、サトウ産業、南魚沼市役所、湯沢町観光協会、ニットク、小林自動車工業、大和自動車整備工場、関電気、小島電設、魚沼みなみ農協、塩沢信用組合、雪国ボラントピアマイトラ、みなみ園、高速紙工業



3 地域企業と連携した取組

① 除雪体験（機械システム科土木選択3年）

南魚沼地域振興局様と建設業協会六日町支部様の協力を得て、本校の駐車場に除雪関係車両5台を配置いただき、地元の建設業の企業の指導を受けながら車両を操作した。オペレータの技術を学ぶとともに、本地域における除雪の重要について学ぶことができた。

以下に生徒の主な感想を示す。

【生徒の主な感想】

- ・ 土木関係の仕事に就いている父から、除雪の大切さと厳しさを聞いていたので、除雪車を動かしてみたかった。思った以上にハンドルを回さなければならないことがわかった。



② 地域企業が行っている防災活動の理解（機械システム科3年土木選択）

災害発生時における地元建設業の役割（応急復旧の担い手）を理解することで、災害時に建設業が地域の暮らしを支え、市民の安全を守る仕事であることを理解することを目的に実施した。災害発生時に最初に現場に行くのが建設業者であり、普段の地域の様子を知らなければ災害の前兆現象に気づくこともできない。地域のことを深く知り、地域を見守るという重責を担っていることを学んだ。

【生徒の主な感想】

- ・ 建設業の方たちは地元からの信頼がある。だからこそ住民は安心して避難ができるのだと思う。



③ 橋梁点検活動をととした現場体験（機械システム科3年土木選択）

北陸地方整備局長岡国道事務所と連携して、南魚沼市の小黒橋と湯沢町の湯沢跨水橋にて、点検実習を行った。まずは、事務所の保全対策官から橋梁点検の意義について説明を受けたのち、実際にハンマーを用いた打音調査で損傷状況を確認した。その後、ワークショップ形式で点検結果を取りまとめ、橋梁の劣化の原因や対策について学習した。

【生徒の主な感想】

- ・ 今回の橋梁点検では、コンクリートをハンマーで叩いた音を確認し、破損部分は音に違いがあることが分かった。今後、老朽化が進み、橋梁を修復する技術や点検する技術が必要になるので、大学ではコンクリートに関する勉強をして、地域の役に立てる人になりたいと思った。



④ 「棚田草刈りアート」への参加（機械システム3年課題研究）

南魚沼市栃窪地区は、標高500m前後に位置する集落で、毎年棚田に生える草を刈り、言葉や絵を浮かび上がらせる「草刈りアート」が行われている。

今年度、3年生の課題研究の中で地域連携の取組として実施した。「草刈りアート」に採用した言葉は「商工」で、測量の技術を用いて草刈りをするポイントを定めた。

【生徒の主な感想】

- ・ 測量の際に草を踏み荒らしてしまい、草が生えてくるのが遅くなってしまった。
- ・ 近くから見ると何が書いてあるかわかりませんが、遠くから見るとすごく綺麗に文字が浮き上がって見えてびっくりしました。



⑤ 「牧之通り」の店舗と連携したスタンプラリー（商業科3年生課題研究）

「牧之通り」は、観光地として高く評価されているが、観光客はウインドウショッピングするだけで店舗での購入は極めて少なく、地元を対象に経済活動を成立させているのが現状である。

スタンプラリーを企画・実施することで、観光客は各店舗内に入る（各店舗内にある商品を見ることができるとともに、スタンプラリーの景品に塩沢の特産を用いることで、地域の活性化につなげる。

【生徒の主な感想】

- ・ 今回の活動をとおして、改めて商業の授業の大切さに気づきました。
- ・ 何事に対しても楽しく、わくわくして取り組むことが大切だと思いました。



⑥ 地域企業と連携した商品開発（商業科2年生流通コース）

商業科目「商品開発」の授業の中で、地域の特産品を用いて商品を企画し、地域企業と連携して販売した。

4月から地元の特産品を調査し、9月に地域の菓子店に企画書を提出した。その後、打合せや試食を繰り返し行い、本校の文化祭で販売した。開発した商品は、パンプキンケーキ、サツマイモタルト、ドーナツ、マドレーヌの4種類で、いずれも魚沼産コシヒカリ100%の米粉を利用している。商品を開発するとともに、包装やシールについても自ら考案した。

【生徒の主な感想】

- ・ 地元の米粉を利用し、お菓子を開発したことで米粉の使い道が増えたと思う。地元の特産品を紹介していきたい。
- ・ 特産物の長を生かして、新しいものを作り、それを販売するという難しさや苦労がわかった。



⑦ 地域企業と連携した商品開発及び販売実習（2年生流通コース）

新発田市役所のコミュニティスペースを利用したイベント（デリシャスパーク）において、本校商業科流通コース2年生が「商品開発」で地域企業と連携して開発したお菓子を販売した。魚沼産コシヒカリ100%の米粉を使用したシフォンケーキ3種類を地元のお菓子屋さんと連携して製造・販売するとともに、地元の特産物「かぐら南蛮」を用いたソースを委託販売した。生徒は、出店スペースの飾りや商品の陳列方法を考え、接客や商品などの説明を行い、販売活動に取り組んだ。来年度に計画している地元イベントの参加して販売実習を行うにあたり、良い経験ができた。



4 研修会

平成28年11月5～6日に全国産業教育フェア石川大会が開催され、企画立案から販売まで一連の活動を行っている全国高校デパートについて研修を行った。

石川県立金沢商業高等学校が取り組んでいる「金商デパート」の組織・規模・運営に最も驚かされた。各クラスがテナントを必ず2つ任せられ、生徒も2日間のうち、クラスのテナントの仕事とデパート自体の運営係を1日ずつ担当するように考えられていた。県立金沢商業高等学校は、金商デパートが文化祭の代わりとなっており、金商デパートをやりたいが故に金沢商業に入学した生徒も少なくないとのことである。

授業等で特別な指導はしていないと聞いたが、生徒全員が自主的に動き、接客の対応は非常によくできており感心した。県立金沢商業高等学校の職員も商業科を中心にして、全職員が何かしらの仕事を担当しているとのこと、組織的に取り組まれていた。

本校において、これほどの規模のイベントを行うのは難しいと思うが、来年度以降、校外での販売実習に少しでも活かしていきたいと考えている。



5 各種講演会

① 雪の有効利用に関する講演(機械システム科1年生)

公益財団法人雪だるま財団の伊藤様より、雪の有効活用についての講演をいただいた。

地球温暖化の主な原因に温室効果ガスがあげられ、エネルギーの利用削減が求められている。食料の冷蔵保存(運搬時も含む)に用いられるエネルギーは全使用エネルギーの約20%であり、雪を活用した冷蔵保存は有効な手段である。雪の有効利用は日本の特別豪雪地帯と呼ばれる地域(日本海側の地域)でしかできず、雪室を利用した食品の冷蔵保存は、お米やコーヒー等の商品開発にも活用されていることをお聞きし、雪の有効利用について考える機会となった。



② 雪の有効利用に関する講演(機械システム科2年生)

長岡技術科学大学の上村教授より、冷熱エネルギーの利用についての講演をいただいた。

冷熱エネルギーの利用で大切なのは、費用対効果であり、米の貯蔵施設やきのこ栽培温室等を例に挙げて、ビジネスとして成功させるための考え方や新エネルギーについて講義いただくとともに、お菓子メーカーが魚沼市に雪室の倉庫を建設する等の話を聞いた。

学校の授業だけでは学習することのできない内容についてのお話しをお聞きし、地域の課題や特徴を理解するとともに、地域の魅力や利雪の可能性について理解することができた。



③ 地元の産業・特産物に関する講演(商業科1年生)

南魚沼地域復興支援センターの小林様より、地域の観光資源や地元の商業活動の特徴についての講演をいただいた。

南魚沼の地域における観光資源には、「スキー場」や「温泉」、これらに伴う宿泊施設などが上げられる。また、「コシヒカリ」等の代表的な農産物、お酒、塩沢紬、牧之通り等といった特産物や観光資源などについても説明を受けた。講演を通じて、南魚沼地域の観光資源や地元の商業活動について理解を一層深めるとともに、その特徴について再発見することができた。地元の観光資源や特産物を高校生の視点でPRし、情報発信していく手法について考えていきたい。



④ 地域企業によるビジネスマナー研修(商業科1年生)

南魚沼地域は、「スキー場」や「宿泊施設」「温泉施設」等が大きな観光資源であり、お客様に対する「接客マナー」や「ビジネスマナー」を身につけることは極めて大切なことである。

南魚沼地域復興支援センターの小林様、上越グリーンプラザホテルフロント主任である井上様より、「ビジネスマナー講習」を実施していただいた。冬本番を迎えたホテルのフロント主任からの指導は、「ホテルで勤務されて感じた社会人としての自覚」についてもお話しいただき、生徒は緊張感をもって対応していた。

このビジネスマナー研修は、接客のほかに販売活動においても必要であるとともに、社会人としてどのように生きていくかを考えるきっかけとなり、生徒にとって貴重な体験となった。



⑤ 企画立案に関する講義Ⅰ（商業科２年生）

新潟経営大学の伊部教授より、「マネジメントサイクル」や「企画・立案づくりの重要性」についてお話いただくとともに、新潟経営大学で実践している「加茂ヒマワリスプロジェクト」についても紹介していただいた。

また、「新潟の食材を使った新たなせんべいを考える」とテーマとし、SWOT分析の手法について実践することができた。今回の講義をとおして、商品の企画・立案を行ううえで、SWOT分析が有効な手法であることがわかった。



⑥ 企画立案に関する講義Ⅱ（商業科２年生）

フォーラム情報アカデミー専門学校の淡島学生課主任から、コミュニケーションスキルの向上を目的に実施した。

人の価値観は一人一人であり、価値観の違いは決して悪いことではない。良い商品が売れるのではなく、相手にとって必要な商品が売れるのであり、必要な商品を如何に探し出すか、あるいは如何に相手をHAPPYにできるか、これがビジネスに必要である。常に相手が何を考えているのか、何をすれば、話せば喜んでいただけるのか、これらを考えることで商品を買っていただけるのであり、コミュニケーションが極めて重要であることがわかった。



⑦ 企画立案に関する講義Ⅲ（商業科２年生）

(株)エフエム雪国の田村様、佐藤様より、同社が発行しているフリーペーパーの制作についてお話をいただいた。

フリーペーパーは年４回発行（１回に21,000部）しており、それぞれテーマを定めて作成している。作成するために費用が必要となるが、スポンサーとの日頃からの付き合いが大切である。営業で気をつけていることは、フリーペーパーのメリットを伝えるとともに、スケジュールを踏まえた活動を行っている。

子供の目線や大人の目線を意識して、多くの人から見ていただけるよう工夫しているお話を聞き、情報発信するための手法について学習することができた。



(様式1)

十 総 第 2 8 0 号

平成29年3月3日

高等学校教育課長 様

学番 5 9 県立十日町総合高等学校長

オンリーワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

十日町総合高校	
【テーマ】	希望を胸に未来へ羽ばたけ十総生 ～地元企業での就業体験をとおして地域を支える人材を育成～
【目標】	生徒一人一人が未来への夢を描き、高校卒業後の適切な進路目標を設定し、進路の実現に向けて必要となる主体的に学習する意欲と基礎学力の向上を図るとともに、それぞれの適性・能力に応じた適切な職業観を育成することを目指す。
【取組の概要】	<ol style="list-style-type: none">1 地域キャリア教育支援協議会2 企業見学と上級学校見学3 インターンシップの実施4 本校教員による県外先進校の視察5 外部講師による企業研究6 地域イベントへの参画
【取組の成果】	<ol style="list-style-type: none">1 地域キャリア教育支援協議会の開催をとおして、家庭、地域、産業界が一体となったインターンシップ等の取組を推進する環境が整ってきた。特に、本校が取り組むキャリア教育について理解してもらうことにより、実際のインターンシップや企業見学等の実施に向けた連携協力体制の強化を図ることができた。2 地元企業の見学や講演など、企業研究を重ねることにより、地元の産業の状況について理解を深めることができ、卒業後の進路について考えるきっかけとなった。3 他県の総合学科設置校やコミュニティスクール導入校の視察をとおして、地域と連携した様々な取組の成果や課題について理解を深めることができた。この成果を、本事業の3年目の取組に活かしていきたい。4 部活動や生徒会活動の一環として地域イベントに参画することは、幅広い年代の方とのコミュニケーションを図る機会となった。この取組をとおして、地域活性化や地域に貢献しようとする意識を高めることができた。

1 地域キャリア教育支援協議会

(1) 目的（平成27年度に設置）

本校において、インターンシップ実施等体験型の地域キャリア教育推進を図る上で、学校関係者はもとより、家庭、地域、産業界が一体となって積極的な取組が行えるよう、地域キャリア教育支援協議会（以下「支援協議会」という）を設置する。

(2) 支援協議会の開催（平成27年度は7月と2月に開催）

ア 第1回十総地域キャリア教育支援協議会

- (ア) 期 日 平成28年5月17日（火）
 (イ) 会 場 本校 会議室
 (ウ) 出 席 者 キャリア教育支援協議会委員
 （産業関係者、関係行政機関関係者、PTA関係者）
 (エ) 協議内容
- ・本年度事業内容・計画の概要
 - ・インターンシップ実施計画
 - ・地域と連携した取組
 - ・地域産業、企業との有機的な連携方策について（意見交換）

イ 第2回十総地域キャリア教育支援協議会

- (ア) 期 日 平成28年12月5日（月）
 (イ) 会 場 クロステン（一般財団法人十日町地域地場産業振興センター）
 (ウ) 出 席 者 キャリア教育支援協議会委員、インターンシップ受入事業者、学校評議員、
 学校関係者（中学校、高校）、保護者
 (エ) 協議内容
- ・インターンシップ報告会について
 - ・インターンシップ受入企業について
 - ・次年度計画について
 - ・学校教育活動全般について

(3) 出席者からの意見等

- ・インターンシップに参加した生徒と同年代の子どもを持つ従業員がおり、参加した生徒たちだけでなく、企業側にとってもよい刺激になった。また、高校生の皆さんには、地元になどどのような企業があるのか、学んでもらいたい。
- ・本年度から2年次の生徒全員がインターンシップを行うようになり、報告会も昨年度から内容や規模等、スケールアップし、たいへん素晴らしい取組となっている。
- ・生徒たちは、インターンシップの取組により、働くことの厳しさを学び、大きく成長している。
- ・インターンシップの受入先の仕事内容が、必ずしも将来の仕事に直接、結びつかなくても、これからのことを考えるきっかけとなっている。
- ・高校を卒業した生徒たちが、将来、地元に着定してもらえるようにするための取組を検討していきたい。

2 企業見学と上級学校見学

(1) 地元企業見学（少人数グループ別）

ア 目的

地元企業について理解を深めるため、実際の作業現場の見学や企業活動の説明を聞き、将来の進路選択や2年次に行うインターンシップの企業選択の参考とする。

イ 参加者

1年次 180人

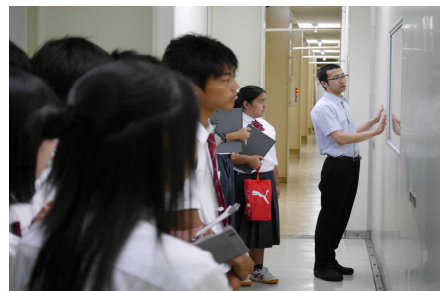
ウ 実施期日、見学先・参加者数及び見学内容等

見学先	期 日	7月26日(火)	7月27日(水)	7月28日(木)	見学内容等
福田道路(株) 新潟本店			36		八箇トンネル工事現場
(株)根茂レース		12	12	12	レース製品製造工場
(株)山崎食品		12	12	12	マグロ加工及び卸業
吉澤織物(株)		18	18		きもの・振袖織物加工
(有)安全野菜新潟工場		12	12	12	サンチュ光栽培工場
合 計		54	90	36	180

エ 成果と課題

- ・少人数グループ単位で訪問することにより、普段、目にすることができない施設設備や実際の作業現場を見学することができた。また、担当者からの詳しい説明により、地元企業の技術力の高さを直に感じるすることができた。

- ・地元企業の理解を深めるためにも、1人、地元企業1社だけでなく、複数の異なる職種の企業を見学する機会を設ける必要がある。また、事前学習に時間をかけ、生徒の意識を高めていく必要がある。



(2) 上級学校見学と企業見学（クラス別）

ア 期日

平成28年 7月29日（金）

イ 参加者

1年次 180人

ウ 見学先の上級学校・企業及び見学内容等

上級学校／企業	見学内容等
長岡大学 (株)北越銀行	大学カリキュラムの説明及び校舎・設備見学 金融業の概要説明、業務内容及び行内見学
上越教育大学 新潟太陽誘電(株)	大学カリキュラムの説明及び校舎・設備見学 シリコンウエハ及び電子部品等の説明及び工場設備見学
新潟工科大学 原酒造(株)	大学カリキュラムの説明及び校舎・設備見学 日本酒製造過程の説明及び製造設備・生産品見学
北里大学保健衛生専門学院 高速紙工業(株)	学校カリキュラム・資格等の説明及び校舎・設備見学 マークシート用紙・ロール紙・テキスト等製造概要及び工場見学
長岡こども福祉カレッジ 越後製菓(株) 片貝工場	学校カリキュラム・資格等の説明及び校舎・設備見学 米菓製造ラインの見学

エ 成果と課題

- ・参加した生徒たちは、企業では企業活動内容と施設設備、上級学校では学習内容と環境設備、それぞれ直接見聞きし、しっかり記録を取っていて真剣に臨んでいた。
- ・「産業社会と人間」の時間を使い、事前学習をして臨んだが、質問がほとんど出なかったので、次の機会には事前学習をより一層深めていく必要がある。



3 インターンシップの実施

(1) 目的

将来の希望職業に関連する活動を体験し、社会、職業への移行準備を行う。

(2) 参加者

2年次 154人

(3) 受入事業所

70事業所

(4) 具体的な取組

期 日	具体的な取組
平成27年 12月16日(水)～24日(木)	【1次希望調査】 5項目による希望調査 「進路希望(就職・進学)」 「希望職種(介護、福祉、理美容関係、接客、販売等)」 「体験した職場(中学校等)」 「将来の希望職業・興味のある分野」 「通勤可能地域(十日町、津南、南魚沼、小千谷、上越等)」
平成28年 1月～4月中旬	【受入事業所(企業)の開拓】 受入事業所(企業) (108事業所) 1月～2月中旬 83の事業所から受入受諾 3月下旬～4月中旬 25の事業所から受入受諾
平成28年 3月～4月 (年度末・年度始休業期間)	【事前研究】 事前研究レポートの作成 受入事業所(108事業所)から、3つの事業所(企業)を選択 ・興味・関心を持った職種から2つの事業所(企業)を選択 ・それぞれの職種から1つの事業所(企業)を選択 選択した3つの事業所(企業)について、ホームページ等による事前研究・レポート作成
平成28年 4月14日(木)～22日(金)	【2次希望調査】 受入事業所(108事業所)から3社を選択
平成28年 6月上旬	【実際の受入事業所の決定】 2段階による調整 ・各事業所の受入可能人数による調整 (1次希望調査、2次希望調査、事前研究レポート) ・面談による調整 (自動車関連、接客・販売、理美容関係)
平成28年 6月中旬～7月上旬	【受入事業所への正式な依頼・委嘱状送付】 【事前訪問日等の決定】 事前訪問のための受入事業所への連絡・調整 (代表生徒に対する電話連絡・応対)
平成28年 7月中旬～8月上旬	【就業体験先への事前訪問】 生徒自らが本校教員と受入事業所を訪問し、当日の日程や学習内容等について担当者と打合せ
平成28年 7月27日(水)	【事前指導】 専門業者による指導 (マナー、挨拶の仕方、礼状の書き方、日誌の提出等)
平成28年 8月1日(月)～5日(金) 8月8日(月)～12日(金)	【各事業所(企業)における「インターンシップ」】
平成28年 8月中旬～下旬	【各事業所(企業)への礼状送付】
平成28年 8月24日(水)	【事後指導】 インターンシップのまとめとして、アンケートやレポートの作成と提出
平成28年 9月上旬～下旬	【アンケート・生徒の個人評価票の集計】 【インターンシップ報告集の編集】
平成28年 10月中旬～11月下旬	【インターンシップ報告会の準備】 代表生徒の決定、プレゼン指導、資料の作成、事業所・関係機関への開催案内の送付
平成28年 12月5日(月)	【インターンシップ報告会】 会 場：クロスステン(一般財団法人十日町地域地場産業振興センター) 発表者：6人(代表)

(3) 成果と課題(アンケート結果から)

- ・約84%の生徒が「働くことの厳しさ」や「やりがい」を学び、また、90%以上の生徒が、「自分の進路を考える上で、とてもためになった」と回答している。
- ・興味関心がある受入先を選択し、事前研究や受入企業への連絡まで行うことにより、生徒に、自らの適性を考えさせ、積極的な態度を身に付けさせることができた。
- ・受入先の95%の事業所から「満足した」との回答があり、特に、生徒の取り組む姿勢が高く評価された。

- ・インターンシップ報告会では、発表者6人が体験から学んだことや反省点などをわかりやすく説明していた。1年次生は次年度の活動にイメージを膨らませながら、2年次生は各自の体験を振り返りながら、発表を真剣に聞いていた。
- ・事前確認していたことについて、守られていなかった生徒がいた。



4 本校教員による県外先進校の視察

(1) 総合学科設置校の視察

ア 視察校（期日）

- (ア) 大分県立日出総合高等学校（1月23日（月））
- (イ) 大分県立佐伯豊南高等学校（1月24日（火））
- (ウ) 大分県立日田三隈高等学校（1月25日（水））

イ 期日

平成29年1月23日（月）～25日（水）

ウ 視察者

教諭 1人

エ 視察内容

- ・「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」の取組について
- ・地域と連携した教育活動等について
- ・特色ある学校づくりについて
- ・進路指導、生徒指導で工夫していることについて



(2) コミュニティスクール導入校の視察

ア 視察校（期日）

- (ア) 千葉県立多古高等学校（2月1日（水））
- (イ) 千葉県立長狭高等学校（2月2日（木））

イ 期日

平成29年2月1日（水）～2日（木）

ウ 視察者

教諭 1人

エ 視察内容

- ・コミュニティスクール導入をとおして、推進してきた地域と連携した学校づくりについて
- ・地域の人材を活用した取組や体験活動
- ・世代間交流をとおした学校づくり



(3) 成果と課題（所見等）

総合学科設置校の視察

- ・1年次の段階からインターンシップに準ずる体験を実施。入学後のマナー指導や礼法指導は大変であるが、就職試験等につながることを踏まえ、早いうちに行うことが大切である。
- ・「人と人のつながり」をキーワードとして、地域に根ざした取組を行っている。「地域の活性化」を言葉通り実行しており、よい循環を生んでいる。

コミュニティスクール導入校の視察

- ・地域との様々な活動をとおして、自分に自信を持てるようになり、また、異世代との交流をとおして、コミュニケーション能力が身に付き始めている。
- ・地域から、「学校を見守る」という気持ちを持たれるようになり、以前に比べ学校の雰囲気も落ち着いてきている。
- ・コミュニティスクールの指定を受けていることから、地域に期待されている存在であることを意識させ、異年齢の人とのコミュニケーションをとることができる環境を整えている。
- ・地域からの理解が深まってきたことから、地域から注目度が増してきており、学校に対する厳しい意見も増えている。
- ・外部の人が来校するようになり、地域から開かれた学校というイメージが定着してきている。

5 外部講師による企業研究

(1) 目的

企業関係者から、企業の現状や具体的な職務内容等について講演してもらい、将来の進路選択や2年次に行うインターンシップの企業選択の参考とする。

(2) 期日・対象

平成29年3月16日（木） 1年次 180人

(3) 講師

ア かなやんファーム代表 佐藤 可奈子 様
イ 一般社団法人 新潟県建設業協会十日町支部 鈴木 孝作 様
ウ 北越急行(株) 営業企画課長 桑原 信之 様

6 地域イベントへの参画

(1) 高校生まちなかプロジェクト

ア 目的

十日町市内の高等学校に通う生徒が企画立案するイベントを行うことにより、まちなかに人の流れをつくる。また、イベントを行うことにより、高校生が十日町に関心を持ち、地元愛を生成する場とする。

イ 内容

高校生まちなか文化祭実行委員会を組織し、イベント「青春フェスタ2016」の企画立案。

ウ 実施期日・取組

平成28年8月7日（日）（「青春フェスタ2016」）

エ 参加生徒

3人（生徒会役員）

オ 「青春フェスタ2016」の内容

飲食屋台、ゲーム屋台、ライブパフォーマンス、お化け屋敷



(2) 人を呼ぶきものプロジェクト

ア 目的

十日町地域振興局では、地域の伝統産業で、世界に誇るべき技術と魅力をもつ「きもの」を活かして、交流人口の増加を図り、産地の活性化に結びつける「人を呼ぶきものプロジェクト」に取り組んでいる。この一環として、このたび4年ぶりに運行される「飯山線SL運行」に合わせ、新潟県立十日町総合高校生が、着物姿で十日町駅での乗降客をお出迎え・お見送りし、十日町の「きもの」をアピールする。

イ 内容

「十日町きもの女王」などと一緒にお出迎え・お見送りやPRチラシの配布などを行う。

ウ 期日

平成28年11月19日（土）、20日（日）

エ 参加生徒

22人



(様式1)

柏工 第221号

平成29年2月23日

高等学校教育課長 様

学番 65 県立柏崎工業高等学校長

オンリーワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

柏崎工業高校

【テーマ】 地域と連携してキャリア教育と防災教育を推進し、地域に貢献できるエンジニアを育成する
～工業高校の特性を活かしたキャリア教育と防災・減災教育の推進～

【目標】

- ・高校生インターンシップ等推進地域協議会を中心に、地域の企業と連携し、インターンシップ、デュアルシステムを実施し、キャリア教育の充実発展を図る。
- ・各種ボランティア活動を実施し、地域に貢献する意識を育てる。
- ・地域と連携し、インターンシップ等を活用し、技術を修得し、防災、減災につながる製品を製作し、知的財産（実用新案、特許、意匠、商標等）の学習をとおり、実用新案の申請を試みる。
- ・地域の関係機関と連携し、工業の専門知識・技術を修得し、各種資格取得を図り、希望進路の実現につなげる。（卒業までに、専門の資格取得をする）

【取組の概要】

- ・インターンシップ・デュアルシステムの実施
- ・インターンシップ等推進地域協議会の運営
- ・学校での企業説明会（保護者・生徒対象）の実施
- ・柏崎市の総合防災訓練への協力と参加
- ・保育園、福祉施設への訪問ボランティア
- ・地域と連携し、実用新案、特許等の申請を目指す
- ・地域と連携した起業家教育を推進し、模擬株式会社での生徒研究の実施

【取組の成果】

- ・取組をとおり、地震や風水害などの自然災害から自らの生命を守るのに必要な能力や態度を身に付けさせるとともに、助け合いやボランティア精神など「共生」の心を育むことができる。
- ・地域と学校が連携した活動を実施することにより、一人一人が安全で安心なまちづくりに参画する防災マインドを醸成することができる。
- ・生徒の自主性を引き出し、キャリアアップに取組むことで就職や進路選択へつながることが期待される。

【平成 28 年度の取組】

1 震災地交流

- (1) 見学先 首都圏外郭放水路（国土交通省江戸川河川事務所）
東京臨海防災公園（そなエリア・国営公園 6.7ha 都立公園 6.5ha）
- (2) 実施日 平成 28 年 12 月 2 日（金）～3 日（土）
- (3) 担 当 電気科 教諭 中村 智幸・小池 弘
- (4) 概 要

ア 首都圏外郭放水路

首都圏外郭放水路は、あふれそうになった中小河川の水を地下に取り込み、地下50メートルを貫く総延長6.3キロメートルのトンネルを通して江戸川に流す、世界最大級の地下放水路である。日本が世界に誇る最先端の土木技術を結集し、平成18年6月に完成した。主要設備として大きく3つの機能で構成されている。地上溢れた水を地下に取り込む機能、水を地下空間に溜めておく機能、そして貯まった水を吐き出す機能である。



写1 ポンプとポンプを動かす
ジェットエンジンの模型



写2 「地下神殿」と呼ばれる
巨大な調圧水槽



写3 操作室

イ 東京臨海広域防災公園

東京臨海広域防災公園は国の災害応急対策の拠点として整備された6.7haの国営公園、6.5haの都立公園の計13.2haの広域防災公園で、首都直下地震等の大規模な災害発生時に、現地における被災情報のとりまとめや災害応急対策の調整を行う「災害現地対策本部」等が置かれる首都圏広域防災のヘッドクォーター及び広域支援部隊等のベースキャンプ、災害医療の支援基地として、東扇島地区（川崎市）の物流コントロールセンターと一体的に機能する防災拠点施設です。ヘリポートや病院なども整備されている。また公園内のベンチは、かまどやトイレに変身するものが配置されている。



写4 トイレになるベンチ



写5 地震発生直後の市街地



写6 防災グッズ

(5) 成果と感想

今回の見学会では、防災・減災や生き抜く力について深く考え、行動していくための知識を得る良い機会になりました。是非、生徒に見学をさせて新たな防災減災教育を発展させていきたいと考えます。今後も全国さまざまな防災に関する施設設備を見学・学習し地元にかけるよう取り組んでいきたいと思います。

【研究の成果】

< I 転倒しにくい清掃用具掛けの製作 >

1 研究目的

通常使用されている清掃用具ロッカーは、地震が発生した場合に転倒して避難経路を塞いだり、避難の妨げになったりすることが予想される。また、通常使用されている清掃用具ロッカーは転倒した場合、一人で立てることが大変である。これらの問題を改善して、震災に備えた清掃用具置場を製作することを目的とする。

2 研究開発の経緯

(1) 1年次（平成27年度）

通常使用されている清掃用具ロッカーを改良して対応するか、新しく清掃用具置場を設計して製作するかの方針を決めるために検証及び試作を行う。

(2) 2年次（平成28年度）

昨年度の検証を踏まえて、新しく清掃用具置場を設計して製作することに決めた。今年度は試作品を基にして、各部品の寸法や製作方法を検討して、実際の製作にとりかかる。

3 研究内容（平成28年度の取り組み）

(1) 各部品の寸法の検討及び決定

ア ベースの長さ

ベースの長さは長いほど転倒しにくくなるが、廊下に突き出て通路を狭くしてしまう。そこで現状の状態から設置されているロッカーよりも突き出ないようにすることとして、寸法を決めることにした。現状は写2のとおり、ロッカーの出っ張りは350mmなので、ベースの寸法を350mmに決定した。

イ 背板の寸法

背板に使用する鉄板の幅が910mmなので、それを半分にするとうちょうど良い大きさなので、背板の高さは半分の455mmにした。

(2) 製作方法の検討及び決定

ア パイプの曲げ方

パイプを曲げる機械がないので、パイプは工具を使用して、手で曲げることにした。(写3)

イ パイプの接合方法

パイプは平行に接合することが難しいので、パイプを平行にする部品を作り、それを接合部にはめてから溶接して、できるだけ平行に接合するようにした。(写4、写5)



写1 製作することにした清掃用具掛け



写2 ロッカーの出っ張り



写3 パイプ曲げ



写4 パイプを平行にする部品



写5 パイプを平行にする部品をはめた状態

4 まとめ

転倒に対して検証ができなかったが、明らかに重心が後方下側にあり、転倒しにくいことは確認できた。また、全体の重量も15kg位で、仮に転倒した場合でも一人で起こせることも確認できた。研究目的にあげた問題の改善については、十分な状況であるが、やはり地震に対する耐震性を確認したいと考える。

<Ⅱ 動物型ロボットの製作>

1 研究目的

リンク機構を用いた複雑な動きをする動物型ロボットの開発を通じて、機械加工・機械組立を学ぶ。完成したロボットを小学生、中学生から組み立ててもらいものづくりの楽しさを感じてもらおう。
今回、平成27年度工業教育フェスタのワークショップに続く「やどかりロボットの組み立て」を行いたいと考え、50体为目标に部品を作っていた。この取り組みから柏崎工業高校の活動を地域に伝えていくことや、小学生・中学生からものづくりの楽しさを知ってもらうことを目的とする。



写1 工業教育フェスタのワークショップの様子

2 研究内容（平成28年度の取り組み）

(1) やどかりロボットの製作手順は次の通りである。

- ① 部品図を描いた後、アルミ板から部品を1つ1つコンターマシンや金鋸で削りだしていく。
- ② アルミ板をハイトゲージでけがき、ポンチで打ちボール盤で穴あけをする。
- ③ ギアボックスを組み立て、はんだを使い配線する。
- ④ やどかりの貝殻をつくる。ボール紙を切り取りカラーズプレーで塗装する。
- ⑤ しっかり動くようにドライバーやレンチを使い慎重に組み立てる。



写2 シャーによるアルミ板の切断作業



写3 ハイトゲージによるけがき作業



写4 ポンチ打ち作業



写5 ボール盤による穴あけ作業



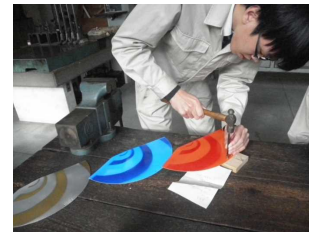
写6 はんだ付け作業



写7 ギアボックスの組立作業



写8 貝殻のスプレーによるカラーリング



写9 本体と貝殻を接合するための打ち抜き作業



写10 製作したアルミ部品の数



写11 やどかりロボットの組立作業



写12 完成したやどかりロボット



写13 様々なやどかりロボット

3 まとめ

動物型ロボットの開発を通じて、機械加工・機械組立を学ぶということに関しては目的を達せられたと感じる。部品をたくさん作り、ワークショップの準備が進んだ。次年度は実際にワークショップを開くまでには至れるよう継続して取り組みを行っていこうと考えている。

<Ⅲ 災害時に役立つ小水力発電機の製作>

1 研究目的

本研究は、災害時の電力確保に貢献できる製品開発を目指し、防災エンジニアコースの課題研究として平成 25 年度より取り組まれた。平成 26 年度には、地域の大学や企業の協力により実用性のある小水力発電機（3号機）が完成し、通信機器の電力確保という当初の目的が達成され、平成 27 年度は、3号機の改良（水車羽根のサイズダウン、軽量化など）を施し性能を向上させた。

今年度は、平成 27 年度に命名された「D Wheel TypeⅣ（4号機）」の性能データを得る目的で研究を進める。また、発電により得られた電力の有効活用についても検討を行う。

2 研究内容（H28 年度の取り組み）

(1) 防犯灯設置による実証実験の計画

これまで製作してきた小水力発電機（3号機、D Wheel TypeⅣ）は、実証実験を行っているが、長時間の運転を行ったことがない。この発電機を災害時に利用するには、耐久性や発電量、ゴミ除去などの問題点を明確にする必要がある。そこで、今年度は製作ではなく、性能試験に重点を置いて研究することにした。



写 1 D Wheel TypeⅣ

(2) 充電・点灯回路の製作

製作にともない新潟工科大学の佐藤栄一教授からご協力をいただき、充電・点灯回路の製作を行った。発電から充電までの流れは、写 2 のとおりである。水車の軸に 2.4W の自転車用ハブダイナモが 2 台取り付けられており、交流の電気を発生する。バッテリーの充電には直流が必要となるため整流回路により変換し、充電できる電圧にするため DC-DC コンバータ回路を通す。充電された電気は、タイマーにより午後 7 時～10 時の 3 時間、自動点灯させて消費されるという仕組みになっている。



写 2 充電までの流れ



①回路の概要説明



②自動点灯の実験



③データロガ



写 4 現地調査 (水位の計測)

写 3 充電・点灯回路の様子

(3) 現地調査

防犯灯の設置場所を決定するため、回路の製作と同時進行に現地調査を行った。野田地区の方に協力をいただき、おもに水路の水況調査と電柱の設置場所の確認を行った。2カ所の候補で流量、流速の調査を行い、斜面があり流速が速い箇所に設置を決定した。

(4) 防犯灯設置作業

平成 28 年 7 月 28 日に設置作業を行った。電柱の穴掘りからはじまり、防犯灯の結線、充電回路の据え付け、水車の設置など一日を費やした。

3 まとめ

本実験で次のことが D Wheel TypeⅣの成果として得られた。① 2 週間程度の運転が可能である。② スマートフォンや携帯電話など通信機器の充電や防犯灯への電力供給が可能である。③ 設置の工夫や定期的なメンテナンス (バッテリーの充電を含む) を行うことにより、日常的な運転も可能である。

<Ⅳ バイオマスの研究 ～ミドリムシの大量培養～>

1 研究目的

最近、ミドリムシの有用成分が豊富な栄養素を含むため、健康食品やバイオ燃料になるバイオマス(生物資源)としてたいへん注目されている。ミドリムシ懸濁液(国立環境研究所分譲株:ユーグレナグラシリス Nies-48)から段階的に培養液を増量する方法により、室内に設置したこども用ビニールプール中でミドリムシの大量培養を行った。バイオマス資源であるミドリムシの培養をとおして、環境・エネルギー問題に関する学習意欲を高める。

2 研究開発の経緯

(1) 2年次(平成28年度)

4月～7月 準備期間

- ① 微生物実験の基本(微生物の取扱い方、光学顕微鏡・オートクレーブの使用法)
- ② 試薬の基本(性質・危険性・取扱い方法(化学安全教育))
- ③ 培養液の調製(秤量、溶解、希釈、滅菌)
- ④ 微生物の植付け(微生物懸濁液を培養液へ)
- ⑤ 試験管・フラスコサイズでの培養実験

9月～12月 こどもプールでの大量培養と回収

12月～1月 研究のまとめ 校内課題研究発表会

3月 新潟薬科大学応用生命科学部高等学校理科系部活動支援事業「報告・交流会」発表

3 研究内容(H28年度の取り組み)

(1) 準備期間

ミドリムシ懸濁液(HUT培地(ユーグレナ濃度不明))5mLをHUT培地200mL(フラスコ内)に加え、実験室内にて培養させ、光学顕微鏡による観察を行った。基本的なオートクレーブ、光学顕微鏡の使用法など学習し、微生物実験を行った。

(2) こどもプールでの大量培養と回収

培養液は、必要な試薬量を加えた2L溶液をオートクレーブ滅菌した後、寒天と48Lの蒸留水を加え、調理鍋で煮沸して使用した。こどもプール(直径115cm、高さ25cm、塩ビ製)に調整した培養液を投入し、調整したミドリムシ懸濁液200mLを加え、室内に置いて培養を試みた(写1)。



写1 培養開始時のこどもプール



写2 LED光の照射



写3 LED光照射1週間後



写4 装置のレイアウト変更



写5 レイアウト変更1週間後
(培養開始2週間後)



写6 レイアウト変更3週間後
(培養開始1ヶ月後)



写7 こどもプール培養した
ミドリムシ(600倍)



写8 ミドリムシ回収前の
UFB水の投入

4 まとめ

2年目はミドリムシの培養液を50Lに増量し、より多くのミドリムシが収穫できるか試みたが、十分な収量を得ることはできなかった。2学期に培養実験を行ったが、ポリタンク内の培養と比べて思うように培養が進まず、スケールアップと大量培養の難しさを痛感した。

(様式1)

高農第 256 号

平成29年3月2日

高等学校教育課長 様

学番 70 県立高田農業高等学校長

オンリーワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

高田農業高校

【テーマ】 地域と連携した商品開発をととした6次産業化の推進

【目標】

地域と連携し、地元食材を使った食品を開発し、地域の特産物を開発する。

【取組の概要】

ア 地元の食材の学習と地域との連携

地域の特徴的な食材について学習し理解を深めるとともに、本校の卒業生をはじめとした地域の農家または食品関係の企業と連携し、上越地域の食材を使用した食品を開発し、商品化につなげる。

イ 加工・製造の専門的な知識・技術の習得

地域の食品製造の現場から講師を招いて技術指導を受け、専門的な知識を学び技術を高める。また、現場実習（インターンシップ）を実施し職業現場における実技指導を受け、技術・知識を身につける。

ウ 試作

習得した知識・技術に基づいて商品を試作する。必要に応じて関係者を招き、試作品の評価を受ける。

エ 試験的な販売

本校の「山カフェ」や地域のイベント等で試験的に販売し、評価を受ける。販売に関わる広報、用具の用意、原材料の生産等、他学科と連携を図る。

オ 商品化

試作した商品を商品化するにあたり、パッケージ等のデザインで他校との連携が図れるか検討する。

カ NPO法人「木と遊ぶ研究所」と連携し、資格取得や木工教室を運営する。

キ 地域の関係機関と連携し、体験教室等を開催する。

【取組の成果】

地元の現場の講師の技術指導により新商品の開発につながった。また、商品を創り出す苦勞も生徒は身をもって学んだ。NPO法人との連携事業である木工教室及び園芸教室では、技術・知識はもちろんのことコミュニケーション能力の大切さに気づき、今後の活動に活かしたいと考えるなど意識が高まった。

【これまでの経過】

この取組も2年目を迎えた。前年度の技術指導等の取組において「製造技術が向上した。」「ただ作るだけではなく、材料や作り方にこだわると商品が変わる」などの気づきや発見があり、また山カフェでの商品の高評価も自信となった。今年度は技術、知識の向上はもとより、地元産の食材を使用し、また、地域や他学科との連携を図り新商品の開発等を進めてきた。

前年度は現場見学、現場の講師による指導、クリスマスケーキの開発と販売を3つの柱として取組を行った。現場見学では新潟市のパン工房と県食品センターを見学し、実際の職場の雰囲気と食品開発の最前線を体感し、今後の活動についてヒントを得た。現場の講師の指導では細山様（お菓子処ほそ山）、澤田様（パティスリー・オ・ラランティ）から指導をいただき、クリスマスケーキの開発については「ブッシュ・ド・ノエル」を試作・改良し、152個販売し、購入者からも高い評価を受けた。他学科との連携では山カフェに設置する丸テーブルを森林資源コースの生徒に製作を依頼し、試験的に利用した。

【今年度の取り組み】

1 地域の講師からの指導

(1) 細山 剛 氏（御菓子処 ほそ山）を招いての講座

和菓子の基本的な製品づくりを通じて、和菓子の基本知識・技術を学び身に付けることを目的にお願いした。

第1回 4月20日(水) 蒸し饅頭の製造

蒸し饅頭製造を学んだ。前年度中に製造し冷凍しておいた餡を解凍して使い饅頭に仕上げた。蒸しには脱気箱を利用したが、蒸気量の調整が難しく苦勞した。生徒は慣れない包餡（餡子を生地で包むこと）に苦勞していた。

第2回 4月27日(水) 大福餅の製造

和菓子の素材として欠かせない「餅」を学ぶために大福の製造実習を行った。餡は前回同様前年度中に準備した求肥粉を利用しての製造を行った。

また、次回焼き饅頭で使用するフルーツ餡（イチゴジャムと一緒に炊き込んだ白餡）を製造した。

第3回 5月11日(水) 焼き饅頭の製造

前回製造したフルーツ餡を素材に焼き饅頭の製造を行った。焼き饅頭はカステラ饅頭ともいい一般的な饅頭は蒸すが、オーブンで焼成して製造した。

第4回 5月25日(水) どら焼きの製造

材料の配合、膨張剤の違いによる生地の変化を学んだ。前回準備したどら焼き用の餡子を使用し、どら焼きを作成した。

第5回 6月15日(水) みたらし団子の製造

団子の米粉の一種である上用粉（うるち米を細かく粉にひいたもの）の製造実習を行った。上新粉や餅粉、白玉粉など米から作られた粉の違いなどの説明を受けた。

第6回 6月22日(水) 水羊羹の製造

赤生餡を原料に水羊羹を製造した。寒天の使用法やゼラチンなどの凝固剤の違い、また凝固剤の濃度、水分量などについて説明を受けた。水分量によっては製造後、離水することがある



ことも学んだ。

第7回7月6日(水) 水饅頭の製造

夏にふさわしい清涼感のある和菓子ということで水饅頭の製造を行った。露草という凝固剤を使い、学校で製造したオレンジマレードを入れてさわやかな食感・味の水饅頭を製造することができた。



第8回7月20日(水) 細山氏の講座のまとめ(座学)

和菓子の基本的な知識・技術の総括をしていただいた。製造した和菓子は校内及び山カフェで販売した。

(2) 澤田俊太郎氏(パティスリー・オ・ラランティ)を招いての講座

澤田氏からは、例年12月に行っているオリジナルクリスマスケーキの開発・製造・販売に向けて総合的に指導をいただいた。

第1回9月7日(水) オリジナルケーキの企画

昨年度好評だった抹茶のケーキの改良とチョコレートケーキの2種類を開発していくことが決定された。チョコレートケーキは軽めのものとどっしりしたもの2案があったのでそれぞれ担当を決めて試作を行い、指導を受けた。



第2回9月13日(水) 澤田氏の考えるチョコレートケーキの提案

ロールケーキ(ブッシュ・ド・ノエル)の形で作っていただいた。また、生徒が試作した抹茶のケーキの評価を受け、今後の改善点について話し合った。スポンジケーキ、餡子、クリームなどの味や食感の調整法や、重ねる順番や量のバランスについて「どういうものを作りたいのか、どんな人に食べてもらいたいのか」という考えをもつことが大事であると指導を受けた。



第3回9月21日(水) チョコレートを学ぶ

チョコレートケーキを製造するにあたって素材となる製菓用チョコレートについて学んだ。澤田氏が実際に店で使っているチョコレートを試食し、一言でチョコレートといっても産地やブレンドによって味・香りなど大きく個性が異なり、材料の選択も重要であることを学んだ。



第4回10月5日(水) クリスマスケーキについて

今まで何度かの試作を受けて、澤田氏からケーキをどのような形に作り上げていくかを整理した。

第5回10月26日(水) 高農祭での山カフェにおける製造と運営について

高農祭における山カフェでは、昨年度の反省(大勢のお客様を長時間待たせた)から製品づくりの効率化や運営方法について指導をいただいた。ケーキはセット販売とし、校内向けは事前予約のみ、当日売りも指定数のチケット販売で対応することとした。

第6回11月9日(水) クリスマスケーキの試作

今回はケーキのパーツ(スポンジケーキ、クリーム、サンドするフルーツ等)を準備したうえで澤田氏の指導を受けた。

第7回11月16日(水) クリスマスケーキ試作品の評価

抹茶のケーキのデザインのデザインをどうするか、効率よく製造していくための方法について検討を行った。



第8回12月7日(水) クリスマスケーキ最終確認

澤田氏の講座は本日が最終回となり、最終の試作品を準備し評価していただいた。「完成」チョコケーキは生チョコが食感的に重くしつこい感じが気になった。そのため澤田氏から発泡させた生チョコ「ガナッシュモンテ」の使用を提案された。

2 クリスマスケーキ開発・製造・販売について

今年度は細山・澤田両氏の指導に基づいて、抹茶のケーキとチョコのホールケーキを開発し、生デコのホールケーキの改善を図った。抹茶のケーキはフルーツ餡、浮島といった和菓子の要素を取り入れたケーキを作り上げることができた。それぞれの素材を活かすための配合やバランス、重ねる順序等多くのポイントを練り上げることで多くの人に喜んでもらえるケーキに仕上げることができた。チョコレートケーキはチョコレート選びから始まり、チョコレートの産地やブレンドによって個性的な味・風味のものがあることを知った。商品として仕上げる事は難しく、適度な「軽さ」を出すことに苦労したが、「ガナッシュ・モンテ」(ホイップした生チョコ)を使うことによって商品として仕上げる事ができた。またイチゴの生デコは使用するクリーム、スポンジの配合やシロップの変更によって新調した。市民新聞やインターネットの広報により予約電話が殺到し、急遽、予約の受付を打ち切り、山カフェで数量限定で追加の予約を受け付けることにした。その結果抹茶のケーキ130個、チョコのケーキ170個、生デコレーション350個を売り上げることができ、昨年度以上の結果を出すことができた。



3 NPO法人木と遊ぶ研究所連携事業「木工教室」の実施及び資格取得

- ・第1回「お盆立て」 5月21日(土) 参加者:14名
- ・第2回「鳥の巣箱」 7月23日(土) 参加者:14名
- ・第3回「フォトフレーム」 9月24日(土) 参加者:12名
- ・第4回「スマートフォン立て」 11月19日(土) 参加者:11名



生徒は事前に作品を試作し、受講者がやりやすいように様々な工夫を考えていた。このように普段教えられる立場の生徒が逆に教える立場になることで意識も高くなり、作業の準備、指導方法等を工夫して取り組むことができた。また、意思疎通の大切さをこの教室で学んだ。受講者もそんな生徒と交流を持つことを楽しみにしているようだった。

森林資源コース2年生の「刈り払い機講習会」を8月6日、「チェーンソー講習会」を10月22、23日に実施した。コースの実習に必要不可欠な資格であり生徒は真剣に取り組んでいた。



4 体験教室等の開催（園芸教室）

1回目 10月12日（水） 参加者：10名

シクラメンの育て方について講義をし、鉢上げした。

2回目 11月30日（水） 参加者：12名

パンジーの特性や栽培方法についてハウスで栽培されている花を鉢に寄せ植えをした。

今年度初めての取り組みで、地域に教室の開催を案内し、実施した。参加者においては学校で行っている園芸実習を体験し、学校の理解が深まったと考えられる。また、コースとしても日頃の学習内容を地域の方々に伝えることができた。



5 総合所見

(1) アンケート調査

- 対象 3年生食品加工コース16名
- 質問項目

1 現場講師の指導「細山剛氏の講座」について

- 1 大変参考になった 2 参考になった 3 どちらともいえない 4 参考にならなかった
5 全く参考にならなかった 6 その他

(回答した理由)

2 現場講師の指導「澤田俊太郎氏の講座」について

- 1 大変参考になった 2 参考になった 3 どちらともいえない 4 参考にならなかった
5 全く参考にならなかった 6 その他

(回答した理由)

3 クリスマスケーキの開発・販売を通じて新商品開発や製品の改良の力は身につきましたか？

- 1 大変ついた 2 ついた 3 どちらともいえない 4 つかなかった
5 全くつかなかった 6 その他

(回答した理由)

4 オンラインでの取り組み全体を通じて商品開発や改良に対して考え方が変わりましたか。

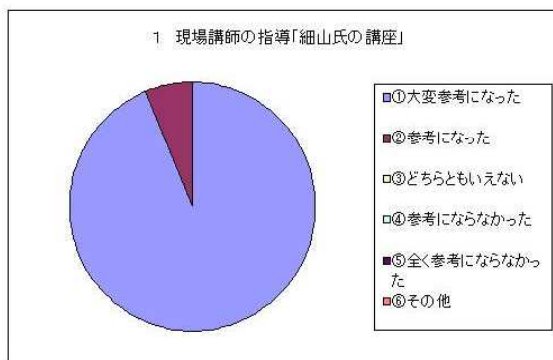
- 1 大きく変わった 2 変わった 3 どちらともいえない 4 変わらなかった
5 全く変わらなかった 6 その他

(回答した理由)

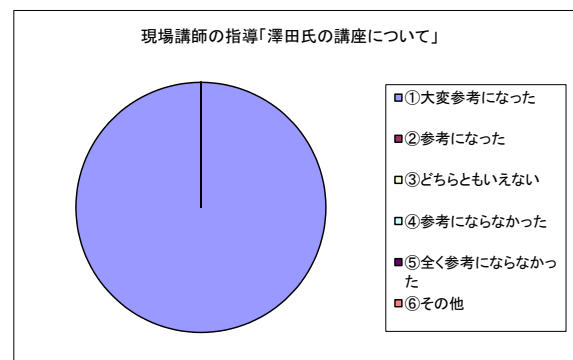
5 オンライン新潟未来スクールプロジェクトの取り組み全体を通じての感想を書きなさい。

(2) 調査結果

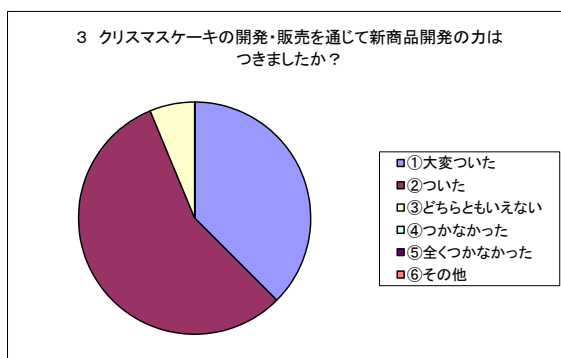
1 現場講師の指導「細山氏の講座」について



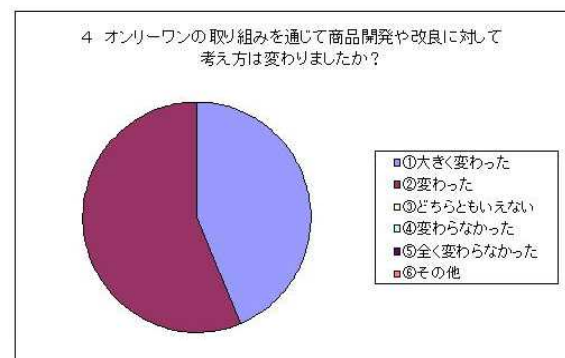
2 現場講師の指導「澤田氏の講座」について



3 クリスマスケーキの開発・販売を通じて新商品開発の力はつきましたか



4 オンラインの取り組みを通じて商品開発や改良に対して考え方は変わりましたか



(3) 調査結果より

- このアンケートの結果から、現場講師の指導についてはおおむね参考になったと回答しており、前年度に引き続き好評であった。これは和菓子の技術がクリスマスケーキに応用できたこと、講師の先生のアドバイスが技術向上につながったこと、今年度の目標がクリスマスケーキの開発であったこと、生徒の多くが洋菓子をテーマに課題研究に取り組んでいること、澤田氏の講座がクリスマスケーキの開発・改良がメインテーマであったこと、またそのケーキが実際に形になり、多くの方に購入していただけたことが要因と思われる。
- 3の質問ではほとんどの生徒が力がついたと回答した。クリスマスケーキの開発・販売の取り組みは生徒に大いに影響を与えたようである。購入者のアンケートを見ても高評価の回答が多く、そのことが生徒の自信となっていると考えられる。生徒の感想としては「もっと良い商品を作りたいという意欲が一番身についたと思う。」「最も良い形でお客様に渡すために多くの改良が必要でそれに向かって、みんなで試行錯誤を重ね、販売成果につながったから。」といった意見があった。技術もさることながら、良い商品を提供するためにはお客様の求めていることを知る大切さ、納期に間に合わせるために作業の効率を上げる方法といった点で多くの生徒が「気づき」や「発見」があったと思われる。
- 4の質問にはすべての生徒が変わったと回答した。回答の理由として「お客様が何を欲しているかが大切なことが分かった。」「自分の考えにとらわれることなく、良い商品を作るために様々なことを試すことが必要だと思った。」「ただ良いものを作っても、常に金銭の面が絡んでくるので、お客様に買ってもらえるかはわからないことが分かりました。」などがあった。商品化を目指す過程で生徒が「自分たちが作って売る」ということだけでなく「お客様がこう考えて、こういう商品を求めている」と視野が少し広がり俯瞰的に物事を捉えられるようになったと思われる。

- 5の質問では「細山氏の指導では今まで知らなかった和菓子の基本や作り方を教えていただき商品化に成功してよかった。澤田氏の指導ではクリスマスケーキの販売に向け沢山の指導、アドバイスをいただき、よい製品ができてよかった。」「直接プロから指導していただくことで、知らなかったことをたくさん知ることができたので、とても良い機会となりました。」「将来につなげたいです。」といったものがあり、この事業の取り組みが生徒の視野を広げることができ、将来につながる一つのきっかけにもなったと思われる。

(4) 次年度に向けて

- 次年度も2人の講師に継続して指導いただき、地元の食材を使った食品開発を計画している。今年度は学校の生産物であるマーマレードを食材として利用した。さらに地元の食材を活用していきたい。
- 他学科との連携として森林資源コースの生徒が製作した丸テーブルを山カフェに設置したところ来場者に好評であった。購入可能かどうか質問する来場者もいて、製作意欲の向上につながった。来年度は、木製折りたたみイス及び、スプーン・フォークの提供を受ける予定である。
- NPO法人との連携「木工教室」および、園芸教室は継続して行い、生徒の技術・知識の向上はもちろんのこと、コミュニケーション能力の向上、これまでの学習活動で身につけた成果を地域に還元する活動をこれからも進めていきたい。

高等学校教育課長 様

学番 71 県立上越総合技術高等学校長

オンリーワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

上越総合技術高校

【テーマ】 上越地域から活力を！
～地域が生徒を育て生徒が地域を支える～

【目標】

社会生活を送る上で求められるものは、社会性、人間性、コミュニケーション能力などの人間力であると考え。そのような観点からキャリア教育のあり方を考え、技術と人間力を育んでいくことを目標とする。(専門高校と地域の活性化)

【取組の概要】

- (1) 本校は、上越地域に唯一設置される工業科専門高校として、この地域に貢献できる人材の育成に大きな期待が寄せられている。そのため、地域の企業等と連携したキャリア教育（インターンシップ・デュアルシステム）を推進しており、生徒の勤労観、職業観の育成に努めてきた。今後も一人でも多くの生徒がインターンシップやデュアルシステムに参加させることができるよう、地元企業及び協会等と連携（インターンシップ・デュアルシステムの推進会議の設置）し、協力企業の掘り起こしと企業にとってのメリットの創出を図る。
- (2) 平成26年度まで実施していた「J-match」の取組を継承し、農・工・商・海の連携を意識して、お互いの学科理解と相互発展の可能性を模索する。
- (3) 「課題研究」及び「実習」の時間を活用し、地元企業の熟練技術者の指導を受けることにより技術技能の伝承を図る。その技術を生徒が講師を務める「ものづくり塾」を開催することにより、地域や小中学生にもものづくりの指導を実施する。また、機械工学科を中心とした海洋高校との連携による施設設備の有効活用により他産業への理解を深める。
- (4) テーマを具体化するために地元行政、地元機関と連携して事業に取り組み、生徒の地域貢献意識を醸成する。インターンシップ・デュアルシステムへの参加をとおして地元企業を知り、また、町づくり・街の活性化に参画することで地域に住む者としてできることや役割を認識する。

【取り組みの成果】

(機械工学科・メカトロニクス科)

1 インターンシップ・デュアルシステムの取組について

(1) インターンシップ・デュアルシステムの実施

15の事業所に受入れをしていただき、機械工学系2年生のおもに就職希望者のうち、インターンシップに機械技術コース16人およびメカトロニクスコース9人の計25人、デュアルシステムに各コースからそれぞれ1人ずつの計2人の生徒が参加した。

(2) 報告会の開催（機械工学科・メカトロニクス科）

12月12日（月）本校会議室において、機械工学系2年生76人を対象として、各事業所別にインターンシップ14社、デュアルシステム2社についての発表を行った。その際、受け入れしていただいた事業所より6人、ならびに本校職員9人が参加した。



インターンシップ風景

2 ものづくり塾について

(1) 目的や実際の取り組み

地域の中学生・小学生に向けて、夏季休業中に実施の計画を立てたが、文化祭のみの実施となった。内容は「電池を使わないラジオの作成」および「自転車の修理」についてで、課題研究で取り組む生徒が子供たちを指導することとした。

(2) 取り組みの成果

天候の影響により自転車の修理については展示のみとなり、ラジオ製作の実施となったが、子供達を中心に熱心に取り組んでもらい、広い年齢層から大勢の参加があった。



ものづくり塾（ラジオ製作）



ものづくり塾（自転車修理）

3 地元企業等の熟練指導者による指導の取り組みについて

(1) 県立上越テクノスクールとの連携

機械設計部溶接班の1年生2人による12月の新潟県高校生溶接コンクールへの出場に対して、上越テクノスクール職員清水様より来校していただき、アーク溶接の実技指導を受けた。また県立上越テクノスクールを訪ね、職員和須津様からもアドバイスを頂きながら本番同様の練習を行った。

(2) 専門学校トヨタ東京自動車大学校による出張授業

機械工学系2年生の76人を対象に、トヨタ東京自動車大学校教育部藤川龍彦様より自動車業界の現在、PHV・EV技術及び燃料電池車等について授業を受けた。



アーク溶接の実技指導

4 県立海洋高等学校との連携

機械工学科・メカトロニクス科3年生80人（機械科職員9人）が、海洋高校所属の実習船「海洋丸」にて機関実習を直江津港で行った。

船用ディーゼル機関（主に燃料噴射弁）の調整・試運転の実施や船内の見学を行った。

5 総合所見

インターンシップ・デュアルシステムは、就職希望者全員が参加できるようにさらに拡大させたい。ものづくり塾は概ね成功したと考えられるが、次年度に向け、地域への積極的なPRを図る必要がある。

また新潟県高校生溶接コンクールでは、1年生で初参加の2人が3位および10位と健闘した。そのほか海洋丸の実習は、次年度以降も継続させたい。



海洋丸

(電子情報科・電気工学科)

1 インターンシップ・デュアルシステムの取り組みについて

(1) インターンシップの実施

新潟県電気工事工業組合上越支部ならびに地域企業の皆様からのご協力により計12社から生徒21人を受け入れていただき、7月27日～8月24日までの期間でそれぞれ、3日間の企業実習を実施。参加した生徒にとって、普段の学校生活では得ることのできない体験や、社会でのマナーなどたいへん多くのことを学ぶことができた。

(2) デュアルシステムの実施

(ア) 大和電建(株) 電気工学科2学年1名

7月27日～30日、8月3日～9日合計10日間実施。作業内容は天井配線、モルタル練り作業、LGS壁のBOX取り付け工事等の体験をおとして自分の進路について考える良い機会になった。実習や授業では体験できないような作業や、現場でのマナーなど社会に出てから、とても役立つ事を多く学ぶことができた。



(イ) (有) カザマデンキ 電気工学科2学年1名

7月28日～8月1日、3日～7日合計10日間実施。作業内容はエアコン取外し、取付工事、新築家屋でのエアコン取付、光ケーブル接続工事、給湯器の取付工事などデュアルシステムに参加して、自分の視野や知識を広げることができた。社員の人がお客様に分かりやすく商品の説明をしたり、他の家電の相談にも答えたりしている姿を見て、これが地域に役立つ仕事であると実感することができた。

(ウ) (株) オアシス 電子情報科2学年1名

8月1日～14日までの間で合計10日間実施。作業内容はイベントでPAを操作したり、手書きのポスターをデジタル加工するときの補助を行った。制作現場で1つのものを妥協せずに作る姿に、たいへん感銘を受け、妥協せずに、物を作り出す志の大切さを学んだ。

2 ものづくり塾について

昨年度実施したものづくり塾での電子回路製作企画「3分タイマー」の発展形として、1分～69分まで設定できる「カウントダウンタイマー」の製作に関するものづくり塾を企画。

8月5日、地域の中学生を対象に電子工作に触れてもらうことを目的に開催。電子回路の概要、電子部品のこと、プリント基板の作成方法、穴開け等の基板加工の仕方、はんだづけの技術等は、講師となった電気科生徒が参加者に対して丁寧に指導。教材は電気・情報系と環境デザインコースの協働であり、それぞれ電子回路部分、外装部分を担当。ものづくり塾の前半と後半に分かれて、ハードとソフト両面でのものづくりとなり、参加者にとって興味関心が高く持てる企画となった。

3 地元企業等の熟練指導者による指導の取り組みについて

(1) (有) カザマデンキとの連携

電気工事技能講習会を例年実施している「ものづくり技能・技術伝承講習会」の事業として、7月15日、22日に合計4時間実施した。参加生徒は電気工事士技能試験受験者34人。今まで、手間取っていた作業もアドバイスをいただいたお陰で、時間が短縮し完成度が向上した。受講した34人のうち30人が合格することができた。

(2) 電気工事工業組合との連携

(ア) 電気工事技能講習会

新潟県電気工事工業組合上越支部様を講師とした第二種電気工事技能講習会を7月16日(土)に開催し、技能試験公開問題の13問のうち5問を指導していただいた。参加した18人の生徒達は、一様に自信がついたようで、「たくさん練習させてもらい早く作れるようになった」と話し、受講者18人全員が合格することができた。また、11月19日(土)には第一種電気工事技能講習会を開催し、5人が参加し、4人が合格することができた。

(イ) 電気工事業界人材確保・育成事業

電気工事業界人材確保・育成事業と連携し、電気工事組合のご協力、ご指導のもと、1年生(電気工学科電気エネルギーコース40人)を対象に、3月15日(水)に電気工事関連の講義、電気工事作業の実演の見学、さらに電気技術者の皆様と情報交換を4時間実施した。参加した生徒は自己の進路を含め、電気工事分野について新たに知ることができた。

(環境土木科)

1 インターンシップ・デュアルシステムについて

(1) インターンシップ・デュアルシステムの実施

地元建設関連・測量調査・市役所（上越市、妙高市、糸魚川市）、環境科学センター等、11事業所にて、就業体験希望の生徒計20人（男子14人・女子6人）（インターンシップ18人・デュアルシステム2人）が参加した。

(2) インターンシップ・デュアルシステムのふりかえり

建設・測量等、業界各所から受入要望が多数であり、所属科全員の生徒自らが率先して就業体験に参加できるように指導調整を進めている。

(ア) 地元建設業・業界からの意見や要望

「他の学校とも重なるから夏休み以外でもインターンシップをできるようにしてほしい」「生徒の皆さんは一生懸命に体験している。そのまま仕事についてほしいくらいだ。」と、多くのインターンシップ先からの意見・要望を頂戴した。

(イ) 参加した生徒の感想・影響

参加した生徒は、「学校にはない専門的機材や技術に触れることができた」「地域を支える仕事、一言では表せないたくさんの経験や体感ができた」「日頃の学校生活や授業、今後の人生の中で活かしたい」との感想が多かった。授業では自信をもってリーダーシップのある行動ができ、頼もしい存在へと成長を感じる。

(ウ) 環境土木科1年生30人（次年度体験予定）への調査

インターンシップ・デュアルシステム希望状況
希望する：27、希望しない：2、調査時不在：1

2 ものづくり塾について

(1) ものづくり塾の実施

(ア) 趣旨・コンセプト

地域の皆さんに、普段、見えてない・気付いていない身近な土木の心・楽しみ・親しみ・支えを伝え、知ってもらおう。

(イ) 現場見学、地域の特色、調査・知見

身近で地域性の高い土木について、現場見学や調査、授業の中で知見を増やし、ものづくり塾でとりあげたい内容を調査した。

(ウ) 開発・準備・宣伝

参加者を小学生と仮定し、楽しさ、面白さ、興味、くすぐり、そして、安全性に配慮して、ものづくり塾での提供内容を開発した。大きく6つの分野で体験キットを準備し、道具の取り扱いや宣伝用のビラ等でも好奇心やドキドキを演出するよう心がけ、思いを込めて製作し、参加者を募った。

(エ) 実施内容および結果

宣伝用のビラの効果により、近隣の小学校からの5年生児童数人をはじめとして、老若男女のたくさんの皆さんから参加いただいた。大型のコンクリート圧縮試験機を用いて、コンクリートが壊れていく様子を興味津々に安全ゴーグル越しに食入のように観察していた。

また、コンクリート製メダルや水耕栽培セットも製作し、家に帰りあともその出来事を話したりと楽しめること好評であった。

3 総合所見

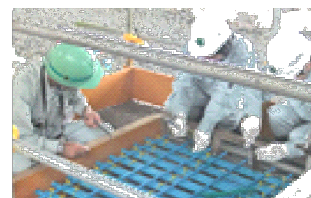
ものづくり塾では、小学生や側近の保護者をターゲットとして展開し、好評を得ることができたが、そればかりでなく中高生や地域一般の皆さんにも参加拡大できるよう、今後はもう少し地域に関連した内容も濃厚にし、華やかにして継続できるように進めたい。



インターンシップにおける

公園設計のプレゼン

(上越市役所就業体験の一面)



現場見学における

鉄筋結束の体験の様子



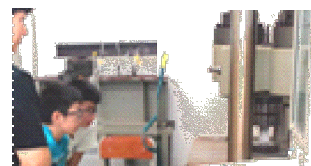
ものづくり塾に向けた

キット製作の部品の準備



ものづくり塾どぼく編の

参加募集のビラ



ものづくり塾の様子

小学生の場合(上中)

男性の場合(下)

(建築・デザイン科 建築システムコース)

1 インターンシップ・デュアルシステムの取り組みについて

(1) インターンシップ・デュアルシステムの実施

(ア) 実施内容

今年度は「受け身から主体的な就業体験に向けて」をテーマに建築施工管理、大工、建築設計、建築設備、大学研究の分野から希望を取りインターンシップを18社35人、大学1校2人、デュアルシステムを1社2人が参加した。

(イ) 実施後の生徒アンケートより

・お客様に信頼され心を開いてもらうには、自分自身が心を開きお客様のこころの声を聴くことが大切だと感じた。・改めて建築士になりたいと思った。・就業体験前よりも働くということの具体的なイメージができた。・インターンシップをとおして自分自身の成長を感じた。・インターンシップにより自分自身の足りない面を気づかせてもらった。・責任と使命を持ち、積極的に行動すること、考えることを学んだ。・分からないことや疑問に思っていたことを質問するなど積極的に動けるようになった。

(2) 報告会の開催

(ア) 受入企業や1年生を交えた報告会を実施

受入企業9社、大学、学校評議員4人、1学年30人を前に2年生39人が各自の体験を報告した。生徒は働く体験をとおして仕事の面白さに触れ、自分の進むべき方向を理解していくことを学んだ。

生徒は就業体験で見事に変わった。企業と学校が協力し、どちらが指導者でもなく皆が支援者となり一緒になって生徒達を育てていく姿勢があったからだと感じた。



インターンシップ風景

2 ものづくり塾について

(1) 目的や実際の取り組み

オンリーワン新潟未来プロジェクトの一環として、近隣の小中学生13人を対象に、建築科の生徒が講師となりインテリア照明の作成を行った。また、本校文化祭では、木製家型小物入れの作成を行い、約50人に体験してもらった。

(2) 取り組みの成果

子供にもものづくりの指導を行うことでよりものづくりのあり方について考えることができた。

3 地元企業等の熟練指導者による指導の取り組みについて

(1) 3級建築大工技能講習

新潟県職業能力開発協会様との連携により、フジモト建築様を講師に迎え、2年生9人に対して3級建築大工技能士受験に向けた指導をいただいた。

(2) 3級左官技能検定講習

大工技能検定同様地元の企業である株式会社佐藤左官工業所様から3年生7人を対象に指導していただき、3級左官技能検定では全員合格し、新潟県左官技能大会では優勝することができた。



3級建築大工技能講習

4 上越市との取り組みについて

(1) 目的や実際の取り組み

上越市と協力し、南本町3丁目のまちづくりに関わるフリーペーパーの作成を行った。また上越市の主催する「トークイン上越2016」に参加し、多くの大学生らと共に上越市のまちづくりに関する話し合いを行った。

(2) 取り組みの成果

地域の方や大学生など様々な方との交流を深めることでコミュニケーション能力を育み、また改めて自分の住む上越市のまちづくりに興味を持つことができた。



トークイン上越

5 総合所見

企業（地域）と学校が協力し、どちらが指導者でもなく皆が支援者となり一緒になって生徒達を育て、その生徒達が地域の子ども達にもものづくりのおもしろさや楽しさを伝え、地域に還元することができた。

(建築・デザイン科 環境デザインコース)

1 インターンシップ・デュアルシステムの取り組みについて

(1) インターンシップ・デュアルシステムの実施

環境デザインコース2年生16人のうち、2人がデュアルシステム、3人がインターンシップに参加した。インターンシップは今年度より就職希望者全員が参加できるように計画し、(株)オアシスでイベントの企画やポップデザイン、運営などを体験をした。デュアルシステムは(株)桐朋で画像編集・構成ソフトを学習し広告やポスターなどのデザインを体験した。



デュアルシステム風景

2 ものづくり塾について

(1) 目的や実際の取り組み

(ア) ものづくり塾で使用するのぼり旗のデザイン

3年の実習で取り組み、デザインを11案提出した。その中より1案が採用され、業者に5本の製作を依頼し、ものづくり塾や工業教育フェスタなどのブースで使用された。



のぼり旗のデザイン

(イ) 3分タイマーのケース製作

電子情報科・電気工学科で製作したタイマーのケースをデザインし、中学生に糸鋸盤やボール盤の指導をしながら製作する「ものづくり塾」を実施した。

(ウ) エコバッグ製作

本校文化祭において消しゴムスタンプを使用したエコバッグデザインを実施した。生徒がデザインした手作りのスタンプを使用し、多くの方がレイアウトデザインを楽しみながら体験した。



ものづくり塾風景

3 地元企業等の熟練指導者による指導の取り組みについて

(1) 長岡造形大学による出張授業

長岡造形大学 プロダクトデザイン学科 鈴木 均治教授から、「味を色で表現しよう」というテーマで、色彩についての基本演習授業を受けた。生徒はこの授業で、色彩と感情の関係について、深く学習することができた。



エコバッグ製作

4 総合所見

就職希望者全員がインターンシップ、デュアルシステムに参加することができた。短期間ではあるが実際に職場で仕事をする貴重な経験となるので、今後も継続していきたい。

ものづくり塾を実施して、短時間でも受講者が興味を持ち体験したいと感じる内容のものを今後も実践していきたい。

(様式1)

海 高 第904号

平成29年3月8日

高等学校教育課長 様

学番 79 海洋高等学校長

オンラインスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

海洋高校	
【テーマ】	地元漁業の維持・発展のための活動をととした水産専門人材の育成
【目標】	<p>地域との連携を一層図り、地方の課題の解決を図るとともに、地域の活性化に貢献できる将来の水産専門人材を育成するため、以下の能力・態度の育成について取組む。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 課題解決能力の育成 国際的な視野を持ち、地域が直面する課題に対して、幅広い視点から解決しようとする能力と態度を育成する。(2) マネジメント能力の向上 専門家と連携した実践を通じて、水産業に対応できるマネジメント能力を育成する。(3) 自己有用感の向上 実践をととし、生徒に社会への参画意識を醸成させるとともに、その経験から自己有用感を向上させる。
【期待する成果】	<ol style="list-style-type: none">(1) 特産水産物の復活や、新たな特産物の生産により地元経済に貢献できる。(2) 生徒が地元の産業に目を向ける端緒となり、勤労観・職業感の醸成につながる。(3) 特産物の流通や製造量が増加することにより、生徒の就業機会が拡大する。
【取組の概要】	<ol style="list-style-type: none">(1) 栽培技術コース（資源育成コース） 「チョウザメの養殖」(2) 食品科学科（食品科学コース） 「干物等の製造におけるHACCP取得及びハラルの研究」(3) 海洋生産コース（海洋技術コース） 「バイ貝及び甘エビの漁獲方法の習得」(4) マリン技術コース（海洋創造コース） 「潜水技術を用いたモゾクの漁獲方法の研究」

1 各コースの具体的な取組

(1) 栽培技術コース（資源育成コース）

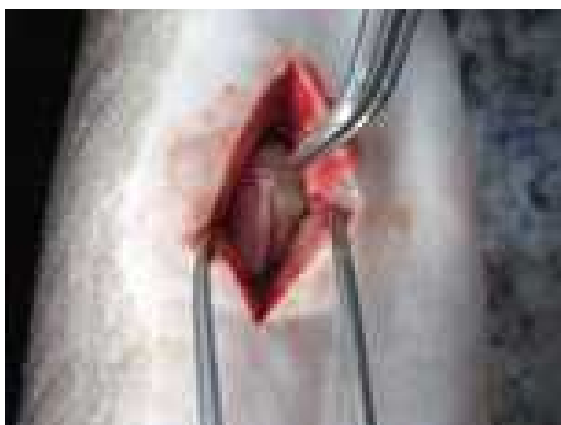
- ・本年度導入した稚魚の成長と生産率を調査
- ・昨年度と比較し、当養殖場における生育状況を確定



<① 判別対象魚を固定>



<② 腹部後方切開>



<③ 卵巣・精巣判別>



<④ 切開部縫合>

(2) 食品科学科（食品科学コース）

- ・魚醬「最後の一滴」のハラール認証に向けた学習会の実施
- ・新規HACCP認証と既存認証品のHACCPシステム検証活動



<缶詰巻締行程>



<加熱殺菌工程モニタリング>



<EXPOにおいて日本からの出店品のうち最も魅力的な商品として表彰された>

(3) 海洋生産コース（海洋技術コース）

- ・ 専門家による技術指導について
- ・ 実習船「くびき」による試験操業について
- ・ 漁具（籠）の作成・改良



<専門家による指導>



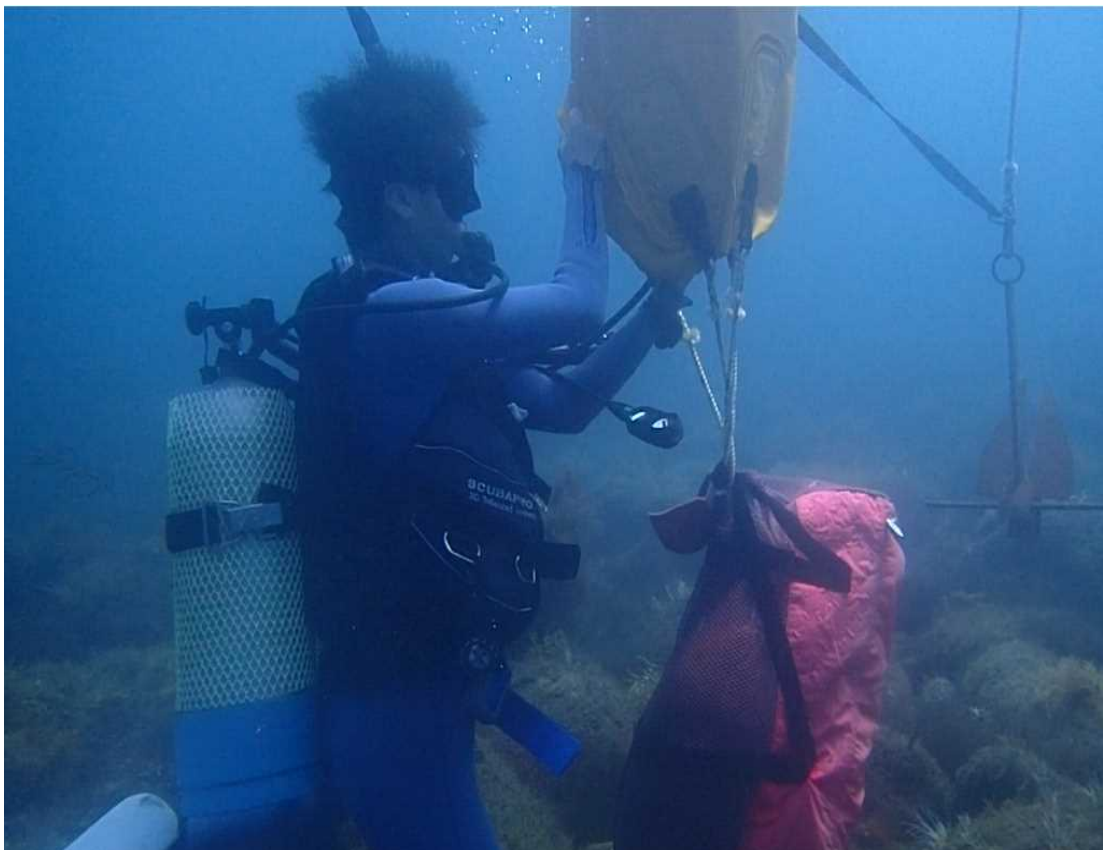
<バイ貝の漁獲>



<網を編み 一から籠を製作>

(4) マリン技術コース（海洋創造コース）

- ・潜水技術を用いた、糸魚川能生地区でのイシモズクの繁茂状況の調査および、安全で効率的なモズクの収穫方法の検証
- ・収穫したイシモズクの塩蔵品製造、校内外で試食アンケート



<アクアリフターを使用し、収穫したイシモズクを浮上させる>



＜専門高校メッセでの試食アンケート＞

2 取組の成果

(1) 栽培技術コース（資源育成コース）

「チョウザメの養殖」

- ・ 1年間での飼育結果は4倍、生残率は80%となった。昨年度とほぼ同じ値が得られ、当施設はチョウザメ当歳魚の飼育に適合した養殖場であるということが分かった。
- ・ キャビアを産出する雌だけを長期養成するために必要な技術である、雌雄判別法について研修を受けることができた。

(2) 食品科学科（食品科学コース）

「干物等の製造におけるHACCP取得及びハラルの研究」

- ・ ハラル認証に向けた学習会により、認証監査を経て認証できる見込み。
- ・ 認証後の販路開拓のために、2月にマレーシアで行われたペナンハラールEXPOに参加し、生徒が実際にハラール食品を海外で販売することができた。
- ・ さば缶詰2種のHACCP認定により、3年生の科目「総合実習」で製造する品目の5品目中4品目がHACCPで管理されることになった。
- ・ 理論を実務に結びつける有効な教育内容としての充実を図ることができ、生徒にとってはHACCPによる衛生管理が当たり前のことと考えられるようになった。

(3) 海洋生産コース（海洋技術コース）

「バイ貝及び甘エビの漁獲方法の習得」

- ・ 作業の流れが理解できた。
- ・ 安全に作業するにはどうすればよいか理解できた。
- ・ 籠による漁獲の違いから、どのような籠を作ればよいかを考察できた。

(4) マリン技術コース（海洋創造コース）

「潜水技術を用いたモズクの漁獲方法の研究」

- ・ 繁茂状況の調査では、昨年度とは異なる場所で5340㎡にイシモズクが繁茂していることが確認できた。

- ・空気の浮力で水中のものを浮上させるアクアリフターを利用することで、安全なイシモズクの収穫方法を確立できた。
- ・約40kgのイシモズクを収穫し、塩蔵品を製造した。校内、専門高校メッセおよび文化祭でのイシモズクの試食アンケートの結果から商品コンセプトを明確にした。
- ・商品コンセプトをもとにパッケージや販売促進のPOPを試作した。

3 総合所見

(1) 栽培技術コース（資源育成コース）

チョウザメは外見では雌雄の区別がつかないため、腹を切開して、直接、生殖腺を見て雌雄判別を行う。本研修により、雌雄判別の技術を身につけることができた。

来年度には、産学連携で養殖しているチョウザメが3歳となり、雌雄を判別して性別に飼育する必要がある。判別技術を身につけたことにより、性別飼育が可能になった。

(2) 食品科学科（食品科学コース）

ハラールとHACCPの2つの認証を目指して取り組んできた結果、生徒・教員ともに食品製造を取り巻く世界標準を学ぶことができた。また、製造の先にある販売についても実際に海外に行って実践することができ、国際的な視座を持つ人材育成に寄与することができたと考えられる。

多くの民族が一緒に生活する外国では、HACCP認証とハラール認証は一体と考えられている。これからも、世界に通用する食品製造を学べる施設とカリキュラムの完成を目指したい。

(3) 海洋生産コース（海洋技術コース）

アンケートの結果から、現状のバイ簗漁では漁師になりたいという生徒は少ないが、自分の力で工夫して漁をしたいという生徒が多いことがわかった。今後、バイ簗漁について深く学び、この漁の面白さを伝え、実際にバイ簗漁師になる生徒が出てくればよいと思う。

(4) マリン技術コース（海洋創造コース）

潜水技術を用いたイシモズクの収穫方法だけでなく、加工品の製造、商品開発及び販売促進の手法について学ぶことができ、地域資源を活用した特産品開発についてより具体的に理解できた。今年度の成果をもとに、商品のブラッシュアップと試験販売を行うことで事業化に近づける。次年度はエンジンポンプを使用した安全でかつ効率的なイシモズクの収穫方法を確立する。

(様式1)

阿高第 178号

平成29年3月3日

高等学校教育課長 様

学番 中1・21 阿賀黎明中学校・高等学校長

オンラインワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

阿賀黎明中学校・高校

【テーマ】 あがまち まるかじり

～町を元気にするためにいつか帰りたい～

【目標】

① 地域の魅力の再発見と課題探究をととした人づくり

- 地域で活躍する専門家の協力を得ながら、地域の魅力や地域を取り巻くさまざまな課題の探究と体験活動をととして、コミュニケーション能力と課題解決能力の向上を図るとともに、地域との関わりを強め、地域への愛着を育む。

② 地域との連携を深化させた人づくり

- 「狐の嫁入り」をはじめとする地域行事や交流活動、並びにボランティアへの参加及び企画・運営を通じ、自尊感情を高め、人間関係形成能力の向上を図るとともに、学校と地域の連携を深化させ、地域との協働体制を構築する。
- 様々な年齢の町民と交流を図り、学校と地域の連携を深化させる。

【取組の概要】

① 阿賀町や諸団体の協力を受け、町内の小中学校との連携も見据えた取組

- 町おこしイベント「狐の嫁入り行列」への参加や住吉神社祭礼への協力（中・高）
- 文化祭を地域の行事として位置づけ、町民が来校できる取組を実施（高）

② 町の魅力や強みの発信活動と地域の課題やその解決法等を探求する活動

- 地域で活躍する方々の協力の下、阿賀町の花「雪椿」の育苗体験と発信活動準備（中）
- 森林体験学習を通じ阿賀町の恵まれた森林資源の魅力を学ぶ（中）
- 黎明祭を町の文化祭に位置づけ、町がすすめる福祉の町づくりに協力（高）
- 平成29年度の英語力を活用した発信活動や交流活動実施に向けた準備・学習（中・高）

【取組の成果】

地域の歴史を学び、地域の魅力や強みを再発見する事で、郷土への愛着が一層増した。また、地域の様々な取組に参画する事により、地域への帰属意識の向上や、地域への愛着の一層の強まりが観られた。各種団体との連携の深化や、地域の協働体勢の環境が整った。

【平成28年度の取組概要】

1 地域の魅力の再発見と課題探究をとおした人づくり及び地域との連携を深化させた人づくり

(1) 「きりん山清掃」で全校体制で町内清掃（5月2日（月））

阿賀黎明中学校・高等学校では中高合同の体育祭を行っている。体育祭の結団式の後、学校周辺の町内を区域で分担し、中学校1年生から高校3年生までの生徒を縦割り班編成をして清掃活動を行う。団員（班員）どうしの協調を図るとともに、5月連休中の「狐の嫁入り行列」前に、観光客が訪れる町の美化活動を行う。生徒会が主導して計画を立て、各班の上級学年の生徒たちが、計画通りに集会と清掃活動を行えるようリーダーシップを発揮し、安全に配慮しながら取り組んでいる。清掃活動を行う中で、普段の登下校では目にとまらなかった町内の様々なものや、阿賀町の恵まれた自然を再発見する良い機会である。また、近隣住民の方々から暖かいねぎらいの言葉をかけられ、うれしさや達成感を感じながら行っていた。



(2) 「狐の嫁入り行列」への参加（5月3日（火））

5月の連休に行われる阿賀町の観光イベントに参加・協力した。日中に行われる観光では、阿賀町立阿賀津川中学校と阿賀黎明中学校・高等学校の吹奏楽部がジョイントコンサートを行った。

また、夕方から行われる「狐の嫁入り行列」には、中学校女子生徒5人と男子生徒5人の総勢10人が行列に参加し、また高校生は行列の警備スタッフとしてイベントをサポートをした。



「狐の嫁入り行列」は、毎年約5万人の観光客が見込まれる阿賀町の最大の観光イベントであり、生徒たちが様々な形で参加・協力する事で、地域に対する帰属意識が高まった。また、イベントの中で自分の役割を果たした達成感と、地元への愛着の高まりがうかがえた。

(3) 高校3年生による校内プレゼンテーション活動（7月25日（月）～29日（金））

「地元の魅力発信と課題解決策」と題して高校3年生全員を14のグループに分け、以下のような手順で活動を行った。

- ① 各班で阿賀町の魅力や強みを蔵書、インターネット等を利用して調べる。

- ② ①の活動と並行して、地域が抱える課題を具体的に考える。
- ③ 集めた情報と自分たちの考えを基に、どのように阿賀町の魅力や強みを発信し、どのように課題を解決していくのかをグループごとに話し合う。
- ④ プレゼンテーション資料を作成し、予想される質問に対する返答を考える。
- ⑤ グループどうしで互いの収集した情報や考えを発表し合う。
- ⑥ 互いの発表を受けて、質問や意見交換を行う。

この一連の活動を通じて、自分たちが見つけられなかった地域の魅力や強みを他のグループから知ることができた。また、地域が抱える課題を認識し、どのようにその課題を解決したら良いかを意見交換した。生徒たちは活発に発表や意見交換を行い、課題意識を持つとともに、自分たちの学校の地域について理解を深めていた。



(4) 中学校2年生による森林体験学習（7月29日）

阿賀町の森林面積は77,265ha（平成27年の調査）であり、実に阿賀町の80%程度を森林地帯が占める。この森林体験学習は、みどりに恵まれた環境を活かした学習活動である。専門家の指導の下、生徒たちはフィールドワークを通じて植生や森林に関する様々な学習を行った。また、木工体験では思い思いに作品を作っていた。

普段は身近にありながらも深くは足を踏み入れることのなかった恵まれた自然を満喫し、それらを再認識する活動をとおして、自然の豊かさを肌で感じる事のできる貴重な体験である。



(5) 大正大学地域創生学部(出川真也研究室)との阿賀町の魅力化に向けた情報交換会（8月9日）

出川氏は、国内各地で地域に根ざした学習を軸に、農山漁村活性化事業等を自治体と連携して研究している。同氏は阿賀町の室谷地区で自治体と連携した研究をしており、今回は研究室の学生と東京農業大学の学生たちと共に来町し、阿賀町教育委員会学校教育課長の案内で、本校を訪問したものである。

当日は同研究室が阿賀町の室谷地区で行っている活動について情報提供を頂き、本校からは、平成28年度から



指定を受けた「オンリーワンスクール新潟未来プロジェクト」における本校の取組や、高校3年生による校内プレゼンテーションの実践、高校2年生の地理B履修者が取り組む地域防災に関する実践などについて説明を行った。同氏からは、専門研究をされている立場から、今後の本校の取組に対するアドバイスを頂いた。

(6) 黎明祭を町の文化祭として位置づけた取組（10月16日）

毎年、10月に阿賀黎明中学校と高校の合同開催で行っている文化祭「黎明祭」を、町の文化祭として位置づけ、町民が来校できる内容を2つ盛り込んだ。

① 町が推進する福祉の町づくりに協力するため、東蒲原福祉会と連携

② 県の歯科保健協会と連携した「歯の健康づくり」イベントの実施

①については、東蒲原福祉会の全面的な協力を受けて校内にブースを設置し、介護体験コーナーや東蒲原福祉会の事業展示、福祉・介護分野への就職、進学を考えている生徒に対する進路相談などを行っていただいた。また、来校した地域の方々に対しても、介護保険など福祉や介護に関する相談を受けていただくことにより、町の文化祭としての位置づけに協力していただいた。



②については、本校養護教諭が行っている「県歯科保健協会と連携した歯科保健教育」の一環として実施した。本校保健委員の生徒たちは、むし歯や歯肉炎といった歯周病の有病率抑制に向け、通年で取組を行っており、当時は保健室前廊下にて、歯科に関するアンケートの結果や歯の健康に関する啓発ポスターを展示するとともに、啓発用チラシの配付を行った。校内の生徒たちだけでなく、来校した地域住民の方々へも啓発活動を行い、およそ300人に歯ブラシとチラシを配布した。大勢の地域の方に来ていただくため、保健委員の生徒自らが、阿賀町情報ネットワーク（テレビ電話）で開催告知をしたり、当時校内を通り行く方々に歯科保健イベント来場の声かけを行った。



(7) 新潟昭和株式会社工場見学（12月2日）

阿賀町の産業・歴史・環境学習の一貫として、現在の新潟昭和株式会社が担っている工場の役割と、環境対策等の取組を学び、生徒たちが水俣病に関する正しい知識を得るため、高校1年生を対象に阿賀町鹿瀬にある工場見学を行った。

生徒に対して事前にワークシートを記入させ、工場に関する知識や新潟水俣病に関する知識を確認した。



生徒たちへ事前調査を行った結果、在籍53人のうちで十分な知識を持っている生徒は10%に満たず、ごく断片的な知識しか持っていない生徒が全体の80%程度、全くといっていいほど知識が無い生徒が10%弱であった。



工場では学年を2グループに分割し、以下の内容を見学した。

- ・ 昭和電工株式会社、新潟昭和株式会社 of 業務内容と環境維持のための取組
- ・ 新潟昭和株式会社の歴史
- ・ 工場見学
- ・ 水質浄化、水質モニタリング、水質警報システムの仕組み

工場見学をして過去にあった出来事や今に至った経緯、現在会社が行っている環境保護の取組等について、実際に工場を訪問して体系的に学ぶことで、偏りのない知識と正確な理解につながるが見学後ワークシートからうかがえ、有意義な学習となった。



(8) 雪椿の育苗（1月26日）

阿賀町は雪椿発見の地であり、その発見者は本校の前身である東蒲原郡立実業補修学校の教頭丸山忠次郎氏が発見したといわれている。今回は阿賀黎明中学校の全校生徒が育苗体験をした。阿賀町にある芦沢ハーバルパークの管理責任者中村雅美氏と、本校所属技術員の清野久雄氏から技術的な指導を受け、校地内に植えられている数種類の雪椿から挿し木をする枝を採取し、プランターに植えた。挿し木作業の前に、雪椿と本校及び阿賀町との関わりを学習し、生徒たちは雪椿と自分たちとの間に関係性があったことを新鮮に感じつつ、挿し木体験に取り組んでいた。



(9) プレゼンテーション講座（2月1日）

にいがた観光カリスマのなぐも友美さんに講演を依頼し、中学校1年生の授業と、中高全校生徒対象の講演会との2本立てで行った。生徒たちは次年度以降、様々な発表を行う際に留意すべき点を学び、なぐもさんの笑顔につられ、終始笑顔で講演に聴き入っていた。次年度以降の本校生徒の発表に一層の期待が持てる学習内容となった。



(10) 高校2年生対象環境学習（2月24日）

阿賀町の歴史に関わる環境学習の一環として、「県立環境と人間のふれあい館」を訪問し、水俣病を中心とした学習を行った。生徒たちは、語り部の方から当時の様子をうかがい、悲惨な事件が身近な場所で起こったことに衝撃を受けていた。また、館内の資料を見学し、被害の大きさ、人体への影響、被害者に対する差別、被害者と加害者との裁判について詳しく学んだ。公害の影響は現在も続いており、それに対し、生徒達は何ができるのかを真剣に考えていた。



2 総合所見

今年度は、「地域に関する知識の充実」と「情報発信のためのノウハウ習得」に主眼をおいて取り組んだ。次年度は本年度の学習で習得した「地域の魅力や強み」と「地域の持つ課題」を踏まえ、どのようにしてその魅力を発信し、どのようにしてその課題を解決するかを考察する活動に取り組むこととなる。今後は地元自治体や地域の人材をさらに活用した取組に移行し、平成30年度以降の本校の組織的な取組につなげていく。

(様式1)

正徳高第 125 号の 1

平成29年 3 月 2 日

高等学校教育課長 様

学番39 県立正徳館高等学校長

オンリーワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

正徳館高校

**【テーマ】小規模校のメリットを生かした地域との連携による人づくり
～地域の交流拠点としての学校活用と地域の活性化に貢献する若手人材の育成～**

【目 標】

①初年度の活動目標

体験学習や地域貢献、地域交流を通じ、「与板」について学び、「与板」の歴史や魅力を理解する。

②2年目の活動目標

初年度の活動テーマに加えて、発信力と課題解決能力の育成を目指す。

【取組の概要】

①人材等地域資源の活用と交流拡充、地域学習の充実

- ・地域交流の拠点として、「コミュニティ・ルーム」を設置。地域に開かれた学校として与板中との部活動交流や地域住民のスポーツ振興等の拠点づくりを行う。
- ・地域の方を講師として招き、与板の町について学ぶ。
- ・キャリア教育の核となる学校設定科目「キャリアガイダンス」の指導補助をはじめ教育活動の補助として、地域住民や卒業生、大学生等の人材を「正徳館サポーターズ・クラブ」として活用する。
- ・コミュニティや支所の地域振興課から協力を仰ぎ、町の活性化のための活動をする。
(与板マップの作成、商店街活性化のための宣伝活動、町内掲示板へのポスター掲示)

②体験的活動による人づくり

- ・英語、情報、キャリアガイダンスの授業を活用して、生徒が行った体験的活動についてまとめ、英語に翻訳し、パワーポイントを用いて、地域住民や日本人だけでなく外国人にもプレゼンテーションを行う。
- ・「地域おこし」、「地域の情報発信」、「地域活性化」をテーマに、林間学校や修学旅行等の学校行事の中に、講演会や生徒のプレゼンテーションを取り入れ、生徒自身が学び、収集した情報や習得した成果を発信する機会を設ける。
- ・正徳館フェスティバル等の行事で、地域交流型の体験ブースを設置し、地域住民の参加を促す。

【期待する成果】

- ・正徳館高校が、地域交流の拠点として地域に認識され地域の活性化に貢献すること。
- ・地域連携・地域貢献の中で、生徒の社会性、発信力が養われること。
- ・与板町について学ぶことで、生徒の地域理解・地域振興への意識が向上すること。

【取組の成果】

1 コミュニティルーム 1, 2 の設置

学校が地域の拠点となるように、校内に2つのコミュニティルームを設置した。

○ コミュニティルーム 1 スポーツ交流の拠点

中高合同の部活動や学校開放の利用者が更衣やミーティングに利用している。

○ コミュニティルーム 2 文化的交流の拠点

主に、同窓会や正徳館サポーターズ・クラブの打ち合わせ等に使用している。また、与板高校や寺泊高校のアルバムや写真を所蔵している。

隣接のミーティングルームには、藩校正徳館、与板高校、寺泊高校の文化的財産や記念品、賞状、歴代校長の写真等を展示している。また、キャリアガイダンスでは、地域の方による歴史講義を実施したり、「正徳館サポーターズ・クラブ」の活動や取材等にも活用されている。



【コミュニティルーム 1】



【コミュニティルーム 2】

2 スポーツ交流

本校体育館を活用し、外部指導者等に依頼し、中高合同でサッカーやバレーボールの指導を行っている。中高合同で実施することで、互いに良い刺激を受け相乗効果が生まれている。

(更衣等はコミュニティルーム 1 を活用)

3 学校設定教科「キャリアガイダンス」での地域と連携した教育活動とその取組

○ 畑作実習

(1) 地域との交流の機会に提供するために、校地内に菜園作り、栽培・収穫を1学年で行った。

(2) 正徳館フェスティバルでの実習成果の発表

収穫した野菜は、文化祭で調理し、地域の方に提供した。また、栽培記録は、正徳館フェスティバルで発表した。



【じゃがいもの収穫】



【収穫した安納芋の
カップケーキ (家庭科)】



【正徳館フェスティバル】
畑作実習の成果発表

○ 「よいた学」

(1) 与板の歴史・文化の学習

- ・与板藩井伊家ゆかりの「よいたマップ」
- ・楽山亭の紹介パワーポイント
- ・与板の小路紹介パワーポイント
- ・与板藩井伊家の紹介パワーポイント

これらの制作をとおして与板地域の歴史や名刹を学び、文化や伝統に触れた。

「よいた学」の学習成果をまとめ、英語版も制作している。今後は、マップや紀要を活用した紹介活動や、作成したパワーポイントを使用したプレゼンテーション活動を行う。

(2) 地域おこしについての学習

- ・講演会「地域おこしについて」 岩室観光施設「いわむろや」館長 小倉壮平様
- ・散策 「いわむろ温泉街ガイドツアー」 町あるきガイド 「いわむろ案内人」様
4月12日、岩室温泉で行われる2泊3日の林間学校で、岩室地域の町おこしの先進的な取り組みを学ぶため、講演会とボランティアガイドの方による街あるきを行った。

(3) よいた学

- ・散策 「よいた街あるき 楽山亭編」 10月14日
「よいた街あるき 小路編」 11月11日
案内人 与板町歴史ボランティアガイド会
- ・講義 「与板藩井伊家」 9月9日、12月2日、1月13日、1月20日、1月27日
講師 井伊神社管理委員会代表 池上宗則 様
- ・遠足 「与板史跡探訪遠足」 5月2日

(4) 新潟大学との高大接続事業 (地域発信と国際交流) 全3回

- ・講演 「世界の街あるき」 9月23日
講師 新潟大学副学長 坂本信 様
新潟大学 留学生 スランギカ 様
- ・散策 「よいた街あるき 楽山亭編」 10月14日
「よいた街あるき 小路編」 11月11日

「よいた街あるき」に参加してもらい、外国人から見た「与板」の魅力について英語で交流した。



【キャリアガイダンスⅠ】
井伊神社由来の宝刀に触れる



【ガイド会の案内で町巡り】



【高大接続事業】
留学生との交流

(5) キャリア教育への取組

- ・福祉実習 12月9日
長岡市デイサービスセンターよいた
桃李園デイホーム与板
- ・保育実習 1月31日
与板保育園



【福祉実習】

(6) 学校設定教科「キャリアガイダンス」における生徒の主な感想

- ・いろいろな活動で自分たちで調べて、動いて様々な体験ができた。いろいろなことを学び、もっと深く知りたくなった。
- ・どの活動もとても楽しかったです。積極的になれました。今年学んだことをもとにして来年は地域に貢献したいです。
- ・一から作業をしていくことの大変さを知りました。班のメンバーと協力することの大切さやリーダーシップを発揮することの難しさを学ぶことができたと思います。

(7) 主な活動の自己評価（1年生 25人）

活動	とても意義があった	意義があった	あまり意義がなかった	全く意義がなかった	この活動で学んだこと
畑作実習	12	13			命を育てる大変さ
鼓童公演	7	16	2		一生懸命の尊さを実感
モザイクアート製作	14	11			協力の大切さ
与板うまいもの市	12	12			販売体験で、物が売れる喜びを知った
与板藩井伊家の歴史学習	14	10	1		与板の歴史の奥深さ 藩校の精神や誇り
与板街あるき	12	12	1		小路や町並みの歴史
福祉保育実習	13	11			相手の気持ちを理解する必要性

上記の活動や正徳館サポーターズ・クラブとの活動を通じて、地域との交流や貢献は前進できたと思いますか。

大幅に前進した	着実に前進した	少しは前進した	全く進まなかった
6	10	9	0

4 正徳館フェスティバル（11月3日・4日）

(1) 太鼓芸能集団「鼓童」公演

本校の今後の「地域連携的な教育活動」を周知するために、地域住民を招き、与板中学校と合同の芸術鑑賞を実施した。

当日は本校生徒も含め約600名が参加した。本校の学校案内ビデオの上映に始まり、与板中学校の生徒との合同太鼓体験を加えた90分の「鼓童」の公演を、地域の方とともに楽しんだ。



【鼓童とモザイクアート】

(2) モザイクアート製作（1年）

1年生26人で、1ピース15ミリ平方の色紙を10万枚貼り合わせ、5メートル平方の地元になんだ武将直江兼続の大型モザイクを製作した。



【よいたうまいもの市】

(3) 地場産業についての探究・発表（2年）

地元の産業について学ぶため、与板の打ち刃物工場を有志が訪れ、その工程をまとめ、指導のもと製作した作品を展示した。

(4) 与板うまいもの市（正徳館サポーターズ・クラブ）

正徳館サポーターズ・クラブが地域と学校をつなぐイベントとして企画運営、1年生の販売指導に携わった。事務局のメンバーが、与板の飲食店に出店を募り、12の店舗が商品を提供した。与板の銘品を生徒がPRし、ほぼ完売した。1年生が畑で育てた作物を、3年生が調理、販売した。



【天地人隊とゆるキャラ】

(5) その他の地域連携

- ・地元有志「天地人隊」による演舞の披露（11月4日）
- ・正徳館サポーターズ・クラブおよび「コミュニティールーム1、2」の一般公開
- ・「ゆるキャラと遊ぼう」と題し、地元をPRするために長岡地域5体のゆるキャラが集結した。

5 正徳館サポーターズ・クラブの設立

(1) 「正徳館サポーターズ・クラブ」について

本校同窓生を事務局とし、地域の有志で結成された外郭団体である。現在は、団体としての組織づくり等を行っている。本校の地域と連携した教育活動を支援し、地域と学校をつなぐイベントを企画した。



【1年生への指導

(ハイスクールガイダンス)】

(2) 今年度の活動

以下の活動の中で、本校の1年生を中心に交流を持ち、定期的に指導に関わった。

- ・林間学校で「同窓生との交流会」 平成28年4月11日
- ・長岡ハイスクールガイダンスでの1年生への指導 平成28年8月11日
- ・正徳館フェスティバルで「よいたうまいもの市」のプロデュース 平成28年11月3日

6 県外先進校視察

(1) 目的 今後の学校づくりにおいて核となる活動についての研修

- ・神奈川県地域連携的な教育活動や学校行事の視察
- ・東京都の私立高校における広報活動の工夫

(2) 日時 平成28年7月15日(金)

(3) 訪問校及び記録

○ 神奈川県立鎌倉高等学校

(1) 視察の目的

- ・「かまくら学」の活動について聴取し、学校設定教科「キャリアガイダンス」の学習計画の参考にする。

(2) 参考とした点

- ・神奈川県立鎌倉鎌倉高等学校は、全県屈指の進学校であり、この地に魅力を感じる生徒が全県から通学してきている。そのことを踏まえた独自の学習内容や体験活動について。
- ・「かまくら学」の学習内容と発表活動との関わり。
- ・京都大学との高大接続による「たたら製鉄」の技術を用いた刀作りについて。



【神奈川県立鎌倉高等学校】

○ 神奈川県立岸根高等学校

(1) 視察の目的

- ・神奈川県指定のコミュニティスクール5校中の1つであり、地域と連携した活動を行っている。
- ・地域連携行事について聴取する。

(2) 参考とした点

- ・地域連携で実施する文化祭について。平成27年度は、2日間でのべ6,000人の地元からの参加があった。



【神奈川県立岸根高等学校】

○ 私立京華高等学校(東京都)

(1) 視察の目的

- ・120年の伝統校。充実した広報活動に定評がある。
- ・広報活動の戦略について聴取する。
- ・地域連携行事について聴取する。

(2) 参考とした点

- ・現代の世相を反映し保護者が仕事帰りに参加することができる「イブニング説明会」を実施しており、受験生を持つ多くの保護者が参加している。



【私立京華高等学校(東京都)】

7 イブニング説明会（学校説明会）

視察を受けて、従来の中学生体験入学に加え、本校でも「イブニング説明会」を12月中に2回実施した。中学生と保護者を合わせて12名の参加があった。

- (1) 12月9日（金） 18：00～19：00 参加者 中学生4名 保護者4名 計8名
- (2) 12月16日（金） 18：00～19：00 参加者 中学生2名 保護者2名 計4名

【総合所見】

「セカンドステージ」は、本校が従来大切にしてきた規律の徹底や、キャリア教育に新たなコンセプトを加え、特色ある学校づくりを進めることから始まった。県立教育センターにも御指導いただきながら、今までやってきたインターンシップや保育実習を学校設定教科「キャリアガイダンス」に組み込み、「学習のプロセスの中での体験学習」という位置づけにした。1学年については、次年度の沖縄への修学旅行も、学校設定教科「キャリアガイダンス」と関連した試みを予定している。

「地域連携」をキーワードに、学習や行事をつなげることで、正徳館高校の特色がさらに深化し、地域に貢献できる人材の育成を図ることができるよう今後も真摯に取り組んでいきたい。

○ 課題

(1) 正徳館高校が地域交流の拠点として地域に認識され地域の活性化に貢献すること

初年度として、コミュニティルームの設置や正徳館サポーターズ・クラブの設立など、物理面の充実と組織の立ち上げが最大の目標であった。その点では、十分目標は達成したと思う。

しかし、コミュニティルームの細かな利用方法や制度について、正徳館サポーターズ・クラブの基盤整備については、来年度の課題である。今後も、本校の特色ある教育活動を推進する意味でも、地域とのつながりを深めるため正徳館サポーターズ・クラブとの連携が必要である。

(2) 地域連携・地域貢献の中で、生徒の社会性、発信力が養われること

本校は、今年度から「セカンドステージ」と銘打って、教育活動を刷新した。オンリーワンスクール新潟未来プロジェクトの事業指定を受けたことで、地域連携的な教育活動や学校行事を通じて、多様な世代の地域の方と触れ合い、学ぶ機会を得た。地域の方との触れ合いをとおり、生徒は社会性を養い、改めてコミュニケーションの大切さや、敬意を示し礼を尽くすことの大切さを学んだ。同時に、自己を表現することの大切さや必要性を知ったようである。

今後も、プレゼンテーション等の発表活動をする中で、与板への愛着や自校への誇りを育てていきたい。

(3) 与板町について学ぶことで、生徒の地域理解・地域振興への意識が向上すること

地域連携、地域貢献への一里塚として、まずは地元の地理や歴史を街歩きをとおりて学ぶことにした。地域貢献や地域理解の足掛かりとなることを目指している。

地域との連携で、講師として町歩きボランティアの方や、井伊神社管理者で地元の歴史に詳しい識者から、多くの資料や宝物などを活用し学ぶという貴重な体験をすることができた。そのような意味でも、「よいた学」は地域の方の協力により、成果を得たと感じている。

引き続き地域と連携した学校行事や体験・学習活動を続ける中で、生徒が主体的に地域の方とふれあい、与板という地域への理解や振興への意識を高めていけるよう指導していく必要がある。

高等学校教育課長 様

学番 82 佐渡総合高等学校長

オンラインワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

佐渡総合高校

【テーマ】 「佐渡島活性化プロジェクト SO GOOD」
～地域を守り、地域を活かし、佐渡から発信する学校を作ります～

【目標】

- ① 地域と連携し、環境保護活動をとおして郷土愛を育むとともに、地域の農産物を活用した農産品やオリジナル商品の開発をとおして「買って良かった」、「安心して買える」という地域の声とともに生徒に喜びを与え、物作りへの責任感と母校愛を持てる生徒を育成する。
- ② 地域企業との連携等の活動を通じて、地域社会の一員としての自覚と誇りを持たせ、地域に貢献するとともに地域活性化や地域産業を担う起業家精神と創造性、また将来の地域振興を担える人材を育成する。

【取組の概要】

- ① 模擬株式会社「STACH Island」を設立し、その活動において、佐渡島内の空きスペースを有効活用し、地域と学校の交流拠点を作る。
- ② 地域企業等の連携により、オリジナル商品の開発や製造、販売。
- ③ 佐渡の花「トビシマカンゾウ・イワユリ」の増殖及び地域と連携した植栽活動。
- ④ 佐渡特有の希少植物の保護と増殖・植栽活動。(オオアカバナ、サドオケラ)
- ⑤ 佐渡の原材料を使用したオリジナル商品の開発。
(タケノコ水煮、イチゴ・イチジクジャム、オイスターソース、牡蠣うどん、
佐渡バター餅、黒米食パン、比志保味噌、減農薬栽培米など)
- ⑥ 減農薬減化学肥料米(5割減々米)の生産・販売。

【取組の成果】

模擬株式会社運営や商品開発をとおして、生徒の起業家精神の育成やキャリア意識の向上及び地域振興・地域貢献に対する意識が向上した。また販売実習等で多くの方々と関わることで愛校心を持ち、学校生活における満足度の向上や生徒個人の進路を実現できた。

製品製造実習等による、物作りへの責任や社会的責任を理解し、使用者・消費者の視点で物事を考える態度を養うことができた。

1 模擬株式会社「STACH Island」の取組について

(1) 模擬株式会社「STACH Island」の設立

— STACH Island (スタッチアイランド) —

S (佐渡) T (工業) A (農業) C (商業) H (福祉) Island (島)

5月9日(月) 設立準備委員会

6月9日(木) 設立総会



(2) 模擬株式会社「STACH Island」の活動

7月2日(土) 佐渡PRオリジナルイベント : 新潟市西区 新潟ふるさと村



7月24日(日) キラキラフェスタ : 佐渡市両津 アイポート佐渡



10月9日(日) 朱鷺 夕映え市 : 佐渡市新穂



10月22日(土) 先進校視察 長商フェス 参加 : 長岡市リバーサイド千秋



11月5日(土) 城塚祭 : 佐渡総合高等学校



1月25日(水) 株主総会



(生徒の感想)

- ・ 積極的に声を出したりお客様に笑顔で接することができ、とても良かったと思う。しかし、商品説明でうまく伝わらない場面が何度かあり、商品知識のなさや準備不足だと感じた。各自で自分の役割をしっかりと果たし、仲間との連携プレーもできていた。サドッキー（佐渡市マスコット）は大人から子供まで大人気であった。
- ・ イベントを終えるたびに反省点などが見つかったが、その分得るものがたくさんあったように感じる。販売前は、事前の準備を怠ってはいけないことや、検品作業の重要性を学んだ。販売時には、商品の並べ方や店舗の装飾にも気を遣うことや、ただ大きな声を出すことよりも、親しみやすい雰囲気の方が大事だと思った。そして、お客様に商品を手渡すまで丁寧な作業をしなければならないことなど、全体をとおして販売の難しさを改めて知った。ただ当日に商品を売ることだけが「販売」ではないということを知ることができた。
- ・ 模擬株式会社という形で、不安やプレッシャーを感じることもあったが、改めて地元地域の魅力、地元生産者や企業の努力に気づき、この活動をとおして佐渡の活性化や地域の方々を少しでも勇気づけることができたのではないかと、佐渡の魅力が少しでも多くの方に伝わったのではないかと思う。

2 地域と連携した取組について

(1) 生活福祉系列の取組

○ 佐渡の特産品を使用したスイーツ



地元企業の中川製パン所に協力していただき、佐渡市西三川の特産品であるりんごをふんだんに使用した「りんごクリームシフォンケーキ」を商品化した。

○ 佐渡の食材を使用した認知症予防どんぶり

6月23日 佐渡市健康推進室の栄養士による出張授業を実施

内容：認知症の基本的な知識と佐渡の実情、認知症予防について

7～8月 認知症予防丼「エクサ丼（※1）」のレシピ作成・調理・試食

※1 EXADON（エクサドン）：「エクササイズ」「佐渡」「ドン（太鼓の音）」をあわせた造語

9月 佐渡市エクサ丼アイデアコンテストに作品応募

9月25日 上記コンテストの書類選考通過の4組が実技審査に参加、最優秀賞を受賞



○ オリジナルトートバックの作成

[目的]

各種イベントや城塚祭（文化祭）等で製作したエコバックを販売し、地域の活性化につなげるとともにマイバックの持参を呼び掛け、「環境の島・エコアイランド」を宣言している佐渡市の取組を支援する。

[取組の概要]

全校生徒にオリジナルデザインを公募し、校内選考を行った。選考されたデザインをもとに、エコバックを製作した。イラストのプリント方法について、地元の染色家より指導をうけ、交流を図りながら商品として販売するための条件や責任について学習した。

(2) 農産加工系列の取組

○ 佐渡の花「トビシマカンゾウ、イワユリ」の増殖及び、地域と連携した植栽活動

[取組の概要]

植栽活動 6月14日

この活動は、佐渡一周線道路拡幅工事の為に失った景観を取り戻し、昔のようなカンゾウロードを甦らせたいという想いから平成13年に始まり、本年度で15年目を迎えた。佐渡南ロータリークラブの皆さんとの植栽は平成17年から続けられている。今年度は3年経過苗を350ポット（約1,000本）植栽した。

増殖活動 7月29日 本校カンゾウ採種畑にて種子を採種

8月19日 採種畑にて採種した種子をバットに播種

9月27日 ポリポット（小）に種子苗の鉢あげ（約300ポット）



[取組の成果]

この活動が平成28年度、環境省の地域環境美化功績者表彰を受けた。受賞理由は「トビシマカンゾウ等を増殖させ、地域と連携して植栽活動に取り組むほか、生き物を育む農法等の調査研究、成果の発信による啓発活動に尽力している。」である。



○ 佐渡特有の希少植物の保護と増殖・植栽活動（オオアカバナ、サドオケラ）

・オオアカバナの増殖活動

アカバナ属は日本に13種あるが、オオアカバナは「幻のアカバナ」といわれており、高さ1.5m、花径3cm、夏秋の頃に葉が紅紫色になることからこの名が付いている。分布は青森、会津、能登、佐渡（越後に分布しない）の4カ所に限られ、隔離分布している。

佐渡総合高校では、この希少種を守るため、種子繁殖による苗の定数確保を続けている。

・サドオケラ・イワユリ等の増殖活動

イワユリは盗掘を防ぐための販売活動を目的に行っている。サドオケラは日本で佐渡にのみ自然界に生息する希少種である。本校ではバイオテクノロジーを利用し増殖を行っている。

[取組の概要]

5月13日 サドオケラの茎頂培養

8月19日 本校で採種したオオアカバナの種子をピートバンに播種

9月27日 オオアカバナの鉢あげ

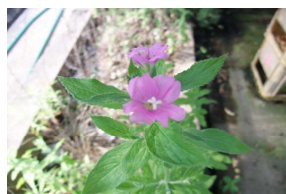
5月13日～11月18日 サドオケラ、イワユリの継代培養



オオアカバナの鉢上げ



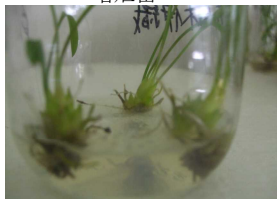
増殖苗



開花の様子



サドオケラ



イワユリ



培養室

[取組の成果]

オオアカバナの植栽活動は、植物を島外へ持ち出される危険があり、本年度は生息地域保護の観点から実施できなかった。しかし、希少な植物であるため今後も増殖を進め、苗の定数確保を行う予定である。また、サドオケラやイワユリのバイオテクノロジーを利用した増殖も、順調に数が増えてきている。次年度は順化を試み、植栽への準備としたい。

○ 減農薬・減化学肥料米（5割減々米）の生産・販売

2011年、佐渡は世界農業遺産（GIAHS）に認定された。認定内容は「トキと共生する佐渡の里山」である。佐渡市はトキの放鳥に向け、減農薬・減化学肥料米（5割減々米）生産を推奨してきた。本校もこの5割減々米生産に取り組み、生産技術も向上している。



[取組の概要]

- 5月9日 田植えを行う
 - 試験区 1 慣行植え区 (50株/坪)
 - 2 疎植栽培区 (37株/坪)
- 9月26日 収穫
- 11月5日 城塚祭（文化祭）で販売



[取組の成果]

米は、特別栽培米として販売した。生徒は、生産から販売までを体験することができ、販売するために係わる法律やラベルの作成等を学ぶことができた。

○ 地域の農産物を活用した農産品やオリジナル商品開発の取組

佐渡の農水産原料を活用した試作品の概要および課題等について

試作品名	試作品概要	課題等
孟宗竹の水煮	佐渡産筍の水煮ビン詰	良質な原料の確保と真空包装による保存
苺ジャム	佐渡産越後姫によるジャム	ペクチンを極力控えたのでゼリー化不足
いちじくジャム	佐渡産ドーフィン種のジャム	皮も利用して色良好
いちじくシロップ漬	未熟いちじく砂糖煮ビン詰	小瓶での製造による販売促進
いちじくゼリー	シロップ漬けの原料を利用	容器の工夫と低糖度の製品製造

試作品名	試作品概要	課題等
わかめジャム	わかめを使ってジャム作り	わかめの量と砂糖・食塩量の調整必要
わかめ佃煮	わかめに調味料を加えて煮	佐渡産わかめの入手方法と保存
わかめ食パン	食パン生地にわかめ混捏	わかめの配合とパン型への生地分量
三升漬	大根・瓜・南蛮・麴の醤油漬	青南蛮の入手方法と調味配合割合
辛味噌ゴボウ	味噌とゴボウの嘗め味噌	利用するゴボウの種類
黒米食パン	食パン生地に黒米を添加	黒米の入手方法とパン型への生地分量
比志保味噌	麦、大豆、麴、餅米の嘗味噌	製造工程の見直し
佐渡バター餅	佐渡バターを使用した餅	餅が硬化しない工夫（米から粉に変更）
キウフルーツシロップ煮	不要キウフルーツの砂糖煮ビン詰	キウフルーツの保存、加工・利用方法
オイスターソース	牡蠣煮汁を濃縮した調味料	原料の確保と製造方法の工夫
牡蠣うどん	オイスターソースの二次加工製品	小麦粉・牡蠣・食塩水量の割合

[次年度に向けての課題や今後の展開等について]

- ・試作品については、季節に対応した原材料の入手が困難な状況があった。レシピについては、今年度試作をふまえて来年度版を作成する。
- ・学校の設備では十分に試作・製造できない場面があった。
- ・地元製菓店の実技講演や佐渡加茂湖再生に向けての取り組みの講演を予定していたが、講師の都合で中止をしなければならなくなった。
- ・今後は今年度の試作品の中から数品目を精選し、完成度の高い製品作りを目指す。
- ・佐渡の各企業との情報交換や連携を深めて、企業の求める製品・消費者が求める製品作りを行いたい。
- ・完成した試食品の殆どが手作りのシールであるので、各々のシールを充実させたい。

3 総合所見

- 模擬株式会社の運営をとおして、商品開発、マーケティング活動、接客対応やマナーなどを実践的に学び、関係機関との連携を進め、商品開発や販売実習を協働して行う場を設定し、他者との関係をとおして実践的な学び合い活動を行うことを目的に行った。このような取組により、生徒が自らの専門性を発揮し、学習内容をより確かなものにすることが期待できる。
キャリア教育の観点からも、他者を理解し、自分の意見をしっかりと提案できる望ましい人間関係を築き、将来の地域社会に貢献できる人材育成につなげたい。
- 本校生徒が専門学科で学習した知識や技能を、多くの場で発揮し、試行錯誤する姿がうかがえた。生徒の責任感が強まり、専門性を育む良い機会となった。
- 「地域と学校の交流拠点」をイメージし将来像の検討を行い、次年度のできるだけ早い時期から展開したい。
- 外部講師を招き、生徒及び教職員の研修の機会を増やすことが課題である。新しい知識を増やし、現在のノウハウのアレンジを行い、地域の要望や市場に対応できる力を育みたい。
- 生徒役員の後継者の育成が課題であり、地道な指導や運営ノウハウの伝授(教職員も含め)、より強固な系列間連携の検討を早急に進めなければならない。
- 食品販売における社会的責任意識の向上及び食品衛生や食品表示に関する知識・理解の為の研修・講演を実施し、生産担当だけでなく、流通・販売を担当する教職員と生徒が徹底した管理能力を身に付ける必要がある。